

博士論文

認識モダリティ表現に関する日本語と韓国語の対照研究
— 韓国人日本語学習者のための教材作りの基礎として —

権城

広島大学大学院国際協力研究科

2012年9月

目 次

第 1 章 序論

1.1 研究の動機と目的	1
1.2 研究対象	2
1.3 研究の方法と論文の構成	11
1.3.1 研究の方法	11
1.3.2 論文の構成	13

第 2 章 先行研究

2.1 「だろう」の先行研究	15
2.2 「かもしれない」の先行研究	24
2.3 「はず」の先行研究	30
2.4 「ㄹ(지)(gess(ji))」「ㄷ(것(1-geos))」「잡(janh)」の先行研究	39
2.5 テキストでの文法説明	53

第 3 章 誤用調査

3.1 日本語の「だろう」「かもしれない」「はず」についての調査	57
3.2 「かもしれない」についての韓国人日本語学習者の誤用調査	62

第 4 章 シナリオの分析

4.1 「ㄹ(gess)」「ㄹ지(gessji)」「ㄷ(것(1-geos))」についての調査	65
4.2 「ㄹ지(gessji)」と「ㄷ(것(1-geos))」についての調査	66
4.3 分析の概要	70
4.4 考察	71
4.4.1 事態の場合	71
4.4.1.1 話し手が情報を得にくい場合	71
4.4.1.1.1 「だろう」文	71
4.4.1.1.2 「かもしれない」文	74
4.4.1.2 話し手が情報を得やすいと考えられる場合	77
4.4.1.2.1 「だろう」文	77
4.4.1.2.2 「はず」文	79
4.4.1.3 話し手がある程度情報を得られると考えられる場合	82
4.4.1.3.1 「だろう」文	82
4.4.1.3.2 「かもしれない」文	83
4.4.1.3.3 「はず」文	86
4.4.2 一人称の場合	89
4.4.2.1 情報を得にくいと考えられる場合	89
4.4.2.1.1 「だろう」文	89
4.4.2.1.1.1 一人称の事態	89
4.4.2.1.1.2 「かもしれない」文	90
4.4.2.1.2.1 一人称の事態	90

4.4.2.1.3 「はず」文	92
4.4.2.1.3.1 一人称の事態	92
4.4.2.2 情報を得やすいと考えられる場合	93
4.4.2.2.1 「かもしれない」文	93
4.4.2.2.1.1 一人称の考え	93
4.4.2.2.1.2 一人称の感覚・感情	95
4.4.2.2.1.3 一人称の過去の考え	98
4.4.2.2.1.4 一人称の過去の感情	98
4.4.2.2.1.5 一人称の過去の意志的な行動	99
4.4.2.2.2 「はず」文	100
4.4.2.2.2.1 一人称の過去の意志的な行動	100
4.4.2.3 ある程度情報を得られると考えられる場合	100
4.4.2.3.1 「かもしれない」文	101
4.4.2.3.1.1 一人称の過去の意志的な行動	101
4.4.2.3.1.2 一人称の過去の事態	101
4.4.3 二・三人称の場合	104
4.4.3.1 情報を得にくいと考えられる場合	104
4.4.3.1.1 「だろう」文	104
4.4.3.1.1.1 二・三人称の考え	104
4.4.3.1.1.2 二・三人称の感覚・感情	106
4.4.3.1.1.3 三人称の過去の考え	107
4.4.3.1.1.4 三人称の過去の感覚・感情	108
4.4.3.1.2 「かもしれない」文	109
4.4.3.1.2.1 二・三人称の考え	109
4.4.3.1.2.2 三人称の感覚・感情	110
4.4.3.1.2.3 三人称の過去の意志的な行動	111
4.4.3.1.3 「はず」文	112
4.4.3.1.3.1 二・三人称の意志的な行動	112
4.4.3.2 情報を得やすいと考えられる場面	113
4.4.3.2.1 「はず」文	113
4.4.3.2.1.1 二・三人称の事態	113
4.4.3.2.1.2 三人称の意志的な行動	115
4.4.3.2.1.3 三人称の過去の事態	115
4.4.3.2.1.4 二人称の考え	116
4.4.3.2.1.5 三人称の過去の考え	119
4.4.3.3 ある程度情報が得られると考えられる場合	121
4.4.3.3.1 「だろう」文	121
4.4.3.3.1.1 三人称の意思的な行動	121
4.4.3.3.1.2 三人称の過去の意志的な行動	121
4.4.3.3.1.3 二・三人称の事態	122
4.4.3.3.1.4 二人称の過去の事態	123
4.4.3.3.2 「かもしれない」文	124
4.4.3.3.2.1 三人称の事態	124

4.4.3.3.2.2三人称の意志的な行動	125
4.4.3.3.2.3二人称の過去の意志的な行動	126
4.4.3.3.2.4三人称の過去の事態	127
4.4.3.3.2.5二人称の事態	127
4.4.3.3.3「はず」文	128
4.4.3.3.3.1三人称の考え	128
4.4.3.3.3.2二人称の過去の考え	129

第5章 語用論的な意味からの考察

5.1「だろう」文	133
5.2「かもしれない」文	140
5.3「はず」文	145

第6章 教材作りの基礎としての提案

6.1推量用法の場合	149
6.1.1ある事態について推測する場合	149
6.1.2一人称の場合	151
6.1.3二人称の場合	151
6.1.4三人称の場合	153
6.2語用論的な意味が出てくる場合	153
6.2.1「だろう」の再認識化	154
6.2.2「かもしれない」の婉曲と表明回避や責任回避	154
6.2.3「はず」の再認識化	155

第7章 結論と今後の課題

7.1推量用法で使われている場合の日本語の三つの形式の共通点	156
7.2推量用法で使われている場合の日本語の三つの形式の相違点	156
7.3日本語の三つの形式と韓国語の「ㄹ(ress)」 「ㄹ지(ressji)」 「ㄹ 것(1-geos)」 「지도 모르다(jidomoreuda)」の相違点	158
7.4語用論的な意味が出てくる場合の日本語の三つの形式の相違点	159
7.5語用論的な意味が出てくる場合の日本語の三つの形式と韓国語との相違点	160
7.6今後の課題	161

参考文献	163
------	-----

謝辞	168
----	-----

第1章 序論

1.1 研究の動機と目的

日本語学習者(韓国人日本語学習者だけでなく日本語を外国語として習っている学習者)が日本語の推測表現を習う際に「ようだ」と「らしい」が最も難しい表現であると言われていたが、以下のような学習者の誤用例を見ると、「ようだ」「らしい」だけではなく他の形式(特に「だろう」「かもしれない」「はず」との混同も見られる。

誤用例1) 李さんがこれを見たらきっとほしがるにちがいない(→だろう)。

市川保子(1997:30)

誤用例2) 姿から見て、あの先生は小林先生かもしれない(→にちがいない)

誤用例3) 今、息子は二歳で、これからは教育を受けるじきだが、来年帰国すれば、多分遅れないかもしれない(→だろう)。

市川保子(2005:35)

誤用例4) 空がくもっているから、雨がふるはず(→にちがいない/だろう)。

市川保子(1997:67)

誤用例5) かなりひどい台風だから、彼はこないはず(→にちがいない/のだろう)だ。

市川保子(2005:154)

大島(1993:97)では、日本語学習者(韓国人と中国人)がモダリティの表現(「だろう」「かもしれない」「ようだ」「みたいだ」「らしい」)をどのように習得しているのかを見ているが、日本人が推量の形式を選択する例文にあっても、学習者は「確言」を選択する場合があります、また「だろう」と「かもしれない」の区別が日本人ほどには明確でないとしている。また、日本人が「だろう／かもしれない」か「ようだ／みたいだ／らしい」のグループを使い分けている例文で、学習者は両者を混同している場合があるとしている。大島(1993)の結果から見ると、日本語学習者は「ようだ」「らしい」だけではなく、他の認識モダリティ表現についても理解しておく必要があると言える。

テキストの文法説明では確信度の高いか低いかの説明が多いが、上のような誤用例は確信度の強弱だけでは誤用の説明が付かないようである。

「だろう」と「かもしれない」と「はず」のテキストでの文法説明は学習者にとってどのようなところが似ていてどのようなところが異なるのかが理解しにくいと思われる。例えば、次は『みんなの日本語初級Ⅱ』での文法説明であるが、どの形式もある根拠を持って推測するという点では同じであるため学習者は三つの形式の違いが分からないと思われる。

「だろう」：ある事柄について、話し手は自分が持っているある情報に基づいて推測する際に使う。疑問文で使われると、聞き手の推測を尋ねる質問になる。

「かもしれない」：「だろう」と同じく、自分の主観による単純な推量を表す。「だろう」との違いは、その推量の妥当性についての確信の度合いが低いことであろう。

「はず」：話し手がある根拠に基づいての判断を確信して言うときに使われる。

そこで、日本語の「だろう」「かもしれない」「はず」の形式の本質である推測という観点から同じ推測でありながらどのような点で異なるのかを考察し、広がった用法にはどのような用法があるのかを考察していく。

また、「だろう」「かもしれない」「はず」とこれらに対応している「ㄹ(ress)」 「ㄹ지(-ress-ji)」 「ㄷ 것(-l geos)」 「지도 모르다(-ji(d o) moleuda)」 「잖(-janh-)」という韓国語の形式を比較して日本語の三つの形式と韓国語の五つの形式の共通点と相違点を考察する。また、テキストでの文法説明の問題点を探り、初・中級学習者が分かりやすい教材作りの際に基礎となる部分を提案することを目的とした。

1.2 研究対象

対照研究にあたって、まず日本語と韓国語の認識モダリティについて見てみることにする。

仁田(2009:19-20)では、日本語の文の基本的な意味—統語構造として、図1のような構造を仮定し、以下のように述べている。

図1 日本語文の基本的な意味 - 統語的な構造

命題	モダリティ
----	-------

<命題>と<モダリティ>という質的に異なって二つの部分(構成要素)が存在し、さらに、モダリティが命題を包み込む、という層状の構造にあるものと考えている。ただ、この層状構造は、形態連鎖という線状的なレベルのものとして捉えられるものではなく、意味や機能の働き方・作用領域の大小・広狭といった立体的なレベルのものとして捉えなければならないものである。でなければ、「行きません」や「行きました」という形態連鎖をとらえ、<ていねいさ>が否定されたり過去になったりする、ということになりかねない。反しての聞き手に対する述べ方の待遇的な態度である、ていねいさが、今聞き手に向かって文を発していることからして、存在しなかったり過去のものであったりするのではない。

文の基本的な意味—統語構造を形成する二つの部分である、命題とモダリティは、概略、<命題>とは、話し手が外在世界や内面世界—現実—との関わりにおいて画き取ったひとまとまりの事態、文の意味内容のうち客体化・対象化された出来事や事柄を表した部分である。

<モダリティ>とは、現実との関わりにおいて、発話時に話し手の立場からした、文の対象的な内容(命題内容)に対する捉え方、および、それらについての話し手の発話・伝達的な態度のあり方を表した部分である。

また、モダリティには、<発話・伝達のモダリティ>と<事態めあてのモダリティ>があるとし、以下に述べている。

<発話・伝達のモダリティ>とは、言語活動の基本的単位である文が、どのようなタイプの発話・伝達的な役割・機能を担っているのかといった発話・伝達の機能類型や、発話時における話し手の発話・伝達的な態度のあり方を表したものである。

<事態めあてのモダリティ>とは、文に描き取られている対象的な内容(命題内容)に対する、発話時における話し手の把握のあり方・捉え方を表したものである。と説明され規定されることになるものである。

さらに、仁田(2009:97-113)では、次のように述べている。

《命題めあてのモダリティ》とは、話し手の命題(言表事態)に対する把握のあり方・捉え方を表したものである。また、命題めあてモダリティを、認識(epistemic、判断)のモダリティと当為評価(deontic)のモダリティの二類に分けておく。

《認識のモダリティ》とは、文の内容である事態を、話し手がどのような認識的な態度・あり方で捉えたのか、といったことを表したものである。言い換えれば、事態成立に対する話し手の認識的な捉え方の表示である。

《判断のモダリティ》とは、内容の成立に話し手自らの判定作用が関わっているタイプを、《判定(類)》と仮称し、それらを表すモダリティを《判定のモダリティ》と名づけておく。

判定のモダリティには判定と疑いがある。明日は晴れる{かな／かしら／だろう}のような文が、《疑いのモダリティ》を帯びた文である。疑いのモダリティを表す形式には、「カナ」「カシラ」「ダロウカ」などがある。疑いは、命題めあての、しかもその下位的タイプである認識のモダリティの一種である。さらに、命題内容に対する話し手自身の認識的な捉え方を表したのであり、したがって、伝聞ではなく、通例の判断のモダリティの一種である。ただ、他の判定のモダリティ全体とは、大きく異なっている。「明日は晴れる。」「明日は晴れるだろう。」「明日は晴れる{かもしれない／にちがいない}。」「どうやら明日は晴れる{ようだ／らしい}。」といった、他の判定のモダリティ形式は、何らかのあり方で、命題内容を話し手自らの認識・判定作用によって成立させている。それに対して、《疑い》は、話し手が、自らの認識・判定作用によって命題内容を成立させようとするのではあるが、情報が不十分であったり、不確かであったりして、最終的にはその成立を断念する、といった事態に対する認識的な捉え方を表したものである。他の判定のモダリティがすべて判定の成立を表しているのに対して、疑いは判定放棄を表している。判定には確信と概言があつて概言には推量と蓋然性判断と徴候性判断がある。

次は韓国語のモダリティについて見てみることにする。嚴女(2010:2-3)では、以下のように述べている。

一般的に様態(modality)は命題に対する話者の心理的な態度を表わす。様態が話者の心理的な態度を表わし、相互的な意味を伝達する文法的な手段であるため様態は極めて主観的で正確性よりは適切性を求める文法範疇であると言える。

様態は時制(tense), 相(aspect)などと共に様々な言語から普遍的に現れる凡言語的な文法範疇である。従って、様態に対する研究は時制表現や敬語などと同様

に言語教育において必須的な要素である。また、様態は韓国語でアクセントや抑揚のような超分節的要素から形態素、単語、句で構成された表現に至るまで多様な形式に現れる。ここで「表現」とは、形式つまり、複合構成で様態の意味を表す文法形式は形態の数ほど微細な意味の違いを持ってお互いに区別されて使用され、実際の発話状況で丁寧な拒絶や要請、提案、命令など丁寧さが加えられた話行(言語行為)機能を遂行する。そのため様態表現の適切な使用は学習者が求める発話効果が得られて母語話者との誤解のない円滑な意思疎通を促進する。韓国語の様態意味が実現される様相をまとめてみると次のようになる。

韓国語の様態意味の実現様相

①超文節的な要素：アクセント、抑揚

形態的要素

終結語尾：-구나(-guna), -군(-gun), -네(-ne), -지(-ji), -르 걸(-l geol), -르 래(-llae)……

先語末語尾：-겠(-gess), -더(-deo), -리(-li)……

補助詞：조차(jocha), 마저(majeo), 까지(kkaji), (이)나((i)na), (이)나마((i)nama), (이)야((i)ya)……

②語彙的要素

用言：추측하다(chucheughada), 생각하다(saenggaghada), 믿다(midda), 틀림없다(teullim-eobsda), 확실하다(hwagsilhada)……

副詞：정말(jeongmal), 반드시(bandeusi), 확실히(hwagsilhi), 아마(ama), 부디(budi), 다행히도(dahaenghido)……

③統辭的要素：語順(文章成分の倒置)

複合構成：「-(으)ㄴ/는/(으)ㄴ 것 같다(-(eu)n/neun/(eu)l geos gatda)」, 「-(으)ㄴ/는/(으)ㄴ 모양이다(-(eu)n/neun/(eu)l moyang-ida)」, 「-(으)ㄴ가/는가/나 보다(-(eu)nga/neunga/na boda)」, 「-아/어/여야 하다(-a/eo/yeoya hada)」, 「-았/었/였으면 하다(-ass/eoss/yeoss-eumeyon hada)」, 「-려고 하다(-lyeogo hada)」, 「-(으)ㄴ까 싶다(-(eu)lkka sipda)」, 「-(으)ㄴ/는/(으)ㄴ지 모르다(-(eu)n/neun/(eu)l-ji moleuda)」……

以下も巖女(2010:20-21)の説明である。

張京姫(1998:262-265)では、範疇の領域と名称は観点によって異なるが、話者の心理的な態度が命題の伝達方式を表す「通報的態度」と命題の事実性に対する「認知的態度」という領域に区分されるとしている。張京姫(1998)は「叙法」を上位の範疇とし、認知的態度を「様態法」で、通報的態度を「意向法」で範疇化することを主張している。筆者は張京姫(1998)の論議に従って様態と意向法(文章終結法、文体法)を別個のとして区別する。つまり、「意向法」は終結語尾に頼って話し手が聞き手意向を表しながら文を終結する文法範疇で、「様態(法)」は先語末語尾や終結語尾、語彙的手段、語順、語調などに頼って話し手が命題に対する態度や観点を表わす文法範疇としてみることにする。

とし、様態については様々な定義があるが、「命題に対する話者の態度」という定義から大きく離れないとしている。また、様態の最も基本的な属性は「主観性」であるとし、様態は話者の主観的な判断によってその使用有無を決定することができる特性を持っていると述べている。

以下も巖女(2010:22-26)の説明である。

様態は可能性と必然性の意味を表わせる属性を持っている。伝統的に認識様態の意味領域に言語学者らは「確実性の程度」を挙げている。話者が自身の情報を確実なこととして言っているのか、不確実なこととして言っているのかが確実性、蓋然性、可能性の観点から記述することができる。

また、認識様態の範疇的な地位が比較的明確であるのに対し、認識様態を除いた部類の様態については分類方法から用語に至るまで殆ど合意が成立されていないとし、様態を認識様態と非認識様態に分けるとしている。そして、認識様態は命題内容の事実性に対する話者の判断であるためここには命題実現の可能性判断と関連した「推測」、命題内容が当然であるという判断と関連した「当然」、命題がある結果に近接であるという判断と関連した「近接」などの意味で下位分類することができると述べている。

このように、日本語の認識のモダリティと韓国語の認識様態は殆ど同じであると言える。その中で疑いを除いた推測に関わる形式の中でも「だろう」「かもしれない」「はず」を中心に考察していくことにする。

寺村(1984:226-265)によると、ダロウは元来ダの推量形で、その性質を保ちつつ、助動詞として独立の用法をもつようになったものであるとして

いる。現代語では、-ô, -yôという活用形は、意志動詞の場合は意向、勧誘を表し、その他の動詞、形容詞およびdarôの場合は推量を表わすのがふつうになったとしている。

また、「かもしれない」については、助詞二つと動詞の否定形が結びついて一語の助動詞化した、いわゆる組立て式の助動詞であるとしている。

また、「はずだ」については、「形式名詞＋形式動詞(または指定助動詞)ダ」として扱われてきたものであるとしている。これは、たしかに元来は名詞を、前接するコトの形が修飾している形、つまり、連体節＋被修飾名詞が、ダと結びついたものにちがいない。しかし、意味的に見ても、シタクスの面から見ても、もはやふつうの「連体節＋名詞＋ダ」とは到底同一視できない多くの特徴をもつとし、「はずだ」をムードの助動詞として扱っている。

次はこのような日本語の形式は韓国語のどの形式に対応することができるのかを見してみる。

서민욱(1999:4)では「-ㄹ-(-gess-)」は主に「未来」という時制範疇として論議されていたが、最近になって「推定、意図」を表す叙法の範疇として研究されているとしている。また、서민욱(1999:10-11)では、以下のように説明している。

周時經(1910)は「-ㄹ-(-gess-)」を「未来」を表示する未来時制形態素として見て、「推測の意味」を表わすとしている。朴勝彬(1935)では、未来時相という用語を使用しているが、内容上では未来時制形態素とし、その意味は「有意志・無意志未来、可能、推量」を表すとしている。申昌淳(1975)では、「ㄹ(-gess)」の機能について客観的な可能性の推量ではなく、話し手の主観的な、推断した見解を表すとし、その機能を「推断」と「意図」に分けて見るのはいいが、「意図」という機能は特殊な場合であるため大きくは「ㄹ」の中心的な意義(つまり、「推断」)の中に内包されるとしている。

「ㄹ(-gess)」を時制で範疇化している研究が多いが、その意味についての説明を見ると、「様態」として認識していることが多い。そこで、本稿では日本語の「だろう」を韓国語の「ㄹ(-gess)」に対応させて考察することにする。

また、金東郁(1999:138-142)では「ㄹ(-gess)」は唯一の単一形態素であ

るということもあって、「다(-da)」以外の結語語尾と共に用いられることが、他の推量形式に比べて断然多いとし、特に「지(-ji)」と結合して「졌지(-gess-ji)」の形で用いられることが多いと言っている。「지(-ji)」は「確認叙述文」や「確認疑問文」を作る「終結語尾」であるが、「졌지(-gess-ji)」は聞き手から情報を引き出すのが主眼ではなく、話し手が自分の推量判断について確信を持つのが本来的な目的であって、そのために聞き手に確認をするといった形式的な手順を踏むだけであるとしている。金東郁(1999)から「졌지(-gess-ji)」も「だろう」に対応できる形式として見ることにする。

次に「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」について、이미혜(2005:68)では、「-(으)리지 모르다(-(eu)lji moleuda)」は補助詞が結合された「-(으)리지도 모르다(-(eu)lji(do) moleuda)」で指示したり、推測の形態素「-졌(-gess-)」が結合された「-(으)리지 모르겠다(-(eu)lji moleugessda)」で提示されているとしている。また、「-(으)리지 모르다(-(eu)lji moleuda)」事態が不確実な推測の意味で使用されるので「-졌(-gess-)」や補助詞「-도(-do-)」の結合形は選択事項であるとしている。

이선영(2006:24-25)では、「-(으)리지 모르다(-(eu)lji moleuda)」を漠然とした疑問の意味を持つ「-(으)ㄴ/는/(으)리지(-(eu)n/neun/(eu)lji)」に知らないという意味を持つ「모르다(-moleuda)」が結合された形態であるとし、漠然とした疑問に知らない話者の態度まで加えられて話者の発話内容についての確信は低い程度を表わすことになるとしている。また、{-(으)ㄴ/는/(으)리지 모르다(-(eu)n/neun/(eu)lji moleuda)}は推測の意味以外に心配の意味も表わすとしている。

例1) a. 그런데 ^{ところで チケットがあるか 分かり} 표가 있을지 ^{ません} 모르(-ji moleu-)겠어요.

b. ^{クレジットカードは申告して} 신용카드는 신고했고, ^{現金カードは戻って来るかも} 현금카드는 돌아올지도 ^{知れない} 모르 (-

ji(do) moleu-) ^{から 少し 待って みます}니까 조금 기다려 보려고요. ^{前にも そんな ことが} 전에도 그런 적이

あったんです
있었거든요.¹⁾

이선영 (2006:25)

例1a)はチケットがないのを心配している意味であり、例1b)は戻ってくるかもしれないという推測の意味であるとしている。これは「-(으)ㄴ/는/(으)ㄴ지 모르다(-(eu)n/neun/(eu)lji moleuda)」に「도(-do)」が介入可能なのかのテストによって簡単に区別できるとしている。しかし、以下の例では少し異なる。

例2) a. ^{クレジットカードは 申告して 現金カードは 戻ってくるかも 知れない}
신용카드는 신고했고, 현금카드는 돌아올지도 모르 (-ji(do)

moleu-)니까 조금 기다려 보려고요. ^{前からそんなことが あったんです}
전에도 그런 적이 있었거든요.

b. ^{クレジットカードは 申告して 現金カードは 戻ってくるか 知れない}
신용카드는 신고했고, 현금카드는 돌아올지 모르 (-

ji(do) moleu-)니까 조금 기다려 보려고요. ^{前からそんなことが}
전에도 그런 적이

あったんです
있었거든요.

이선영 (2006:25)

例2a)で「도(-do)」を省いた例2b)になっても意味の変化はないとし、「도(-do)」を入れたり省いたりしたとき二つの文の意味が同じであればその文で使われた「-(으)ㄴ/는/(으)ㄴ지 모르다(-(eu)n/neun/(eu)lji moleuda)」は推測で見ることができ、意味が変わった場合には主に「도(-do)」がない場合「-(으)ㄴ/는/(으)ㄴ지 모르다(-(eu)n/neun/(eu)lji moleuda)」が心配の意味で使用されるとしている。

이순룡 (2011:50)では、「-(으)ㄴ지 모르다(-(eu)lji moleuda)」は語尾「-(으)ㄴ지(-(eu)lji)」と動詞「모르다(-moleuda)」が結合した形態で推測の意味を表わすとし、「-(으)ㄴ지 모르다(-(eu)lji moleuda)」は「모르다(-moleuda)」の「알지 못하다(不知)」という意味が拡張されてある状況や事態について不確実な態度を表わすとしている。また、이기중 (1996:243-245)では「-(으)ㄴ지 모르다(-(eu)lji moleuda)」について事態に対す

¹⁾ 韓国語の引用文で日本語訳がないか日本語訳が必要と判断した場合には分ち書きに従って翻訳して問題となっているところはローマ字にする。

る可能性であると見て可能世界に対する選択の意味を持っているとしている。성미선(2009:25-26)では、「-(으)ㄴ지 모르다(-eu)lji moleuda)」は「-(으)ㄴ(-eu)l)」と依存名詞「-지(-ji)」と動詞「모르다(-moleuda)」が結合された文型であるとし、推測を表わすとしている。また、성미선(2009)では、이기중(1996)の意見に同意し、「-(으)ㄴ지도 모르다(-eu)lji (do) moleuda)」が「-(으)ㄴ 것이다(-eu)l geos-ida)」に比べて確信の程度が低いことが分かるとしている。そこで本稿では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」で表記し、日本語の「かもしれない」を韓国語の「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」に対応させて考察することにする。

次に「ㄴ 것(-l geos)」について、김태엽(1990:179)では、依存名詞「것(-geos)」の意味機能については「推定」と「命令」と「強調」と「推測」があるとし、「ㄴ 것(-l geos)」の比較について論議される研究が多いとしている。이순룡(2011:33-34)では、「-(으)ㄴ 것이다(-eu)-l geos-ida)」は冠形詞形語尾に依存(形式)名詞「것(-geos)」が来てさらに「이다(-ida)」が結合されたもので命題の実現可能性について断定的な推測の意味を表わしたり、文脈によって意志を表わしたりしている。

また、한명주(2006:1-2)では、以下の例文を出して「ㄴ 것(-n geos)」と「ㄴ 것(-l geos)」について述べている。

例3) a. ^{チョルスが 食べる ものを 持ってきた} 철수가 먹을 것을 가져왔다.

b. ^{今日は 雨が 降る} 오늘은 비가 올 것이다(-l geos-ida). 한명주(2006:1)

例3a)で形式名詞「것(-geos)」は先行要素として冠形詞形語尾の「-ㄴ(-l)」を要求して文で目的語として機能し、対象を意味するとしている。しかし、例3b)で形式名詞「것(-geos)」は未実現の冠形詞形語尾「-ㄴ(-l)」を先行要素として要求して後行要素として繫辭「이-(i-)」と結合してその構成全体が文で叙述機能をするとし、このとき「-ㄴ 것이(-l geos-i-)」構成全体が推測という様態の意味を表わすとしている。そして、「것(-geos)」という形式名詞の構成が様態の意味を表わすときには先行要素として「-ㄴ(-n)」と「-ㄴ(-l)」が来るとし、「-ㄴ(-n)」は既実現、断定の意味

を「-ㄷ(-l)」は未実現、推測、可能、価値、制限、意志の意味を表わすとしている。本稿でも依存名詞「것(-geos)」に未実現の冠形詞形語尾「ㄷ(-l)」が来て様態を表わす形式として扱うことにし、「ㄷ 것(-l geos)」と表記する。また、「것(-geos)」が依存名詞(形式名詞)がであることから日本語の「はず」を韓国語の「ㄷ 것(-l geos)」に対応させて考察することにする。

最後に「-잖(-janh-)」について今までの先行研究では、形態的構成について多く論議されているようであり、大きく二つの見解に分けられる。一つ目は「-잖(-janh-)」の本来の形式である「-지 않(-ji anh-)」が否定疑問形式である「-지 않(-ji anh-)」と同一であると見る見解で、二つ目は否定疑問形式の「-지 않(-ji anh-)」ではなく別の文型から成り立たと見る見解である。後者の見解は「-지 않(-ji anh-)」を終結語尾の「-지(-ji)」と否定の意味を持たない「않(-anh-)」の構成で見ている。

손세모돌(1999:213-240)は「-잖(-janh-)」が否定と確認の二つの意味機能を持っているとし、否定の意味機能を表わす「-잖(-janh-)」は「-지 않(-ji anh-)」の単純な音韻論的な縮約形であり、確認の意味機能を表わす「-잖(-janh-)」は先語末語尾で文法化された独立形態素であるとしている。本稿では손세모돌(1999)の意見に同意にして「잖(-janh-)」で表記することにする。손세모돌(1999)から、確認の意味を持っている「-잖(-janh-)」は確認や同意要求用法の「だろう」に近い意味を持っていると考えられる。

1.3 研究の方法と論文の構成

1.3.1 研究の方法

先行研究では日本語の三つの形式について例文を挙げながら説明しているが、学習者がどの用法でどう間違っているのかを見ておかないと、結局学習者が理解して自然に使えるような説明をテキストに盛りこむのが難しいと考えられる。そこで、韓国人日本語学習者は「だろう」「かもしれない」「はず」が学習出来ているのかと学習出来ないならどのようなところで間違っているのかを見るため誤用調査を行った。また、「かもしれない」文で「だろう」を使ってもいいような例文を材料にし、学習者は可能性を表す用法から広がった用法が学習出来ているのかどうかの調査も行った。

次に韓国語の「ㄹ(-gess)」「ㄹ지(-gess-ji)」「ㄷ 것(-l geos)」の違いをみるため韓国人母語話者に場面を設定してその場面でどの形式が一番自然でどの形式が一番不自然なのかを判断してもらい、そう判断した理由も聞いてコメントをもらった。また、「ㄹ지(-gess-ji)」「ㄷ 것(-l geos)」の違いのところを見るため、一つの文で二つの形式が自然に使われている文を韓国人母語話者に見せてそれぞれの形式が使われるとどのようなニュアンスになるのかを聞いてみた。これらの調査に基づいて日本語と韓国語の対照考察を行った。

そして、日本語についての先行研究では実例が少なく殆どが作例であるため、実際に日本人が使っている自然な日本語を対象にする必要があると考え、自然な日本語の中でも会話文を中心にみるためドラマの台本から用例文を取り出し考察することにした。台本はドラマのシナリオを載せているインターネットから収集したもので内容によってある特定の日本語がよく使われる傾向があると考えられ、様々な内容の作品を選択した。その作品は韓国で放送されたことがある作品か韓国人が見た日本のドラマで順位が高い作品を選択した。ドラマの作品は以下のようになる。また、韓国語は日本のドラマを翻訳して載せているインターネットサイトから収集した。作品は以下のとおりである。

「1 リットルの涙」「ガリレオ」「アラウンド 40」「アンフェア」「薔薇のない花屋」「ブラッディマンディ」「鹿男」「トップキャスタ」「クロサギ」「結婚できない男」「僕の歩く道」「のだめカンタービレ」「東京湾景」「ドラゴン桜」「ラストフレンド」「ルキーズ」「眠れる森」「ブラザフィット」「セラー服と機関銃」「スマイル」「パパとムスメの7日間」「氷の世界」「エンジン」「流星の絆」「離婚弁護士 2」「絶対彼氏」「銭ゲバ」「プロポーズ大作戦」「華麗な一族」「ヒーロー」「チェンジ」「僕の妹」

日本のドラマの台本(32 本)から日本語の三つの形式が推量用法と語用論的な意味が出てくる場合の文を全部取り出した。また、推量用法で使われている日本語の三つの形式に対応していると想定した韓国語の「ㄹ(지)(-gess(ji))」「ㄷ 것(-l geos)」「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」の文を中心に対照考察を行った。実際に韓国語では主に5つの形式で翻訳されていた。

「だろう」が使われている文は 2026 文で翻訳されている韓国語の形式は「ㄹ(지)(-gess(ji))」が 293 文で「ㄷ(것(-l geos))」が 238 文で「지(-ji)」が 216 文で「잖(-janh-)」が 719 文であった。

また、「かもしれない」が使われている文は 905 文で韓国語の「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」で翻訳されている文は 798 文であった。

「はず」が使われている文は 379 文で翻訳されている韓国語の形式は「ㄹ(지)(-gess(ji))」が 17 文で「ㄷ(것(-l geos))」が 148 文で「잖(-janh-)」が 25 文であった。

そして、テキストでの典型的な例文を見ると、ある出来事や事態についての推測が多いようであり、推測ということは様々なことに対して出来ると思われる。先行研究でもよく確信度の強弱などの説明があるが、確信度ということは話し手が持っていることでそれを持つためには話し手は知識や経験や話し手の中での根拠などが必要となると考えられる。つまり、話し手がどのような情報をどの程度持っているのかが問題になると思われる。また、学習者の誤用例を見ると、ある事態についての推測だけではなく、他人のことを推測している場面が多かった。つまり、学習者が誤用を犯す理由としてある事態の捉え方だけでなく、聞き手や他人のどのようなことについて推測しているのかがあると考えられる。また、認識モダリティとは事態成立に対する話し手の認識的な捉え方の表示であるが、聞き手や他の人のことについて推測する際に間違った表現を使うと不自然な会話になる可能性があると考えられる。そこで、情報と人称を考慮して考察することにした。

また、取り出した各形式が使われている用例文を日本語母語話者に読ませて他の二つの形式に置き換えられるのかどうかを判断してもらい、置き換えられないときと置き換えられるがニュアンスが変わる場面ではその理由を聞いてコメントをもらった。これを中心に各形式が使われている各場面で韓国語ではどの形式が使われているのかを見て対照考察を行った。

次に日本語の三つの形式で語用論的な意味が出てくる場合の例文を挙げて三つの形式はどう似ていてどう異なっているのかを見た。また、韓国語との対照では主に「지(-ji)」と「잖(-janh-)」を中心に考察を行った。

1.3.2 論文の構成

第 1 章では 研究の動機と目的を述べ、日本語と韓国語の研究対象について説明した。また、研究方法と論文の構成について説明する。

第 2 章では、日本語の三つの形式と韓国語の「ㄷ(지)(-gess(ji))」「ㄷ
것(-l geos)」「ㄷ(-janh-)」の先行研究からどういう問題点があるのかを
探る。また、教科書では日本語の三つの形式がどのように説明されてい
るのかを見て問題点を探る。

第 3 章では韓国人日本語学習者が日本語の三つの形式が学習出来てい
るかどうかを見るために誤用調査を行う。

第 4 章では韓国人日本語学習者は日本語の「だろう」「かもしれない」
「はず」が学習出来ているのかどうかを見るために三つの形式について
の誤用調査と「かもしれない」文であるが、「だろう」に置き換えてもい
ような例文を使って学習者に対する「かもしれない」についての誤用調査
を行った。

第 5 章では日本語の三つの形式について日本語母語話者による置き換え
可能可否の調査と「ㄷ(-gess)」「ㄷ지(-gess-ji)」「ㄷ
것(-l geos)」について韓国語母語話者による調査を行い、用例文を挙げながら考察するこ
とにする。また、日本のドラマの台本から日本語の三つの形式が推量用法
で使用されている例文を取り出し、「事態についての推測」と「人称によ
る推測」に分け、さらに話し手が情報を得やすいか得にくい中間である
かに分けて考察をする。また、日本語母語話者による調査の結果を挙げな
がら三つの形式について考察をし、韓国語ではどの形式で翻訳されてい
るのかも見ながら対照考察を行う。

第 6 章ではドラマの台本から日本語の三つの形式から語用論的な意味が
出てくる場合の文を取り出し、日本語母語話者による調査の結果を中心
に考察をする。その際、韓国語ではどの形式で現れているのかも見なが
ら対照考察を行う。

第 7 章では教材作りの際に基礎となる部分を示し、第 8 章では結論を述
べる。

第2章 先行研究

2.1 「だろう」の先行研究

寺村(1984:227)では、推量を表す助動詞のダロウは、元来がダの推量形で、その性質も保ちつつ、助動詞として独立の用法をもつようになったものであるとしている。ダロウは、自分がこうだと考えるということについて、自分自身は当然何かの拠りどころをもっているのがふつうだが、そのことを相手に知らせる意識はないときに出てくる表現であると言っている。その意味で、根拠があることを相手にほのめかす類の表現と比べて単純で、また最も主観的ということができるとし、その推量の根拠は、ふつうは自分のこれまでの経験、知識の総合であると述べている。

また、大鹿(1993:22-23)では「だろう」について以下のように述べている。

「……だろう」はあくまで推量の結果を表すのであって、どのように推量したかというその過程にはかかわらないのである。「……だろう」という文は事実を推量しており、従って「……」の部分は事実として想定された事態である。「『……だろう』という文は事実を推量」するとは、その文が事実を述べるということであるし、「『……』の部分は事実として想定された事実である」というのは、事実として述べるということである。そしてこのように考えることによって、はじめて「……だろう」は所謂断定の文と対立する。即ち、「……だろう」の文も断定の文もともに事実を述べるという点で共通しながら、しかし、「……だろう」は推量の結果間接的に認識された事実として、一方は直接意識に与えられた事実として対立するのである。ここで「事実を述べる」「事実として述べる」というのは対象となる事態を真であると述べる、乃至は真であると主張するということである。さて、「……だろう」を「……かもしれない／……にちがいない」の文と較べたとき、「……かもしれない／……にちがいない」の方は言えるのに、「……だろう」が不自然になる文として、「ぼくは部屋を出るとき鍵をかけただろう(でしょう)。」「(車を運転していて、急に渋滞に巻き込まれたというような場合)この先工事をしているだろう」のような二つのタイプの文を指摘することができる。「……だろう」について事実言明、ただし推量の結果間接的に認識された事実言明と押さえるとすれば、この現象は説明できるように思われる。

上の説明では「この先工事しているだろう」が不自然な文になるのは「推量の結果間接的に認識された事実」ではないからであると思われるが、話し手が昨日から工事が始まるということを知っていたり、見たら工事をしていて今朝も渋滞だったなどのことを知っているというような既知の事実に根拠している例文には「だろう」が使えると考えられる。この場合に「かもしれない」や「にちがいない」も使えると思われるが、そのときの違いについては言及されていないようである。つまり、「だろう」以外の形式も使える場合に推測するための根拠がどうなっているのかまでは述べられていない。

三宅(1995:84-85)では、「推量」は「話し手の想像の中で命題を真であると認識する」と定義し、「推量」が表される形式が「ダロウ(デショウ)／マイ／活用語の推量・意向形 [ウ／ヨウ] に限定される」としている。また、ラシイ、カモシレナイ、ハズダ等の、一般に真偽判断に関わるとされる他の形式は、「推量」とは異なった意味類型が表わされるものと考えている。

三宅(1995:84-85)では、森田(1980)、森山(1989)、益岡(1991)、益岡・田窪(1992)等では、ダロウの意味に関して、推量という概念を使わず「断定を避ける」「断定を保留する」というような記述がなされているが、このような考え方には批判的な立場をとるとしている。「断定をしない」というようなものでは、あまりに抽象的すぎて意味の記述としては不適切であると主張している。現実の世界ではなく、想像の世界において命題をとらえるという点が推量の基本的な特徴であるとし、命題を真であると認識しているといってもそれは話し手の想像の世界での認識であるので、結果としてその命題の真偽は不確実であることが表されると主張し次の例文を出している。

例1) 「来るのはいつ頃ですか?」「五時半…は過ぎるだろうな。あいつのことだから」三宅(1995:85)

推量の特性である想像の世界での認識でということは、上例のようないわゆる予想をするような場合によく分かるとしているが、上例は想像の世界での認識というよりは話し手は「あいつ」という人物のことを知っていて現実の世界での根拠を持って推測していると思われる。

また、三宅(1995:81-82)では、「かもしれない」は命題の不確実性という点においては、可能性判断は推量と同じ性質を共有していることになる

とし、「だろう」と違う点として可能性判断は、一つの可能性として真であればよいのであるから、同時に真であることができない命題を並べて述べるができることであるとしている。

「だろう」を推量の形式であると見て「話し手の想像の中で命題を真であると認識する」と言っているが、想像の中での判断でも何かの根拠はあるはずであろう。しかし、三宅(1995)では、「だろう」と他の形式(「かもしれない」や「はず」など)は命題の不確実性という点で同じ性質を持っていると述べながら、「だろう」と他の形式において話し手が判断するための根拠のことについては述べられていない。

藤城(1997:153)では、ダロウは二チガイナイやハズダなどの形式と異なって現実界ではなく「想像」の中での断定を表すことで「未確認」を示唆しているとし、二チガイナイやハズダなどは命題の成否には直接触れないことで「未確認」を示唆しているとしている。

現実界ではなく想像の中での断定を表すということは根拠がそれほどないときに単なる話し手の考えを述べる場合であると考えられる。勿論藤城(1997)の説明も間違っていないが、ダロウが使われる場面には想像の中での判断だけでなく、話し手が自分の知識やある事実の根拠を持って推測している場面もあると考えられ、このようなときに他の形式との違う点までは説明されていない。

また、藤城(1997:160)では、「(車での接触事故の直後に)あの音から察するに、側面もひどく擦っただろう。」という例文は発話時の現状を受けて初めて思い至った出来事を表しているのではない、自動車の側面を擦ったかどうかという、話者が気にしている出来事の成否について、「あの音」という現象を手がかりに、判断を下そうとしていると述べている。このような場合、想像の中での出来事は、現状の「背後の事情」として表現されたわけではなく、現状とは独立した情報としての価値を持っているため、ダロウで表すことができると言っている。

しかし、藤城(1997)では、現状とは独立した情報は何なのかについて述べられていない。また、命題をどう把握しているのかと命題に対して話者はどの態度で表明しているのかで説明しているが、推し量るための話し手が持っている根拠については述べられていない。

金水 敏(1992:42)では、「だろう」を典型的な「推量」用法であり、蓋然性判断を表すといえる用法の「だろう1」と聞き手に当該の情報を思い出させたり注意を喚起する目的で発話される「だろう2」に分け、「だろう2」の例として以下のものをあげている。

a. 聞き手の眼前の事物に気付かせる。

例2) ほら、あそこに煙突が3本見えるだろう。

b. 話し手と聞き手の共有体験で、聞き手が忘れていたかも知れないことを思い出させる。

例3) うちのクラスに田中っていただろう。

c. 話し手が以前聞き手に教えたことを思い出させる。

例4) だから言っただろう、先にふたをするとよくないって。

d. 聞き手が以前話し手に言っていたことを確認させる。

例5) 給料が入ったら払うって約束だろう。ちゃんと払えよ。

e. 話し手と聞き手の共有知識から帰結される事柄を確認させる。

例6) (共有知識：誰でも16にもなれば善悪の区別がつく)

おまえだって16なんだから、やっていいことと悪いことぐらい分かるだろう。

金水 敏(1992:43-44)

以下は金水 敏(1992:56)の説明である。

「だろう」は発話時に行われた推論の帰結を間接経験的領域に書き込む旨を宣言する標識である。書き込む先が聞き手の直接経験的領域（話し手にとってはこれも間接経験的領域）であるか否かによって、「だろう2」と「だろう1」が分化する。「だろう1」は、話し手の直接経験的領域にない知識を話し手が推論によって導出したことを表す標識として機能する。「だろう2」は、情報伝達によって関与的であり、かつ知識ベースには存在するはずであると推論されるのに、聞き手が忘れていた／気付いていない知識を思い出させる／気付かせるために用いる。

しかし、上のcとeの場合は聞き手に対して強い言い方になり、失礼な言い方になる可能性があると思われるが、それらのことについては言及されていない。

三宅(1996:111)では、日本語の確認要求的表現の中で「ダロウ、デハナイカⅠ類、デハナイカⅡ類、ネ」という形式を取り上げ、それらの意味・用法について述べている。また、日本語の確認要求的表現は、大きく「確認要求」「弱い確認要求」「同意要求」の3つのタイプに下位類化され、このうちの「確認要求」は、さらに「命題確認の要求」と「知識確認の要求」の2つのタイプに下位類化されるとしている。そして、三宅(1996:117-118)では例2)と例3)のようなタイプは「潜在的共有知識の活性化」と呼ぶとし、例4)と例5)のようなタイプは「認識の同一化要求」と呼んでいる。

例2)「この間、私、東京に帰ったでしょう？」禎子は話した。「はあ」「あのとき、立川に行ってみたんです」

例3)「私がずっと家にいただらう。その時はその時で、母さん、イライラしてたんしてたんだが、私がまた勤めだして、家でひとりになると、淋しくていられないらしくてね」

例4)「何言ってるの2児の母親がスキーなんて行けっこないでしょ」

例5)エーッ本気でお仕事に出るんですか？」「もちろん本気ですよ」「そんな急に」「急ではありませんよ。前々から言ってたでしょう」

三宅(1996:117-118)

例2)と例3)のようなタイプは、聞き手の知識を確認することによって、話し手と聞き手が潜在的に共有していると思われる知識を活性化させる機能を有していると思われる。例4)と例5)のようなタイプは、聞き手の知識を確認することによって、聞き手に話し手と同じ認識を持つことを要求するといった機能を有していると思われる。

三宅(1996)での「認識の同一化要求」は確かに知識確認の要求であると思われる。しかし、知識を確認しながら聞き手になぜそんなことをするのやそのことを覚えていないのかなどといった説教しているような強い言い方になる場合があると思われるが、このようなことについては述べていないようである。

徐正洙(1996)では、モダリティを「叙法」といい、話者が発話文章の内容に対して持つ精神的な態度であると定義している。すなわち、人間が話すときはその内容に関連して自身の主観的な態度を付与するようになるが、このような態度を表す文法的な範疇のことであるとし、「だらう」を韓国語の文末表現である「ㄷ다(-gessda)」だけに対応していると述べている。

しかし、「モダリティ」は文法範疇を超えているものなので「モダリティ」を「叙法」という文法範疇だけから説明するのは妥当性がないと考えられる。また、「だろう」が「겠다(-gessda)」だけに対応しているという説明は、文法的な範疇という観点だけから見ているためであると思われる。

権珍美(2001)では、「だろう」の用法には推量・確認要求・疑い・感嘆以外に、仮定用法と羅列用法があるとし、確認要求用法以外にも、同意要求用法が存在すると述べている。ここでは、推量と確認・同意要求用法だけをあげることにする。

権珍美(2001)では、「だろう」の主な用法は推量とし、以下の例を挙げている。

例6) 年は四十の上を少し超したくらいだろう。

나이는 마흔 살을 조금 넘은 듯하다(-deushada). 権珍美(2001:8)

権珍美(2001:8)では、例6)で話者が文末に助動詞「だろう」を使用しているのを見ると、話者の自らの判断に対して確実に断定できないことが分かるとし、「だろう」は推量の助動詞より、むしろ断定を回避する助動詞であると言っている。

しかし、例6)では、断定を回避するよりは話し手が事実がはっきり分からず推測している場面であると思われる。

また、権珍美(2001:8)では金東郁(2000)に従って推量用法の「だろう」は韓国語の「겠지(-gess-ji)」と「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」に翻訳されるとし、以下のような例文を出して「겠지(-gess-ji)」と「ㄷ 것이다(l-geo-ida)」の違いについて述べている。

例7) 明日雨が降るだろう。

例7A) 내일 비가 올 것이다(-l geos-ida).

例7B) 내일 비가 오겠지(-gess-ji). 権珍美(2001:8)

Aは聞き手がない場合に、Bは聞き手がいる場合にふさわしい表現であるとしながら、次のような例文を出している。

例8) 「それだけ教えてくれないか」 「まあ、そう心配しなくてもいいだらう。」

“그것만 좀 말해 줘.” “그렇게 걱정하지 않아도 될 거야(-l geoya).” 権珍美(2001:14)

例8)では聞き手が存在しているが、「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」が使われている。このように「ㄷ지(-gess-ji)」と「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」の違いは聞き手の存在の有無とは関係ないと思われる。

また、「だらう」の要求用法について要求とは、強く相手に要請することである行為を求めたり、行動の基礎となる深層の内面も含まれている幅広い意味であるとしている。要求という行為は必ず相手が存在しないとしないとし、そのような条件下で考えられるのは領域と情報量であると主張して以下のような例文を出している。

例9) A : おひとりで大変でしょうね。

B : ええ。いままで何もしなかったから。 権珍美(2001:17)

例9)で重要な情報は「ひとりで大変だ」ということであるとし、この場合、聞き手は自分のことを確認しようとする話者の確認質問に対してそれが正しいかどうか真偽判断ができるとしている。

例10) 妻 : 携帯電話って、電話代も高いんでしょう。

夫 : うん、少しね。

例10)では、話者はすでに携帯電話についての情報を持っており、持続的に現在に至るまでその情報を持っていることが分かるとし、この場合、話者の情報は旧情報であると言える。例9)では話者と聞き手両方が同一な条件下にいるが、例10)では話者は聞き手より以前に情報を得ているという異なる条件が設定されているとしている。

また、権珍美(2001)では、要求用法の「だらう」は韓国語の「(이)지((-i)ji)」 「ㄷ지(ㄷ죠)(-gess-ji(-gessjyo))」 「잡나(-janh-na)」で現れるとして以下の例文を出している。

- 例11) 夫：サルがね、ほら、缶ジュース飲んでるだろ？
 妻：ええ。
 夫：あの缶、サルが自動販売機で買ったんだって。
 남편:원숭이가 말이야, 저 봐, 깡통주스 마시고 있지(-ji)?
 부인:예
 남편:저 깡통, 원숭이가 자동판매기에서 산 거래.
- 例12) 青年：じゃ、一日のうちに何回も、物売りの声がして、うるさかったでしょ。
 おばあさん：そんなことないよ。今のような録音テープじゃなくて、人の声だったからね。
 청년:그럼, 하루 동안에 몇 번씩이나 행상인의 목소리가 나서 시끄러웠겠죠(-gessjyo).
 할머니:그렇지 않아. 지금 같은 녹음 테이프가 아니라 사람의 목소리였으니까.
- 例13) 課長：どうして？
 社員：終電に乗る時、走れるように。
 課長：そんなにおそくまで飲まないよ、うちの会社は。
 社員：そうですか。じゃ。走るのはやめます。
 課長：いや、走る練習はしたほうがいいよ。けさも遅刻だろ？
 과장:왜?
 사원:마지막 전철을 탈 때 달려가서 탈 수 있게요.
 과장:우리회사는 그렇게 늦게까지 안 마시네.
 사원:그렇다면 달리는 그만두죠.
 과장:아니, 달리기 연습은 하는 게 좋을 거야.오늘 아침도 지각이 었잖나(-janh-na)?
 權珍美(2001:21)

例13)の例文は遅刻したかどうかを確認していると捉えられるが、話し手は相手が遅刻したことを既に知っていて(上の例では話し手が課長なので社員が遅刻したことを知っていると考えられる)それを相手にわざわざ再度言っているとも捉えられる。つまり、話し手は聞き手に確認しようとする気持ちはないとも捉えられる。また、同意要求のように見えるが、話し手は聞き手に同意を求めてはいないようである。權珍美(2001)ではこのような場合については説明されていないようである。

表1は、権珍美(2001)では「だろう」の各用法が韓国語ではどのような形式で現れるのかを筆者がまとめたものである。

表1 「だろう」に対応する韓国語表現

「だろう」	推量	~ㄴ것이다(-lgeos-ida)/~겠지(-gess-ji)/~테지(-teji)/~거야(꺼야) (-geoya(-kkeoya))
	疑問	~니지(-nji)/~ㄴ까(-lkka)
	感嘆	~니가(-nga)/~구나(-guna)/~도다(-doda)/~어라(-eola)
	要求	~(이)지(-(i)ji)/~겠지(겠죠)(-gess-ji(gess-jyo))/ ~잖나(-janh-na)
	仮定	~겠지(-gess-ji)/~ㄴ까(-lkka)/~테지(-teji)
	羅列	~겠지(-gess-ji)/~ㄴ까(-lkka)/~테지(-teji)

朴英熙(2008)では、「だろう」を会話体と文章体に分けて説明している。会話体は聞き手指向性を持っているが、文章体は聞き手指向性を持っていないとしている。

また、推量用法では聞き手指向的な発話とそうでない発話でも実現可能であるとし、確認要求や認識要求では必ず聞き手指向的でなければならないとしている。朴英熙(2008:12)では会話体での推量用法は、文章体で現われる割合よりは少ないが、要求用法に次ぐ意味・用法であるとし、会話体で使われる推量用法の「ダロウ」は聞き手指向性がそれほど高くないとしている。会話体で「ダロウ」の推量用法は談話の中で相手をあまり認識せず、自分の考えを推量・判断する思考の流れを表すと言い、会話体で「ダロウ」は大抵、要求用法として用いられると言っている。また、朴英熙(2008:6)では、「ダロウ」は文章体の中、推量用法と疑問用法で主に使われていることが分かるとし、会話体での「ダロウ」は推量用法より要求用法でよく使われていることが分かるとしている。

朴英熙(2008)では、実際の会話体では推量用法より要求用法の方が多く使われると説明しているが、推量用法と要求用法のなどについて詳しくは説明されていないようである。

次は朴英熙(2008)では「だろう」の各用法が韓国語ではどのような形式で現れるのかを表2のようにまとめている。

表2 朴英熙(2008)の「ダロウ」に対応する韓国語表現

		聞き手指向性	非聞き手指向性
「だろウ」	推量	文章体	会話体
		~르 것이다(-lgeos-ida)	
		~리라(-lila)	
		~겠다(-gess-da)	
		~터이다(-teo-ida)	
	疑問	~리가(-nga)/~리지(-nji)	
		~르까(-lkka)	
	感嘆	~리가(-nga)/ ~리지(-nji)	
	確認要求		~지(-ji)
			~잖아(-janh-a)
	認識要求		~지(-ji)
		~잖아(-janh-a)	

朴英熙(2008:41)

以上「だろウ」の先行研究を見ると、「だろウ」は「断定を避ける」や「現実界ではなく想像の中での判断」という説明があったが、両方正しい説明であると思われる。しかし、両方の場合を含めて推量を表す際に他の形式との比較が詳しくされておらず、判断するための根拠についても述べられていないため日本語教育への応用が難しいと思われる。また、「だろウ」を説明する際に「推量」の用法だけに重点を置いたため、他の用法との区別が難しいと思われる。推量用法からなぜ要求用法が派生してくるのかとそのような派生してくる意味についての説明があれば学習者はさらに理解できると思われる。次は「かもしれない」についての先行研究を見てみることにする。

2.2 「かもしれない」の先行研究

寺村(1984:235)では、「かもしれない」は助詞二つと動詞の否定形が結びついて一語の助動詞化した、いわゆる組立て式の助動詞であるとしている。ダロウと同じく、自分の主観による単純な推量を表すとし、ダロウとの違いはその推量の妥当性についての確信の度合いが低いことであろうと述べている。「……でないとは言えない」「……の可能性はある」という

ぐらいの気持ちであると説明している。また、宮崎他(2002:145)では「かもしれない」はあくまでも、「可能性がある」という認識を表す形式であって、「可能性が低い」という認識を表すわけではないとしている。

寺村(1984)と宮崎他(2002)では、確信度の違いだけの説明で「研究の動機と目的」であげた誤用例の説明が付かない。

平田(2001:60-61)では、「かもしれない」は「蓋然性の程度の低さ」すなわち「命題(客観的な事柄を表す要素)が真である確かさの程度が低い(益岡, 1991)」ことを意味する、あるいは「命題が真である可能性はある(三宅, 1994)」ことを表現する形式として議論されてきたと言っている。また、仁田(1991)が、「かもしれない」は「だろう」と共に「推し量りの表現から婉曲的な述べ立ての表現・断言を控えた述べ立てに移り行く傾向にある」と指摘しているように、話し手と聞き手が存在する対話においては、文脈により、意味が派生・拡大して婉曲表現として用いられることが極めて多いとしている。

そして、「推し量り」は話し手の発話時における推量を表し、「だろう(「でしょう」を含む)」に近い性格をもつと考えられるとしている。推量の結果、命題が真である可能性の度合いには幅があるが、相対的に低いとし、次の例文のように、現実には起こってしまったことをふまえた上で、それに反する仮想が行われ、起こった事態と反対の推測がされていると言っている。

例14) 真知子「仕事仕事って、それよりお腹の子のこと考えたら、流産し
かかったのよ」

忍「仕事に行かなきゃ、あんなことにはならなかったかもしれない
なあ。」

平田(2001:61)

「だろう」に近い性格をもつという説明では「だろう」と「かもしれない」の違う点がはっきりせず二つの形式の使い分けについても説明が出来ないと思われる。

また、平田(2001:61-62)では婉曲を「推し量り」から派生・拡大し「婉曲」の意味をもたせることができるとしている。広辞苑によると、「婉曲」とは、「表現などの遠まわしなさま、露骨にならないように言うさま」で、

直接的な、また露骨な表現より、やわらかで丁寧な表現であるとされていると言い、以下の例文をあげて「間接的な表現」と「前置き」と「擬似的な同意」に分けて説明している。

例15) サトル「柗二、すこしは弱いやつの気持ちもわかってやってよ。」

柗二「いい話かもしれないけど、納得できないね。まるでわかんねえ」

平田(2001:62)

例15)は、「いい話」と直接的に言うことも十分可能であるが、間接的に表現することで、聞き手に対し丁寧さを示す配慮をしているとしている。

例16) 芙美「……(略) お邪魔かもしれませんが、水やなにか、きっと一人じゃ大変でしょう」

孝平「それは、どうも」

平田(2001:62)

前置きの機能をもつ表現としては、このほか「ご存知かもしれませんが」「余計なお世話かもしれませんが」「間違っているかもしれませんが」等々、慣用的な言い回しと言えるものもあるとしている。

例17) 正夫「おまえ、そんなみみっちいこと言ってねえで……」

杏子「みみっちいかもしれないけど、それが私の人生だし、それが私のしあわせなんだ……」

平田(2001:62)

例17)のように相手の発言を繰り返し、あたかもそれを認めているようではあるが、それに続けて話し手が主張を展開しているとし、一部認めていると言うより、認めているように見せかけ、自己主張をする前に、その主張を和らげるためのクッション作用を「かもしれない」に持たせていると言える」と述べている。

平田(2001)では「かもしれない」は、命題に対する確信の低さから「押し量り」としての基本的な意味を持つが、そこに話し手の主観を排除し、命題に客観性を持たせる作用を働かせる機能があるとしている。

確かに命題に客観性を持たせているようであるが、このような場合は婉曲の用法だけではなく、話し手が主観性を表わしたくないときに使う責任回避の用法もあると思われる。

黄(2006:60-66)では、「かもしれない」の婉曲表現は話者がある事柄に対して断定の言い方で表せるにもかかわらず、その表現の強さを和らげるために、あえて非断定的な言い方を使う表現であると定義づけると説明している。つまり、断定できる事柄に対して、非断定的な表現を使うことによって、対話を丁寧にすることが考えられるのであるとし、想定、反論、擬似的同意、表明回避、評価に分けて説明している。平田(2001)と似たような説明であるが、評価という用法を出している。

黄(2006)では、次の例をあげ、相手と共有する事柄や現象に対して自分の意見や評価などを述べる際に、聞き手に主観的な印象を与えないため、言い切るのを避け、不確かな言い方で話を丁寧にする表現であるとし、特に、客観的な立場を示したい場合によく現れると述べている。

例18) ちょっと待って、今山田君が言ったそのアイデア、ちょっとおもしろ
いかもしれないよ。 黄(2006:65)

例18)では「かもしれない」が使われると不確か言い方になって話を丁寧にしては思われるが、話し手が自分が言った意見に責任を回避しているとも捉えられると思われる。

中畠(1993:14)では、次のように説明している。

カモシレナイ・ニチガイナイはラシイ。ヨウダ・ソウダ(伝聞)などと比較したとき、ダロウに近い性格をもっている。その性格とは、端的に言って、仮想に用いられるということである。中畠(1990)では、現実の事象をもとにした話し手の判断を表すのがラシイ・ヨウダ、話し手の頭の中にだけ存在する仮想を描くのがダロウであるとした。同様に、「あの人は泣いているカモシレナイ/ニチガイナイ」においても「あの人」はその場に存在しないと理解される。仮想に用いることができるという点で、カモシレナイ・ニチガイナイはダロウと共通の性質をもっていると言える。

中畠(1993)では、カモシレナイとニチガイナイがヨウダやラシイなどと異なる形式であるのは分かると思われるが、カモシレナイ・ニチガイナイとダロウの共通点だけが説明されており、ダロウとはどのように異なるのかまでは述べられていない。

大鹿(1992)では、推量はある事態を思い描く作用であると言ってもよいとし、推量の形式には「だろう」があるとしている。

例19) 哲学者がこれを読めば、そこに哲学的瞑想への貴重なきっかけが得られるかもしれない。

例20) それに、妻だって私の顔を見ればすこしは元気づくにちがいない。

例21) 貴重なきっかけが得られるだろう。

例22) すこしは元気づくだろう。

大鹿(1992:128-129)

そして、大鹿(1992:129-130)では、推量は例えば予想や想像や仮想のとき、それはそこで起こっている(起こった)はずの現実の思い描きであるとし、結局思い描きに過ぎないという点で、思い描かれた内容は不確実・未確認といわねばならず、そのような可能態を可能態としてしか思い描いてはいないのであると述べている。それに対して、「貴重なきっかけが得られるかもしれない」や「すこしは元気づくにちがいない」では、「貴重なきっかけが得られる／すこしは元気づく」ことが判断の内容ではなく、むしろ思い描かれたそのような事態が、実際にはそうなるかどうかかわらないと判断し(～かもしれない)、あるいはそのような事態が起こるのがまちがいないと判断している(～にちがいない)と述べている。つまり「～がわからない／～がまちがいない」ということが判断内容であり、従って、これらの述語はその内容を推量しているのではなく、むしろ断定しているということになるとしている。また、「貴重なきっかけが得られるかもしれない」の「かもしれない」は、思い描きにすぎない故に現実にそうなるか(そうであるか／そうだったのか……)どうかが不確実である事態が現に不確実だと言明しているのであり、換言すれば可能態が可能態にとどまるのではなく、現実にそうなる(である／にであった……)可能性があると認めていることを表すと言えらるとしている。「～だろう」はあくまで可能態を推量しており、「～かもしれない／にちがいない」は可能態の在り方を認めていると言ってもよいとし、「かもしれない／にちがいない」は、モダリティ論で位置づけられるように推量の一つとは言えないのであると述べている。

「だろう」は思い描きの表現に過ぎないと言っているが、これは「だろう」が持っている単なる話し手の中での考えを述べるときの説明であると考えられる。勿論、このような場合もあるが、話し手がある事柄や他人の

ことをある程度知っていて(話し手にとっては思い描きではなく推測するための根拠になり得る)推測している場合もあると思われる。また、「かもしれない」や「にちがいない」の述語はその内容を推量しているのではなく、断定をしていると述べているが、例えば可能性を表す「かもしれない」が使われている時点で話し手は断定していないことになると言えよう(断定しているのであれば「かもしれない」を使わなくてもいいからである)。つまり、ある事態について推測した結果、断定するまでの自信はないので「かもしれない」を使っていると考えられ、蓋然性が関与することになるのである。

須賀(1995:79-82)では、「かもしれない」は、話し手の判断を表現する一つの助動詞に相当するものとして機能しているが、それは、「か」+「も」+「知れる」+「ない」から構成される、もともとの分析的な意味の延長として捉えるべきであると述べている。そうした用法の変化は、その事態の起こる蓋然性の低い、それゆえ意外なことについて述べることによって可能になったと考えられるとしている。「ひょっとしたら」「もしかしたら」という副詞によって修飾されるような状況が、「かもしれない」を、その可能性があることも排除できない、という判断を表す形式になり得たのであると主張している。

須賀(1995:83)では、蓋然性が問題にならない状況においても、可能性の判断を表す形式として「かもしれない」が使われることによって、単に「可能性がある」という意味を表すことになったのだと述べている。また、例えば、桃がたくさんあり、それらの桃の一つひとつ手にとり、それがおいしいかどうか判断する場合は「これはおいしくないかもしれない。」や「これはおいしいかもしれない。」という表現ができるとし、この場合は蓋然性は問題にされないとしている。

須賀(1995)では、蓋然性が問題になる場合と問題にならない場合を挙げて「かもしれない」は可能性を表す形式であると説明している。しかし、例えばAさんとBさんが道で話しているとしよう。そのときBさんの後ろから駐車されていた車が出ようとしているのをAさんがみて「あ！危ないかも」と言ったとする(実例である)。この場合は話し手は危ない可能性が高いと捉えていると考えられるが、「かもしれない」を使っていて須賀一好(1995)の説明だけでは説明が付かないと思われる。日本語教育への応用を考えた場合、このような語用論的な意味が生じる場合まで考察した方が好ましい。

羅聖榮(1999:39-40)では、「かもしれない」は話者の主観による判断であるとし、この際、命題が真である可能性に対する話者の確信度は低いとしている。「かもしれない」は客観的な根拠がなく、話者の主観的な判断によってある可能性があるということを表す確信度が低い認識表現であるため、他の可能性もあることを意識している心的態度が含まれていると述べている。

婉曲表現として使われることもあると述べているが、説明だけで具体的には触れていないようである。また、韓国語との対照で「지도 모르다(-ji (do) moleuda)」と対応しているという説明だけで韓国語とどのように違うかまでは説明されていない。

以上「かもしれない」の先行研究を見ると、「かもしれない」は可能性を表す表現であるという説明が中心になっているため、婉曲用法まで充分記述されていないと思われる。また、いつ可能性を表わしたらいいのかなどの説明がないため、「かもしれない」が使われるところに「だろう」などの他の推測表現を使って不自然な日本語を話してしまった場合、教師が依拠するものがなく説明に困ることもあると思われる。次は「はずだ」についての先行研究を見てみることにする。

2.3 「はず」の先行研究

太田(2005)では、次の3つの考え方により、ハズダの機能を文脈の中で記述している。

一つ目はハズダの用いられる状況は、現実の状態とハズダによって示される認識との関係から「Ⅰ. 現実の状態が未確認 Ⅱ. 不一致が確認済み Ⅲ. 一致が確認済み」の3種類に大別できるとしている。二つ目はそのそれぞれの状況において、話し手がどのように認識を表明するかをみることで、ハズダの機能は6つに分けられるとしている。三つ目はその6つの機能が、話し手と聞き手の関係などにより、様々な伝達効果となって実現すると述べている²⁾。この中で現実の状態が未確認である場合を見てみると以下のようなになる。

太田(2005:117)では、現状が分からない中で、自らの「見込み」を表す場合で話し手が知らないことを、発話時に既得情報から導き出して述べる場合であるとし、例文を出している。

²⁾ 詳しくは太田(2005)を参照

例23) (朝 9 時に)

甲「田中さんはまだ、家にいるでしょうか？」

乙「さあ。でも、田中さんの家は大学に近いから、たぶんまだいるはずですよ。

太田 (2005:117)

話し手の命題に対する態度は直接的な回答は持たないが、自分なりの判断を表明しようとするとし、既得情報から演繹的に判断しうる命題を導き出して表明する機能を持っていると述べている。伝達効果としては「未確認の中での回答提示」と「論理的な考察の過程の提示」でそれぞれ聞き手との関係は「聞き手からの質問、または状況的に答えが要請されている場合」と「自分の考えを支える論拠を聞き手に説明する必要がある」と述べ、以下のような例文を出している。

例24)「フェリー乗り場ですか。わたしもよくわからないんですが…。ああ。あそこにサインが出ているからあの近くにあるはずですよ。」

例30)その時刻に新宿を出たら柴崎に着くのは二十分後。間にお茶一杯と煙草一服の時間を入れたとしても、六時には家についているはずだ。

太田 (2005:117)

しかし、例24)のように未確認の中での回答提示にも論理的な考察の過程の提示の効果はあると思われる。また、「答えが要請される」か「聞き手に説明する必要があるか」の二つの違いが曖昧である。

また、太田 (2005)では、「はず」を直接には現実の状況は未確認ではあるものの、既存知識として確信している事柄を述べる際に用いられるとしている。

例25)「妻が家にいるはずです。すぐに持ってこさせましょう。」

太田 (2005:118)

この例文で話し手の命題に対する態度は真であるかどうかは未確認だが、命題に強い妥当性を感じていると説明し、「自らの認識を確信のあるものとして提示する」機能があるとしている。そして、現実の状況は未確認ではあるものの、話し手にとってはその命題はすでに確信を持って抱かれて

いる認識であり、ハズダの役割はその根拠も問われないとしている。

伝達効果としては「主張」と「励まし」があってそれぞれ聞き手との関係は「話し手の考えを妥当性のあるものとして相手に示したい」場合と「相手にとって望ましい展開を提示する場合」があるとしている。

例26) 野生動物には感染症の治療薬になる成分があるはずだ。—国立医薬品食品衛生研究所などのグループは、熱帯地域を中心に植物調査に力を入れている。

例27) あなたが野球が好きなら、どんな色にでもなってまた元に戻れるはず。
太田(2005:118)

太田(2005)では、「話し手が知らないことを、発話時に既得情報から導き出して述べる場合」と「直接には現実の状況は未確認ではあるものの、既存知識として確信している事柄を述べる際に用いられる場合」に分けて説明しているが、説明が曖昧で二つの場合の違いがはっきりしていないようである。

中村(2003:13)では、推論の根拠には命題を構成する要素の属性に関する個別的な知識と、その属性を持つ人や事物に関する一般的な知識が根拠になっているもの(<推察>や<みこみ>)と、命題全体の属性に関する個別的な知識と、そのような属性を有している事柄に関する一般的な知識が根拠になっているもの(<予定><記憶>)があるとし、<確認>では命題を確認された事実であると認識していることの根拠が意識され、その根拠から推論によって命題が事実であることが再認識されているとしている。次は命題の構成要素の属性が根拠の場合である。

例28) 運動会の写真は山中君に頼みましょう。写真学校の学生だから上手なはずですよ。
中村(2003:15)

「はず」は「(山中君が写真が)上手である」という命題が、このような推論によって事実であると判断されたものであることを表すとし、この推論の根拠になっている「山中君が写真学校の学生であること」は、命題の構成要素である「山中君」の属性に関する個別的な知識であり、「写真学校の学生が写真が上手であること」は写真学校の学生であるという属性を

持っている人に関する一般的な知識であると述べている。次は命題全体の属性が根拠の場合である。

例29) (社長が10時に入社する予定になっていることを知っていて)

社長は10時に入社するはずです。 中村(2003:15)

「社長が10時に入社する」という命題は、全体として、予定として決められているという性質・あり方を持っているとしている。命題が全体として持っている性質・あり方を、命題全体の属性と呼ぶとすると、「社長が10時に入社するということは予定として決められた事柄である」は命題全体の属性に関する個別的な知識であり、「予定として決められた事柄はその通り実現される」は予定として決められているという属性を有している事柄に関する一般的な知識であると述べている。

また、中村(2003:15-16)では、松田(1994)が次のような例では<予定>と「はず」を相互に置き換えても大きな意味の違いは感じられず、このような「はず」には推論が働いていないとしていることに対して、真偽が確認されていないことについて判断しているという意味が感じられるとし、推論が働いていると述べている。

例30) 中南米では唯一、社会主義のキューバも昨年末、バチカンと歴史的な和解を果たした。ローマ法王ヨハネ・パウロ2世は来年1月にハバナを訪問する予定だ。 中村(2003:16)

また、例31a)では命題全体の持つ属性が根拠となっており、例31b)では命題の構成要素の属性が根拠になっているとしている。

例31a). (社長が来週、出張するという予定であることを知っていて)

社長は来週、出張するはずだ。

例31b). (社長は重要な会議がある時は必ず出張することと、来週重要な会議があることを知っていて)社長は来週、出張するはずだ。 中村(2003:17)

例31a)は確実な事実からの判断で断言してもいいような場面であると考えられる。話し手が推論しているとも見えるが、それは判断するための命題が確実な事実であってもまだ起こっていない事態のことなので推論であ

ると感じられると思われる。それに対して、例31b)は断言することは出来ないと考えられるため、このような例文が推論であると思われる。

また、＜確認＞における推論についても次のような例を出し、タイヤが丸いということが常識・通念という属性を持っていることと、常識・通念は事実であるということが推論の根拠になっているとしている。

例32) (車のタイヤは走行中には歪むという内容のテレビコマーシャルで)
丸いはずのタイヤがこんなになるなって。 中村(2003:20)

このような例文で「はず」をわざわざ使うことによって話し手は自分の頭の中である知識などを取り出しているように見えるが、それは再確認しているだけで推論ということは働いていないと思われる。ここで「はず」を省略することができるからであると考えられる。

木下(1997:165)では、ハズダは「推論の帰結」を表すとし、「推論」に二つの特徴、即ち「推論」の成立には例外的事態については考えないという「前提E」が関与すること、「推論」にはただ一つの帰結が得られる場合とそうでない場合があること、を認めるとしている。そして、ハズダの意味を＜a＞根拠pと帰結qは「推論」関係にある、＜b＞ハズダは命題が帰結qであることを標示する、＜c＞根拠qからはただ一つの帰結が得られる、＜d＞「前提E」(推論が成立するためには、特別な事態が全て生じないという前提が必要であるが、このような前提が「前提E」である)の存在が意識されているという四つの意味特徴によって説明している。

木下(1997)でのハズダの意味特徴の四つは「かもしれない」には当てはまらないと思われるが、「だろう」には当てはまると考えられる。しかし、木下(1997)では、「だろう」は過去形や否定形にならず、話し手以外の人の心的態度を表わすこともなく、恒常的に話し手の主観を表す形式であって他の形式とは大きく異なる意味を持つことが予想されるため、ハズダとの比較を行っていない。「だろう」が話し手の主観を表す形式であれば、「はず」と重なる部分はあると思われるため「だろう」との比較も必要であると言える。

太田(2009:70)では、母語話者と学習者の意見文を分析し、ハズダの文末用法の使用傾向を探っている。その結果、ハズダには主に以下の3つのタイプの機能として、それぞれの文章展開のパターンのもとに運用されると

している。

α タイプ：＜現状＞⇒**提言・主張** {(そう)すれが／これからは} **ハズダ文**
ハズダの機能は好ましい展開を示し、提言の正しさを支えるとしている。

β タイプ：＜現状＞⇒**ハズダ文** {だから／なのに} **提言・主張**
ハズダの機能は判断に当然性を担わせ、結論を導く根拠となるとしている。

γ タイプ：**ハズダ文** {しかし} **(ハズダ文と食い違う) 現状**⇒＜意見・問題提起＞

ハズダの機能は本来のあり方の述べ、現状を対比的に提示するとしている。

例33) 最近の若者は人との関わりがうすいようである。人との関わり、対人をさけるために自己というものも確立しにくい状態になっているようだ。もっと人と深く関わり人間関係を築く努力をするべきである。そうすれば、今よりはっきりとした自分がみえてくるはずである。 太田(2009:72)

上例は α タイプの例であるとし、自分の提言に従えば、必ず望ましい結果が導かれるという展望を示すことで、自分の主張や提言の正しさを支える役割を担っているとしている。また、ダロウなどの他のモダリティ判断でも示しうるが、ハズダを用いることで「その判断は当然導かれるものである」という述べ方となり、こうした目的に効果を発揮するものであると述べている。

しかし、上のような説明は「はず」は「自分の知識や経験から推論すると当然こうである」というような説明と変わらないと考えられ、「だろウ」や他の表現との違いが明示的ではないと思われる。

例34) 情報化社会と呼ばれる現代において、私たちは流れる情報をあまり吟味せず受け入れてしまっている。整理され放送されるニュースは飲み込みやすい。しかしそれでは生産的な思考はできないだろう。報道する側の作為を抜き、事実を抽出しなければ、真の情報受容とは言えないはずだ。 情報への接し方の基本というものを、社会で広く認識する必要がある。

太田(2009:72)

上例は β タイプの例であるが、 β タイプは結論をまとめるために、前提となる判断をハズダで持ち出してくるところが、 α タイプや γ タイプとは

異なっているとし、言い切りや他のモダリティ表現でも表せるが、ハズダを使うことで、自分の抱く判断をこそ当然のものとし、だからこそ、自分は以下に続く主張を行うのだということに説得力を持たせる構造となっているとしている。

ここでも、他のモダリティ表現で表せると言っている。太田(2009)でのハズダについての説明を見るとハズダの理解には有益ではあると思われるが、やはり他のモダリティ表現との違いなどを含めていないので、十分に説得力があるとは言えないだろう。

金子(2000:123)では、ハズダが判断を受ける文末だとすれば、その前の時制にこだわるよりは、内容に着目すべきであるとし、ハズダが受ける語彙に見られる傾向を基準にその前接する動詞の種類から「ナル(変化)ハズダ」系、「デキル(可能)ハズダ」系、「アル(存在)ハズダ」系、「タイ(感情)ハズダ」系といった類型に整理し、意味と用法を記述している。次は、金子(2000)がハズダがどのように使われているのかを現実と想定のみずれから図式化したものである³⁾。

図2 ハズダと類似形式についての状況と現実のみずれの間での現れ方

本来あるべき 状況	ハズダ モノダ	現実：問題あり	将来なっ てほしい 状況	ハズダ ワケダ
--------------	------------	---------	--------------------	------------

金子(2000:133)

学習者がハズダを正しく使えるには前接する動詞の種類による分類だけではなく、なぜハズダを使って判断しているのかと他の形式を使った場合とハズダを使った場合とはどのように異なるのかについても考察する必要があると思われる。

金良宣(2004:84)では、発話内容に対する話者の態度である「話者の確信の強弱」「発話内容における必然性の有無」「発話内容についての根拠の100%・有・無」などにより、「はず」を次の例文が示すような4つのグループに分類している。

例35)(そうだ、野尻湖の死体に頭蓋骨が無かったのは、身元を隠す目的ばかりではなかったのかもしれない)あの死体に頭蓋骨があれば、当然自殺

³⁾ 詳しくは金子(2000)を参照

もセンも考えられたはずだ。

金良宣(2004:85)

例35)は話し手が判断する命題の実現の可能性は0%で反事実(反事実的條件文)を表わすとしている。

例36)このこはこの部屋を愛しているのだから、この部屋でとれたきのこをおいしいと思うはずなのに、と溜息をついてきのこを床に捨てた。

金良宣(2004:86)

例36)は命題の実現する可能性は低くて話し手の確信度は高いとし、必然性はあるが、客観的な根拠はない場合であるとしている。

例37)いつものように、彼はそこにいた。ひとりだった。たしか、その前の授業中に調子がわるいといって保健室に行ったはずだった。

金良宣(2004:86)

また、例37)は命題が実現する可能性は高くて話し手の確信度も強いとし、必然性もあって客観的な根拠もある場合であるとしている。

例38)こんなはずじゃなかった、と思うと、自分が馬鹿に見えて腹がたった。こんなはずじゃない、と思うと(筋道)

金良宣(2004:88)

例38)は命題が実現する可能性は100%で過去形ではないときには筋道を過去形のときは残念な気持ちを表わすとしている。また、例25)のように婉曲を表わす場合もあるとしている。

例39)どんな職業であっても、必ず苦難がともなうはずだ。

金良宣(2004:88)

金良宣(2004)での説明はどの根拠を客観的な根拠として見ればいいのか分からないように思える。例36)でも話し手にとっては客観的な根拠を持っていると思われる。また、確信の強弱について述べているが、例えば「だろう」にも確信度が高い文と低い文があると考えられる。

韓増徳(2004:17-25)では、「はず」を「話し手の後悔、不審などの気持ちを表わす場合」と「話し手の納得する気持ちを表わす場合」と「話し手の判断・推量の意味を表す場合」があるとして「はず」が話し手の判断・推量の意味を表す場合は韓国語の「것(-geos)(거(-geo), 겁(-geob), 걸(-geol), 게(-ge))」「터(-teo)(테(-te), 텐(-ten))」に解釈されるとし、その他に「리(-li)」「턱(-teog)」に解釈される場合もあるとしているが、いくつかの韓国語の形式の違いについてまでは説明されていないようである。

以上、先行研究を見てきたが、それぞれの形式だけについての説明で他の形式とはどのように似ていてどのように異なるのかなどの比較がされていない点と判断するための根拠がどうなっているのかが説明されていない点が先行研究の大きい問題点である。「だろう」は「想像の中で単なる話し手の考えを表す」形式で「かもしれない」は「可能性を表す」形式で「はず」は「客観的な根拠から推論した結果を表す形式」であるという点では三つの形式は異なるようであるが、例えば、「はず」は客観的な事実や自分の知識からの推論によると、こうであるというように説明されているが、推測自体がある根拠を持っていてそこから自分の中で推し量って判断することであると思われる。「だろう」や「かもしれない」についても同じような文法説明が出来ると思われる。つまり、日本語の三つの形式は「ある根拠を持って推測する」という点で共通点を持っていると考えられる。このような共通点から三つの形式が全て使える場面があると思われるが、このような場合はどのような場面なのかや話し手がどのような根拠を持って判断しているのかなどを見なければ三つの形式の具体的な違いが分からないと考えられる。

また、推量用法以外の語用論的な意味が出てくる場合に、「だろう」では聞き手を再認識化させる用法で強い言い方になる場合もあり、このような再認識化の用法は「はず」にもあるようである。また、「かもしれない」は可能性を表しながら、「表明回避」や「責任回避」などを表す場合もあるようである。従って、このように語用論的な意味が出てくる場合も考察することで三つの形式の違いが深く理解できると考えられる。

次は韓国語の「겠(지)(-gess(ji))」「ㄷ 것(-l geos)」「잖(-janh-)」の先行研究を見てみることにする。

2.4 「ㄹ(지) (-gess(ji))」「ㄷ(것) (-l geos)」「쟤(-janh-)」の先行研究

고창운(1991:603)では、「ㄹ(-gess)」は話し手が持っている根拠は聞き手も持っていると感じているということを表現するときに使用され、「ㄷ(것) (-l geos-i)」は話し手が持っている根拠を聞き手は持っていないと感じているということを表現するときに使用されると主張している。

例40) ^雨가 ^降 a. 오 ㄹ(-gess)다.

b. 올 ㄷ(-l geos)이다.⁴⁾ 고창운(1991:604)

以下は고창운(1991:605)での説明である。

例えば、二人が部屋の中で座って対話をした後これ以上対話をする話題が見つからず静かになっている場合を考えてみよう。このとき一人が窓を通して曇っている空を見て例40)aを発話しても自然な文になる。これは、話し手が「ㄹ(-gess)」を通して自分が持っている推定の根拠を聞き手も持っていると感じている心を表わすことである効果を期待しているからである。つまり、聞き手から推定の根拠について興味を引き出すことで話し手の推定行為に聞き手を参加させるのである。

話し手が持っている推定根拠を聞き手は持っていない状況でも「ㄹ(-gess)」は使用でき、話し手は聞き手に同意を求める効果を期待しているのである。つまり、この場合は実際の世界について話し手が知っている事実と話し手が表わす信じている内容が矛盾しているが、話し手が意図的に事実と異なる自分の信じている心を表わして聞き手を自分の推定行為に引き入れる肯定的な効果が得られる。

これに反して、自分が持っている推定根拠を聞き手は持っていないと感じていることを表わす「ㄷ(것) (-l geos)」は話し手が持っている推定根拠を聞き手も持っている事実世界で使われると否定的な効果しか得られないので不自然な発話になる。

しかし、例40)での「ㄹ(-gess)」は現在知覚の用法の「ㄹ(-gess)」が使われていると思われる。聞き手もその情報を持っていると感じているから

⁴⁾ 「ㄷ(거) (-l geo)」については、「ㄷ(것) (-l geos)」が敬語ではない普通体で使われる場合には「ㄷ(거) (-l geo)」で現れることもあって本稿では「ㄷ(것) (-l geos)」と同じ意味を持っていると見なし、区別しないことにする。

「ㄹ(-gess)」を使ったのではなく、話し手は今空を見て判断した(根拠を得たばかりで現在知覚したことを表わす)のを表わしていると思われる。

박현주(2011:2-5)では、他の推測表現に比べると「ㄹ(-gess)」が一番よく使われるとし、例 43)文をあげ、聞き手が判断の情報となる情報を共有しているときに、「ㄹ(-gess)」を使用して、話し手だけが情報を持っている場合に「ㄴ 것(-l geos)」を使用するとしている。

例41) a. ^{すぐ} ^雨 ^が ^{降る}
곧 비가 오 ㄹ(-gess)다.

b. ^{すぐ} ^雨 ^が ^{降る}
곧 비가 올 거(-l geo)야.

박현주(2011:2-5)

例41a)と41b)は文法的に正しい文であるが、例41a)は話し手と聞き手が一緒に空を見たり、天気予報を見ながら情報を共有している情報での発話であるのに対して、例41b)は話し手だけが天気予報の情報を持っている場合、つまり聞き手が知らない情報に基づいて判断して推測するとき発話できる文であると述べている。

例41)では、確かに「ㄴ 것(-l geos)」が使われると聞き手は話し手が持っている情報を持っていないように見えるが、ただ、話し手がどの程度情報を持っているのかの違いであると思われる。また、ある情報を聞き手も持っているときでも「ㄴ 것(-l geos)」は使えると思われる。ある情報を聞き手と共有しているかしていないかで説明するのは妥当性がないと思う。

また、박현주(2011:7)では「ㄴ 것(-l geos)」が使用されるときには推測の内容と推測の根拠の間に緊密な因果性がそれほど感じられないのに対して、「ㄹ(-gess)」は推測の内容とその推測を可能にする根拠との関連性が密接であるとしている。従って、「ㄴ 것(-l geos)」が使用されるときには推測の内容と推測の根拠の間に緊密性や密接性が問題にならないとし、多少不確実な内容にまで拡大して使用できると述べている。

例42) ^{あの} ^人 ^が ^{スパイかな}
저 사람이 간첩일까?

a. ^{スパイ}
간첩 일 것(-l geos)이다.

b. ^{스파이}간첩이 졌(-gess)다.

박현주 (2011:7)

例42a)で「간첩일 것이다」と推測したのは、推測の根拠となる情報、例えば砂が付いているスニーカーを履いていて毎晩ラジオを聞いて物価を知らないなどのことをみると「아마도(多分) 간첩일 것이다」と思われるという意味を伝達しているとしている。一方、「간첩이 졌다」と判断したら、その人の服や行動などをみたらスパイであるという確信がある程度はあるという意味を表すとしている。

しかし、両方の文に判断内容と根拠の間に緊密性はあると思われる。また、例42)で「졌(-gess)」と「ㄷ 것(-l geos)」が使われている文の根拠は推測内容との緊密性で異なると説明しているが、説明されている根拠を見ると、何の違いがあるのかが明確にされていないようである。

例43) ^{全ての動物は死ぬ 犬は動物である} 모든 동물은 죽는다. 개는 동물이다.

a. ^{従って 犬も死ぬ} 그러므로 개도 죽을 것(-l geos)이다.

b. *^{従って 犬も死ぬ} 그러므로 개도 죽 졌(-gess)다.

박현주 (2011:7)

例43a)で「개는 죽을 것이다」とした場合にはその推測の内容が推測の根拠との密接な関連性や緊密性が要求されないとし、一般的な推測が可能となり、付加的に話し手は推測の内容に対する責任感を感じないと言っている。このように推測の内容が推測の根拠と必然的な関連性が見えない情報で「졌(-gess)」が使用されたとすると「ㄷ 것(-l geos)」が使用されている場合より不自然になると主張している。

しかし、全ての動物は死ぬから犬も動物という普遍的な法則や常識的な内容を前提で判断してみると、「私が愛しているうちの犬も死ぬと思う」としたら、「졌(-gess)」の使用は不自然ではないとしている。これは犬が死ぬという推測とその推測の根拠の間に密接な関連性があるからであるとし、「졌(-gess)」と「ㄷ 것(-l geos)」の基本的な意味の違いは推測の根拠と推測の内容との緊密性とこれによる話し手の不確実な態度の程度によって決められるとしている。

例43)で「겠(-gess)」「ㄷ 것(-l geos)」が使われている二つの文は自然であると思われる。「話者の不確実な態度の程度」と説明しているが、これは「確信度の高低」のような説明であると思う。

金東郁(1999:137)では、「겠지(-gess-ji)」と「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」を現実に実在する根拠の存在を必ずしも前提としない「根拠非前提型」推量を意を表すものとして想定し、「것 같다(-geos gatda)」「듯하다(-deus hada)」「가 보다(-ga boda)」「모양이다(-moyang-ida)」は「根拠前提型」であるとしている。

金東郁(1999:139)では「겠(-gess)」は唯一の単一形態素であるということもあって、「다(-da)」以外の結語語尾と共に用いられることが、他の推量形式に比べて断然と多いとし、特に「지(-ji)」と結合して「겠지(-gess-ji)」の形で用いられることが多いと言っている。また、「지(-ji)」は「確認叙述文」や「確認疑問文」を作る「終結語尾」であるとし、「確認叙述文」とは、話し手が命題内容について既にある程度は認知していることを示唆しながら、聞き手にそのことを確かめる叙述文であると述べている。「確認疑問文」とは、話し手が命題内容について既にある程度は認知していることを示唆しながら、聞き手に疑問を投げ掛け、同意を求める疑問文であるとし、「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」は「지(-ji)」と結合させると非文になってしまうと述べている。

金東郁(1999:141)では、「겠지(-gess-ji)」は、次のように、疑問文の「나는~라고 물었다(私は~と訊いた)」の「内包文」としても、叙述文の「나는~라고 생각했다(私は~と思った)」の「内包文」としても適切であることが確認できるとしている。つまり、「겠지(-gess-ji)」は相手がいなくても疑問文ではなく、話し手の推量を表す文になるとしている。

例44a) 나는 “내일은 그 사람이 오겠지(-gess-ji)?” 하고 물었다.

私は “明日は あの 人が 来る(推量・確認)” と 訊いた。

例44b) 나는 “내일은 그 사람이 오겠지(-gess-ji)” 하고 생각했다.

私は “明日は あの 人が 来る(推量・確認)” と 思った。

金東郁(1999:141)

ただし、これは例44a)のように「겠지(-gess-ji)」の部分のイントネーションが通常の尻下り型のときのことで、例45b)のように尻上り型のとき

は「推量確認疑問文」として解釈されるとしている。

例45a) 내일은 그 사람이 오겠지(-gess-ji). (ㄴ)

明日は あの 人が 来る(推量確認叙述)

例45b) 내일은 그 사람이 오겠지(-gess-ji)? (ㄷ)

明日は あの 人が 来る?(推量・確認疑問) 金東郁(1999:141)

この際の「겠지(-gess-ji)」も、聞き手に積極的に答え(情報)を要求する質問文ではなく、疑問の意を提起するだけで終わる性質のものであるとしている。つまり、聞き手から情報を引き出すのが主眼ではなく、話し手が自分の推量判断について確信を持つのが本来的な目的であって、そのために聞き手に確認をするといった形式的な手順を踏むだけであると説明している。たとえば、例45b)の文は、聞き手が存在するとも存在しないとも解釈されうるとし、聞き手が存在しないとすれば、話し手自らが自問自答をし、答えを探し求めるといった意味を表わすことになる」と述べている。また、聞き手が存在し、その聞き手に当該の情報がないことが明らかな発話場面でも、「겠지(-gess-ji)」は、例45b)のように用いられるが、このときは、話し手が聞き手と共に答えを探し求めるという意味を表わすとしている。このような「겠지(-gess-ji)」文は、もはや疑問文ではなく、叙述文、つまり、「確認叙述文」にかなり近いとし、このような側面は日本語の「だろう疑問文」に非常に類似していると言っている。「겠지(-gess-ji)」は「推量確認叙述文」及び「推量確認疑問文」を作る形式であるが、「推量確認疑問文」を作る場合においても、聞き手に積極的に情報を要求する聞き手目当てモダリティの質問文ではなく、命題内容に疑問の意を提起するだけで終わる命題目当てモダリティの性格が強いものである」と述べている。

また、金東郁(1999:152)では「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」は、話し手の情報量が聞き手より優位にあることを前提とする「話者優位」の推量の意を表すことができるとしている。次の例文も話し手(僕)のほうが情報量において優位にあるため、「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」は文末形式として適切であり、「겠지(-gess-ji)」は不適切であるとしている。

例46) ^{僕が 車を 送ってやる 車は 1時頃 到着する} 내가 차를 보내주마. 차는 1시쯤 도착할 거(-l geo)다./??하겠지
(-gess-ji).

例47) ^{この 病は 必ず 完治 される} 이 병은 반드시 완치 될 것(-l geos)입니다./??겠지(-gess-ji)
요. 金東郁(1999:153)

例47)で患者の家族たちが、患者の病気が好転することを願いながら、話し合っている発話場面に設定を変えると、「겠지(-gess-ji)」も文末形式として許容されるとしている。

金東郁(1999)では、「겠다(-gessda)」の現状描写について説明している際に次のような例文を出し、「겠다(-gessda)」は「君の顔は、子供の頃だ**いぶ**苦勞をしたような印象をうかがわせる」といった、現在の発話場面に現存する根拠(顔)そのものを描写するという意味が強く、「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」 「겠지(-gess-ji)」は、「君の顔から判断すれば、君は子供の頃**だ**いぶ苦勞したと推測される」といった、発話現場の根拠(顔)から判断を引き出すという意味が強いと述べている。

例48) ^{いま 君の 顔を 見たら 子供の とき 苦勞が 多かった} 지금 너 얼굴을 보아하니, 어렸을 때 고생이 많았 겠다(-gessda).

例49) ^{いま 君の 顔を 見たら 子供の とき 苦勞が 多かった} 지금 너 얼굴을 보아하니, 어렸을 때 고생이 많았 을 것이다(-l geos-ida). / 겠지(-gess-ji). 金東郁(1999:213)

ここで、注目したいのは、「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」 「겠지(-gess-ji)」についてである。上の例文は話し手の情報量が聞き手より優位にあるとは言えない。一般的に話し手が推測していることは聞き手のことに関わることで聞き手より情報を優位に得ることは出来ないと思われる。

従って、金東郁(1999)で「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」と「겠지(-gess-ji)」の違いの説明は妥当性がないと言えよう。

また、金東郁(1999:154)では「겠지(-gess-ji)」は「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」に置き換えると、多少とも文が不自然になるが、聞き手を意識せざ

るを得ない発話状況において、聞き手を無視しているかのように受け取られるためであろうとしている。

しかし、例50)では「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」を使っても聞き手を無視しているようには見えないと思う。

君は この 金貨を 元の 石炭に 変えて おこうと 言う 僕たちは
例50) 자네는 이 금화를 원래의 석탄으로 되돌려 놓겠다고 하지. 우리는
また しない ほうが いい と 言う この ままでは いつまで 経っても 終わ
또 하지 말았으면 좋겠다고 하지. 이래가지고서는 언제까지 가봐도 끝나
らない のが 当然で ㄷ 겠지(-gess-ji). 그래서 僕の 考えでは この 金貨を
지 않는 게 당연하겠지(-gess-ji). 그래서 내 생각에는 이 금화를
元手に して 君が 僕たちと 카드遊びを する のだ
맡천으로 해서 자네가 우리하고 카드놀이를 하는 거야. 金東郁(1999:154)

このように、金東郁(1999)では「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」は聞き手の情報を考慮せず、話し手が情報的に優位にあることを前提とし、命題内容の真偽についても話し手の判断を聞き手に一方的に述べる、「話者優位」の推量の意を表す形式であるとしている。また、「ㄷ 겠지(-gess-ji)」は聞き手情報を考慮しながら、聞き手と共に判断を形成していこうとする「共感帯形成」を前提とする推量の意を表す形式であるとしている。

しかし、「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」を使ったら、聞き手の情報を考慮せず、命題内容の真偽について話し手の判断を聞き手に一方的に述べるようになる理由は「ㄷ 것이다(-l geos-ida)」が「話者優位」の形式であるからではないと思われる。誰に対してどのようなことを判断するのかによって聞き手に対して一方的な言い方になるかどうかが決まるとと思われる。このように、韓国語の「ㄷ 겠(지)(-gess(ji))」と「ㄷ 겠(-l geos)」の違いについて話し手が持っている情報を聞き手も持っているかどうかなどで説明しているが、このような説明は妥当性がないと思われる。そこで、「ㄷ 겠(-gess)」と「ㄷ 겠(-l geos)」の本質的な意味を探るために以下のような先行研究を見てみることにする。

金美善(1990:8)では、「-ㄷ 겠(-gess-)」は意志、可能、推測、慣用的表現を表わすことが出来るとしている。ここでは、推測を表わす場合のみを

見ることにする⁵⁾。

金美善(1990)では「-겠-(-gess-)」が推測の意味を持つ場合には、意志が判断主体や文の主語で制約を受けたのとは異なって文の主語の人称で大きな制約は受けないとしている。

以下は金美善(1990:40, 42-43, 49)の例文と説明である。

例52) a. ^{明日 朝} 내일 아침, ^{私は 彼を 会える} 나는 그를 만날 수 있겠(-gess)다.

b. *^{私は いま とても お腹が空く} 나는 지금 몹시 배고프겠(-gess)다.

c. ^{私が 間違いなく 勝つ} 내가 틀림없이 이기겠(-gess)다. 金美善(1990:40)

例53) a. ^{明日 朝} 내일 아침, ^{彼女は 彼を 会える} 그녀는 그를 만날 수 있겠(-gess)다.

b. ^{彼は いま とても お腹が空く} 그는 지금 몹시 배고프겠(-gess)다.

c. ^{彼が 間違いなく 勝つ} 그가 틀림없이 이기겠(-gess)다. 金美善(1990:40)

3人称主語に変わる例53)の場合にはそのまま推測の意味を維持しているが、例52)のように1人称に変わる場合は例54b)のように非文法的な文になったり、例52c)のように意志で解釈できる文になったりするとしている。これは「-겠-(-gess)」が推測で表現できる範囲が全ての人称に関係なく該当するが、判断対象の人称と主体との距離感及び自身の支配性の有無によ

⁵⁾ 金美善(1990:29)では、「-겠-(-gess)」の状況的な意味の中には「判断の主体の意志」を表わすのがあるとし、話者の意志を表現する文は例51a)の場合だけであり、例51b)と例51c)は「推測」や「可能性」を表現していると述べている。従って、「意志」は「-겠-(-gess)」の意味の中で一つの部分であり、本質的な意味にならないとしている。

例51) a. ^{私は 必ず 私に 勝つ} 나는 기어이 나를 이기겠(-gess)다.

b. ^{君は 必ず 彼を 勝つ} 너는 기어이 그를 이기겠(-gess)다.

c. ^{彼は 必ず 私に 勝つ} 그는 기어이 나를 이기겠(-gess)다. 金美善(1990:30)

そして、意志とは、今からあり得る出来事や行動についての判断の主体の心理的な態度を表現するのであるため過去の事実について発話時の意志を直接表出できないのであるとし、意志は未確認の事実から出発すると言っている。

って意志と区別されることを意味すると述べている。

例54) a. ^{いま} 지금 ^{君は} 너는 ^{私が} 내가 ^{羨ましい} 부럽겠(-gess)다.

b. ^{いま} 지금 ^{私は} 나는 ^{君が} 네가 ^{羨ましい} 부럽겠(-gess)다.

例55) a. ^{いま} 지금 ^{君は} 너는 ^{家に} 집에 ^{行き} 가고 ^{たい} 싶겠(-gess)다.

b. ^{いま} 지금 ^{私は} 나는 ^{家に} 집에 ^{行き} 가고 ^{たい} 싶겠(-gess)다.

金美善(1990:42)

上の例の「부럽다」「가고 싶다」などは心理を表現する叙述語で判断主体である話者が確認して伝達できる領域は極めて制限的であると言えるとし、従って、自分が心理を把握できる「私」の領域ではないと確認が難しいため推測の表現しか使えないのであるとしている。また、金美善(1990:49-50)では以下のように述べている。

「-겠(-gess-)」の「意味範疇」は「法」であり、その本質的な意味は「未確認」である。未確認の事実は「未来」に限定されているのではなく過去に起きたり、起きる可能性があると考えていること、現在に起きていることについての未確認の事実が全て含まれる。この「未確認」の「-겠(-gess-)」は判断主体の未確認事実であり、それは話し手の心理によって決定される。平叙文、感嘆文の判断主体は話者であり、疑問文の判断主体は聞き手であるが、疑問文の場合にも話し手が思うに聞き手が確認していないと思っていることには「-겠(-gess-)」を使用するようになる。

「-겠(-gess-)」の「未確認」要因が最も顕著に表わされている場合は推測の状況であるが、自分が直接体験出来なかったり、確認できていない事実については推測だけが可能になり、このときに「-겠(-gess-)」が使用される。

金美善(1990)での説明のように「-겠(-gess-)」は意志、可能、推測などを表わせるが、これらの本質的な意味は未確認であると見ることが出来ると考えられる。次は「ㄷ 것(-l geos)」の本質的な意味について見てみることにする。

안신혜(2011:51)では、「것(-geos)」は事物、出来事、現象などを抽象的に言う言葉であるとし、そのため、依存名詞(以下形式名詞)の中にも抽象性が高い方に属するとしている。物理的な事物を表わしていた言葉が心理的な出来事、現象などにも使われて意味が拡張されるとし、「것(-geos)」は「르걸(-lgeol)」「느걸(-neungeol)」「르거다(-lgeoda)」「르게다(-lgeda)」「르게(-lge)」の形態で使われると言っている⁶⁾。

例56) a. ^{明日は} 내일은 ^{雨が} 비가 ^{降る} { 올 거(-l geo)다 / 올 것(-l geos)이다. }

b. 나는 ^{私は} ^{旅行を} 여행 ^{行く} 을 { 갈 거(-l geo)다 / 갈 것(-l geos)이다. }

c. 그는 ^{彼は} ^{学校に} 학교 ^{行く} 에 { 갈 거(-l geo)다 / 갈 것(-l geos)이다. }

안신혜(2011:53)

例56a)のように推測、予定の意味で使われる場合と例56b)、例56c)のように意図、意志の意味で使われる場合があると述べ、例56b)と例56c)は「旅行に行く予定がある」または「学校に行く予定である」の意味で捉えられるが、「旅行に行く意志を持っている」または「学校に行く意志を持っている」の意味で捉えることもできると説明している。

例56b)は自分のことなので意志の意味で捉えるのが当然であるが、例56c)は第三者のことなので推測で捉えることもできると思われる。안신혜(2011)の意見に反論するわけではなく、例56c)のような例文が第三者の意志を述べるような断言の文としても、話し手の推測を表わす推測文としても自然に使われることを言っておきたい。

⁶⁾ 안신혜(2011:51)「르걸(-lgeol)」は話し手の残念な気持ちを表わす場合とあることや状況について確実に知ってはいないが、恐らくそうであろうという話し手の推測を表わす場合があるとしている。「느걸(-neungeol)」は話し手が感じたことや考えを聞き手に確認して叙述するときするときと聞き手が言ったことに対して軽く反論するときに使われるとしている。「르거다(-lgeoda)」は「르 것이다(-l geos-ida)」が縮約された言葉で話し手の意志や予定を表わすと述べている。「르게다(-lgeda)」は推測、予想、意図、意志、約束を表わすために使われるとし、「르게(-lge)」は話し手の意図、意志を表わす言葉であるとしている。

안효경(1999:78)では、「것(-geos)」は文章形式で表現される事件または、出来事、単語で表現できる「人、動物、味」などの抽象物ないしは、具体物は勿論それを表現する具体的な単語がない物までも代用できる機能であるとしている。また、「것(-geos)」が代用するのは文章の外の物であったり、文章の中のある文章の成分が指示していることでもあったり、それが使われた文章が与える文脈的状况で推論される意味でもあったりすることもできると判断されるとしている。

このように、「것(-geos)」が指示する意味が文脈的状况によって解釈されるのは「것(-geos)」の指示機能の包括性に起因していると言えるとし、以下のような例文を出して説明している。

例57) a. ^{チョルスが}철수가 ^{先に}먼저 ^{到着した}도착한 하 ^{する(現在)}는 (-haneun-), ^{する(未来)}할 (-hal-) 것
(-geos)이다.

b. ^{チョルスが}철수가 ^{先に}먼저 ^{到着した}도착했다. 안효경(1999:78)

以下は안효경(1999:78, 108)の説明である。

例57a)は「것(-geos)」に繫辞「이다(-ida)」が結語されて断定と強調の意を表わす名詞文構成であるが、「것이다(-geos-ida)」形の叙述語は例57b)の一般叙述語とほとんど同一に使われる。例57b)は例57a)と命題内容は同じであるが、例57a)は命題の陳述内容以外に話者の認識態度が介入されている。この「것이다(-geos-ida)」は文章の命題内容については何の影響を与えず、文章に一定の様態の意味を添加してくれているが、それは「発話内容を特徴付ける」機能である。つまり、発話内容が単純な客観的な事実以上の現象で話者に認識されているのを表わしているが、「問題意識の提起」を通じた「強調、換言、断定」という主観的判断が介入される。

対象性形式名詞の機能と意味をみると、これらの形式名詞が持っている対象性は人物指示、事物指示、時間指示、空間・位置指示、状態指示の対象性に分けられるが、対象性形式名詞の基本的な意味機能はこのような人、物、時間、空間、状態を代用的に指示することである。また、対象性形式名詞の中で一部は通辞的環境によって命題についての話し手や主語の心理的な態度や多様な文脈状况を表わす様態的な意味を表現したりする。

以上の先行研究からみると、「겠(-gess)」の本質的な意味は「未確認」で「ㄷ 잇(-l geos)」の本質的な意味は「叙述」であると考えられる。

例 58) 그는 ^{彼は 明日 来る} 내일 오 겠(-gess)다.

例 59) 그는 ^{彼は 明日 来る} 내일 을 잇(-l geos)이다.

例 58)は推測の意味でしか解釈出来ないのに対して、例 59)は推測の意味もあるが、彼が明日来ることが決まってい話し手もそれを知っている(彼から聞いたり、かなりの情報を持っている)場合であれば彼が来ることを叙述する文として解釈することも出来るようである。次は推量を表す「だろう」から確認・同意要求用法の語用論的な意味が出てくる際に翻訳されていた「잖(-janh-)」について触れることにする。

황성희(2007:33-40)では、「-잖(-janh-)」の意味機能は次の三つに分けて説明しており、「-잖(-janh-)」の意味機能別分布について表 3 のようにまとめている。

表3 「-잖(-janh-)」の意味機能別分布

意味機能		頻度数	%
確認機能		63	15
共有機能	聞き手の情報を引き入れる	328	75
	話し手の情報の聞き手転移	23	5
談話表紙語の形成機能		25	5
合計		439	100

황성희(2007:33)

一つ目は確認機能で話し手が持っている情報を聞き手に確認する意味機能であるとし、話し手が確認しようとする情報について聞き手も知っているだろうという前提が介入されている疑問文であるとして次の例文をあげている。疑問文としての意味機能は維持しているため、疑問形と平叙形の終結語尾が可能である「-아(-a-)」と一緒に使われることが多いと述べている。

例60)

兄さんは家でしてくれませんか
P: 오빠는 집에서 해주지 않아요?

僕たちの家の雰囲気は中学校の頃からお腹空いている人が作って食べること
C: 우리 집 분위기는 중학교 때부터 배고픈 놈이 해 먹는 거
だったんだ
였어.

そうすごい
P: 그래? 대단하다.

自分で作って食べなきゃ、お腹空いたら面倒くさい。一日三食食べようとする
C: 알아서 해 먹어야 돼, 배고프면. 귀찮지. 하루 세끼 먹으려면.

あのう、えーと息子しかいない
P: 아니, 저기 아들밖에 없잖아(-janh-a)요, 오빠. 그런데도 그래요?

황성희 (2007:34)

二つ目の機能は共有機能で話し手が伝達しようとする情報を聞き手と共有することで話し手の発話意味をより効果的に伝達する意味機能であるとし、話し手が情報を伝達するときに一方向的に情報を伝達する断言の負担を減らすために情報を共有するのであると述べている。また、この機能はさらに二つに分類されるとしている。

その一つ目は「聞き手情報の引き入れ」で聞き手が持っていると思われるまたは、持っていなければならないと思う情報を引き入れて相互既知の情報で共有することであるとして次の例をあげている。このとき、談話の状況で肯定的な含蓄を表わしたり、否定的な含蓄を表わしたりすると述べている。

例61)

購買者 いいじゃない 私は そんな のが 可愛い
구매자 2: 안 좋으냐? 난 그런 게 이쁘던데.

購買者 私は 이것이 もっと 可愛いけど. 색깔이 이것이 더 きれい
구매자 1: 난 이게 더 예쁜데. 색깔이 이게 더 곱잖아(-janh-a).

황성희 (2007:36)

例62)

海^に行^{ったら}たら 雪^が 横^{から} 降^る
C:바닷가 가 면 눈이 옆으로 내려.

なんで
P: 왜 ?

風^が 吹^く
C:바람이 불 잖아(-janh-a).

황성희 (2007:37)

例61)では話し手の断言に対する負担を減らしてくれる肯定的な含蓄を表わすとし、例62)では聞き手も風が吹くという情報を知らなければならない情報になって「あなたはそれも知らないの」という否定的な含蓄を表わすのであると説明している。

例61)もどう解釈されるかによって否定的な含蓄が表わされるのではないかと思われる。肯定的な含蓄を表わすには他の表現、例えば聞き手に確認をする形式の「지(-ji)」を使うや抑揚を上げて疑問文にするなどで表現した方がいいのではないかと思われる。

共有機能の二つ目の機能は「話し手情報の聞き手転移」で文脈上聞き手は共有できない話し手だけの情報にも関わらず聞き手と共有している情報のように話す態度を表わすとして次の例をあげている。このような態度は話し手が持っている情報を聞き手もある程度分かってくれるだろうという期待に基づいて聞き手とその情報を共有したい話し手の心理を表わすと述べている。また、相互既知の前提が成立できないため、情報を共有しようとする話し手の心理を表わしているだけであるとしている。

例63)

古^い 学^校で 少^し 古^い 学^校で . ^{それで} 新^{しく} 学^校の 土^地 買^って
Y:오래된 학교라 조금 오래된 학교라서. 그래갖구 새로 학교 땅 사갖구

新^たに 建^てたんです ^{それで} 新^{しい}学^校 三^日だけ 行^って 見^て 卒^業した
다시 지었거든요. 그래갖구 새 학교 삼 일 가 보고 졸업했 잖아(-

janh-a)요. ^{どんなに} 悲^しか^ったか ^{そこ} 行^ってみたら
얼마나 슬펐는데. 거기 갖 더 니.

あ ^{それが} ^{もっと} 良^く ^{ない} ^{んだ} 前^の 学^校で 卒^業して 終^わら^ず ^のが
J:아, 그게 더 안 좋은 거야. 전 학교에서 졸업하고 마치는 게

もっと いい んだ
더 좋은 거야.

황성희 (2007:39)

この「話し手情報の聞き手転移」は次のような状況で聞き手が認識していない情報を聞き手に知らせる場合にも使用できるとし、日常会話で効果的に使用できる機能であると述べている。

例64) S: 빨리 써라. 지우 잘아(-janh-a). 빨리 써. 황성희 (2007:40)

共有機能の説明で「聞き手情報の引き入れ」と「話し手情報の聞き手転移」の違いが曖昧であると思われる。また、例64)は聞き手に知らせる機能はあると思われるが、相手を押付けるような強い言い方になると思われる。

最後の三つ目の機能は談話表紙語の形成機能で話し手が伝達しようとする情報が聞き手も持っている情報であるという事実を対話を始める前に言うことでより効果的に情報を伝達しようとする機能であるとしている⁷⁾。

以上、韓国語の先行研究を見て来たが、「ㄷ(-gess)」と「ㄷ 것(-l geos)」の違いについて判断する根拠を話し手と聞き手両者が持っているか話し手だけが持っているかによって説明しているが、それは一つの機能であり、二つの形式を区別する基準にはならないと思われる。つまり、韓国語の先行研究の大きな問題点は話し手が判断するのにどのような根拠を持っているのかやその根拠はどこから得たものであるのかを見ていないため、二つの形式の違いところが理解出来ない点であると思われる。また、「잘(-janh-)」についても、「聞き手情報の引き入れ」と「話し手情報の聞き手転移」の違いが曖昧であり、「聞き手が認識していない情報を聞き手に知らせる場合」に「잘(-janh-)」を使うことで例 66)のように聞き手を押し付けるような言い方になる場合もあると考えられる。

次は、日本語の「だろう」「かもしれない」「はず」の形式がテキストではどう説明されているのかをしてみることにする。

2.5 テキストでの文法説明

『みんなの日本語初級Ⅱ』(1999)では、「だろう」と「はず」について次のように説明されている。

⁷⁾ 詳しくは황성희 (2007)を参照

「だろう」はある事柄について、話し手は自分が持っているある情報に基づいて推測する際に使う。疑問文で使われると、聞き手の推測を尋ねる質問になる。「はず」は話し手がある根拠に基づいての判断を確信して言うときに使われる。

例 65) ミラーさんはきょう来るでしょうか。
来るはずですよ。きのう電話がありましたから。 (pp. 129)

『実力日本語下』(2001)では、以下のように説明されている。

「でしょう」は話者の想像の中で認識したことを表す。「あした雨が降るでしょう」は想像の中で「降る」という事実を認識しており、その確信度はかなり高い。従って「私はあした死ぬでしょう」「私の乗る飛行機は落ちるでしょう」という文は不自然である。

『新日本語の中級』(2003)では、「だろう」は周囲の状況や情報に基づいた話者の推測、判断を表すとし、「でしょう」は断定せずに「でしょう」という推測表現を使うことによって丁寧な表現になると説明されている。

『初級日本語文法と教え方のポイント』(2005)では、「～はずだ」は、話し手がある根拠にもとづいて当然こうなるという確信(期待)を聞き手に伝える表現です。一方、「～だろう」は話し手の主観による想像・推量を、また「～ようだ」「～らしい」は根拠にもとづく想像・推量を表すと説明されている。

例 66)
A: 村田さん、遅いですね。
B: ええ、でも、きのう必ず来ると言っていたから、来るはずです。
(pp. 155)

「だろう」と「はず」の文法説明は同じような(ある根拠を持って判断をする)説明で学習者は混乱すると思われる。また、確信度の高低だけの説明では二つの形式の違いが分からないと思われる。また、「あした雨が降るでしょう」という例文は天気予報でよく言う言葉で個人が推測して話す文ではないと思う。また、「確信度が高い」というよりは「断定を避ける」表現であると思われる。

『日本語の初級 I 文法説明韓国語版』(2000)では、「～かもしれません」は話者の推測を表わす場合に使われるとし、「～」には推測の内容を表わ

す文章が来るとしている。形態は普通体であるが、「～だ」の場合には「だ」を除いた形で使用すると説明されている。

例67) あしたは雨かもしれません。

例68) あの映画は面白いかもしれません。

例69) 彼はもう国に帰ったかもしれません。 (pp. 84)

また、「～でしょう」は大体「～」だと思ふという話者の推測を表わすとし、「たぶん」という副詞を伴って「たぶん～でしょう」の形で表わす場合が多いとしている。「でしょう」の前には「～かもしれません」の場合と同じように普通体(「～だ」の場合には「だ」を除いた形)が来ると説明されている。

例70) 明日は雨でしょう。

例71) 今年の冬は暖かいでしょう。

例72) 鈴木さんはたぶん研究室に来ないでしょう。 (pp. 84)

そして、例73)から例76)まで順番に行くほど確信度は高くなると説明されている。

例73) この本は田中さんの本かもしれません。

例74) この本は田中さんの本だろうと思います。

例75) この本は田中さんの本でしょう。

例76) この本は田中さんの本だと思います。 (pp. 85)

このテキストでは「だろう」と「かもしれない」について文法説明と例文を出しているが、「話し手の推測を表わす場合」という似たような説明と確信度の強弱の説明だけでは二つの形式の違う点が分からないと思われる。

『日本語初級Ⅱ文法説明韓国語版』(2000)では、「～はずです」は「～」には名詞修飾節が来るとし、話者の知識や事実、または論理に基づいて帰結を推測する場合、「当然(間違いなく)こうである」と判断する気持ちで使用されると説明されている。

例77)お母さんはもうすぐ買い物から帰って来るはずだよ。

例78)ここから新幹線が見えるはずですよ。

例79)シャツが2200円、靴下が800円ですから、合計は3000円のはずですよ。

例80)林さんは国へ帰ると言っていたから、今はアパートにはいないはずですよ。
(pp. 30)

『にほんご90日③韓国語解説版』(2000)では、「Aはずですよ」の形で話者がある根拠に基づいて「当然Aである」と考えたこと、「当然Aになる」と推測したことを表わすとし、自分がしたことには使わないが、自分が思った通りに出来ないときには使えると説明されている。

例81)田中さんは子供のとき、フランスに住んでいました。フランス語がわかるはずですよ。

다나카 씨는 어릴 때, 프랑스에 살았습니다. 불어를 알 것(-1 geos)입니다.

例82)説明書によると、このボタンを押せば、機械が動くはずですよ。

설명서에 의하면 이 단추를 누르면 기계가 움직일 것(-1 geos)입니다.

例83)×私は夏休みに北海道へ行くはずですよ。

例84)○私は夏休みに北海道へ行くはずだったんですが、病気で行けませんでした。

나는 여름 휴가에 홋카이도에 갈 작정(jagjeong)이었지만, 아파서 갈 수 없었습니다.
(pp. 49)

「はず」の説明では「話者がある根拠や事実に基づいて当然こうである」という説明が多いようであるが、推測をする自体がある話し手の中での知識や根拠に基づいて推し量るということなのでこのような説明では他の形式とも違う点が理解できないと思われる。

以上、テキストでの文法説明を見たが、三つの形式の文法説明は似たような説明で学習者はある場面でどの形式を使えばいいのかが分からないと思われる。つまり、三つの形式の違う点がはっきりしていないため、学習者に誤用が生じる可能性があると思われる。テキストでの例文も話し手がどのような根拠を持っていて、その根拠はどこから来たのかなどが分からない文脈が多いため、学習者はどのような場面でどの形式を使えばいいのかが分からないと思われる。

第3章 誤用調査

3.1 日本語の「だろう」「かもしれない」「はず」についての調査

韓国人日本語学習者は3つの形式を使う際にどのような形式がどのような用法で間違っているのかを見るために誤用調査を行った。

日本語母語話者に対する「だろう、かもしれない、はず」についての調査は22歳から26歳の大学生と大学院生の日本語母語話者10人を対象にした。また、韓国人日本語学習者に対する「だろう、かもしれない、はず」の誤用調査は22歳から24歳の大学生の韓国人日本語学習者10で、レベルは大学生の3年生以上の日本語を専門とする学生である。

調査方法としては、各形式に対する文を10問ずつ作った。その文は小説から取り出した用例文と筆者が作った作例であり、各形式が書いてある部分は空欄にした。被験者には問題文の空欄に選択肢の中から適切であると思われる語を一語だけ選んで書いてもらった。そのとき、指示したのは次の4つである。

「最も適切であると思われる語を選んで書いてください。」と「活用する(他の単語との接続のとき形を変えること)必要がある場合は自由に変えてもいいです。」と「どの形式も入らない(空欄もままで良い)と判断されたときは何も書かないでください。」と「時間をかけずに思い浮かんだ語を書いてください。」であった。

調査の結果で日本語母語話者と韓国人学習者の選択に差があった例文を中心に挙げて見てみることにする。括弧の外にある数字が日本語母語話者の人数を表わし、括弧の中の数字は韓国人学習者の人数を表わしている。以下は「だろう」が自然に使われている文であるが、学習者は「かもしれない」や「はず」を選択している。

調査文1) 「部活で剣道やってる人が、家ではロックを聴いてるなんて。なんかイメージがぜんぜん違うもん」「剣道で相手の面やなんかを打つとスカッとする_____。だからロックを聴くのと同じだよ」

だろう	かもしれない	はず	無標
8(7)	2	(3)	

調査文2) 西暦二千年の初夏にも、やはり城山のアジサイは咲いているような気がした。だから慌てて見にいかななくても、その気になればいつでも見られる_____と。

だろう	かもしれない	はず	無標
9(8)		(2)	1

調査文3) (毎年9月がもみじの見ごろなのを知っている。今年の9月になって)

今ごろ山はもみじがきれい_____。

だろう	かもしれない	はず	無標
10(6)		(4)	

調査文4) 「これはね、男の子と女の子が、その日の出来事や、思ったこと感じたことをノートに書いて、交換し合うの」「そういう面倒くさいこと、おれはだめだよ。クラスに誰か適当なやついないのか」「誰でもいいってもんじゃない_____」

だろう	かもしれない	はず	無標
10(7)			(3)

調査文5) 「それはきっとわたしの神様とは違うんだわ」「神様は何人もいるのかい？それとも何種類？」「天国を畏れることはないけど、神様を畏れることってある_____。そういう気持ちを抱かせる神様にたいして、わたしは毎晩お祈りしているの」

だろう	かもしれない	はず	無標
9(5)	1(1)	(4)	

調査文6) 「たとえばの話だよ」とぼくは言った。「仮におまえが大木金之助だったとするよな。そしたらおまえは学校中の笑いものだ」大木はちょっと浮かない顔になった。ぼくはつぶけた。「おまえは自分にこんな名前をつけた親を恨んで家を飛び出す_____。そしてプロレスラーになるんだ」

だろう	かもしれない	はず	無標
8(4)	2(2)	(4)	

調査文7) 彼はいつも試験に合格していたから今度も合格する_____。

だろう	かもしれない	はず	無標
9(4)	1	(6)	

「だろう」文の結果を見ると、学習者は「だろう」が習得されているように見えるが、「はず」を選択している学習者もいるためいつ「だろう」や「はず」を使えばいいのかが分からないようである。

次は「かもしれない」が自然に使われている文であるが、「だろう」を選択している学習者もいた。

調査文8)ぼくとアキとは、その後も男女の学級委員として、過不足のない関係をつづけていた。一緒にいる機会は多かったが、とくに異性として意識したことはなかった。むしろ近すぎる距離のために、アキの魅力に気づかなかった_____。

だろう	かもしれない	はず	無標
1(6)	9(4)		

調査文9) A：田中さん今日来ないかな。

B：時間があれば来ると言ったよ。でも、昨日会ったけど、忙しそうだったから来ない_____。

だろう	かもしれない	はず	無標
1(4)	9(4)	(2)	

調査文10)「そりゃあ指定しておいてもいいが」祖父はやや思案顔になって、「わしが死ぬころには、そこがどうなっとなるかわからんからな。どこかの木の根元に撒いてくれと言っておいても、十年後には高速道路の下になっている_____。

だろう	かもしれない	はず	無標
	10(10)		

調査文11)彼は仕事を終えたと言って帰りました。確かに自分の仕事は終わった_____が、同僚の仕事を手伝ったらよかったですよ。

だろう	かもしれない	はず	無標
1(5)	9(2)		(3)

調査文12) 確かにおっしゃるとおり _____ が、こちらはこちらで立場があるのです。

だろう	かもしれない	はず	無標
(2)	10(5)		(3)

調査文13) 同じ道を一人で歩くと、長く退屈に感じられるのに、二人でお喋りをしながらだと、いつまでも歩いていたいと思う。教科書や参考書を詰め込んだ鞆の重さも苦にならない。われわれの人生だってそう _____、と何年もあとになってから思うことがあった。

だろう	かもしれない	はず	無標
2(6)	8(4)		

調査文14) ということで、お葉書を紹介しましょうか。—ハイ、風街のペンネーム「ヨッパ」さんからのお葉書です。「キヨヒコさん、ヨーコさん、こんにちは」こんにちは。「わたしはいま、お腹の病気で入院しています」へエー、そうなんですか。「毎日毎日、検査ばかりで嫌になってしまいます」うん、うん、「ひょっとすると手術しないといけない _____ ですか。せっかくの夏休みなのに。でも、長い人生。こういう夏も一度くらいあっていいの _____」そうですか、入院、大変ですね。

だろう	かもしれない	はず	無標
(1)	10(9)		

だろう	かもしれない	はず	無標
1(8)	8(2)		1

「ひょっとすると」などの副詞が共起した場合や根拠などが得にくい未来のことに対しては学習者も「かもしれない」を選択して習得されているように見えるが、日本語母語話者が「かもしれない」を選択している文に学習者は「だろう」を選択している場合もあってやはり、学習者は「かもしれない」が習得出来ていないようである。可能性を表わすところに学習者は自分の経験や知識による根拠を入れて判断しているように見える。次は「はず」文の結果を見てみよう。

調査文15)日曜日だから田中さんは家にいる_____。それなのに、いない。

だろう	かもしれない	はず	無標
(1)		10(9)	

調査文16)花子は弁護士だから、法律に詳しい_____。

だろう	かもしれない	はず	無標
1		9(10)	

調査文17) A：平田さん、遅いね。

B：うん、でも、昨日必ず来ると言っていたから、来る_____。

だろう	かもしれない	はず	無標
4(1)		6(9)	

調査文18) A：あー、お金が無い。銀行って今日、開いてるかな。

B：今日は日曜日だから、銀行は開いてない_____。

だろう	かもしれない	はず	無標
3		7(10)	

調査文19)サムは美術の先生だから、絵を描くのがうまい_____。

だろう	かもしれない	はず	無標
1		9(10)	

日本語母語話者が「はず」を選択している文にほとんどの学習者も「はず」を選択していて「はず」が習得出来ているように見える。しかし、「だろう」文の結果を見れば分かるように学習者は「だろう」を使うところに「はず」を選択しているため「はず」も学習出来ていないと言えよう。

この誤用調査では、学習者は日本語の三つの形式が学習出来ていないようであり、自分の中で何らかの確信度だけを持っていて判断しているようである。このように、韓国語では「どのような場面なのか」や「話し手はどのような根拠を得ることが出来るのか」などは関係なく、話し手がどの程度の確信度を持っているのかによって判断しているようである。このことについては第4章の対象考察で詳しく見ることにする。

3.2 「かもしれない」についての韓国人日本語学習者の誤用調査

日本語では間接的な表現を使う傾向があるようであり、「だろう」や「はず」を使ってもいいようなところにまで「かもしれない」を使っていると考えられる。そこで学習者はこのような表明や責任回避の用法が学習出来ているのかを見るために次のような調査を行った。「かもしれない」が使われている文で「だろう」に置き換えてもいいような文を取り出して「かもしれない」の部分を空欄にした。そして、韓国人学習者10人に穴埋めテストを行い、「だろう」「かもしれない」「はず」の形式の中でどのような形式を使うのかを見た。また、どの形式も入らないと判断したときは空欄のままでもいいと指示した。

調査文1)

「そんなのなみにならないよ。」

「そうかなー。もしかしたら彼女は、恋愛とか結婚とか諦めてたかもしれない。本来見ない夢見させて、俺はただ人がいいから優しくしてただけですなんて、それじゃ可哀想だよ。」

「直哉の言うことも、一理ある_____。」

	だろう	かもしれない	はず	断言
人数	4			6

調査文2)

「お金のことはいいって、彼女はその一点張りで。」

「そうですか。」

「でもちょっと安心したろ？そんな大金ねーのによ。思わず吹いちゃったホラだからな。」

「そうなんですか！？酷い！」

「違います。そりゃ俺にとってはすごい大金ですけど、貯金とか・・・ひよっとしたら店・・・」

「バカヤロウ！お前。店手放すつもり！？」

「汐見さん！？」

「お前その話、雫には！？」

「・・・雫にはまだです。でも、彼女には・・・彼女が受け取らないんだったら意味ないですから。」

「好きな相手だと、重い_____。それにこれまでの関係性が崩れるのも、怖い_____。今まで何でも言い合えたのに、借りが出来ると負い目を感じちゃうから。」

	だろう	かもしれない	はず	断言
人数	8	2		

	だろう	かもしれない	はず	断言
人数	7	3		

調査文3)

「この包帯が取れば、よくも悪くも人生が変わるわ。」

「悪く変わることはないですよ。」

「もう後戻りはできない。そう思うと怖い。」

「はい。」

「私は自分で一体何をやっているんだろうって・・・。」

「幸せになろうとしているんですよ。」

「逃げ出すチャンスはいくらでもあった_____」

	だろう	かもしれない	はず	断言
人数	2	1	1	6

調査文4)

「ですよ！じゃあ、ケンカでもしました？アイツ私の顔なんか見たくない、なんて言ってましたよ。氷柱って時々頭きますよね。びっくりするぐらい奇麗事言うし。初めて会った時は、コイツまじかよ、って思いました。でもあれ、全部本心なんですよ。本気で言ってるの。ある意味貴重_____！」

	だろう	かもしれない	はず	断言
人数	4	2		4

調査文5)

「こちらの派遣会社は主婦の登録が多いと聞いて伺いました。」

「何か技術を持っていたり得意なことはありますか？」とスタッフ。

「いえ とくにありません。事務職以外に出来ることがないと思うのでパソコンの勉強中です。」

「仕事をしながら得意なことを見つけていくという方も多いので決め付けない方がいい_____。」

	だろう	かもしれない	はず	断言
人数	8	2		

この調査からみると、韓国人学習者は直接的な表現をよく使う傾向があり、間接的な表現を使うことについては学習できていないようである。これは、日本語の三つの形式についての誤用調査でも分かったように韓国人学習者は「かもしれない」の婉曲の用法が学習できていないことと関わりがあると考えられる。学習者は「かもしれない」については単なる可能性を表わす表現であると理解しているようであり、教える際にこのように間接的な表現を使う傾向があることを含めて教えたら、学習者は自然な日本語が話せると思われる。

以上、誤用調査の結果を見ると、日本語母語話者は日本語の三つの表現を場面や文脈を考慮して使い分けているようであるが、学習者は自分の中でどれほど確信を持つことができるのかということだけによって判断しているようである。

第4章 シナリオの分析

4.1 「ㄹ (geoss)」 「ㄹ지 (-geoss-ji)」 「ㄹ 것 (-l geos)」についての調査

シナリオの分析に先立ち、韓国語の三つの形式にはどのような特徴があり、どのように異なるのかを見るために筆者がある場面を設定して、三つの形式が用いる例文を提示し、どれが一番自然でどれが一番不自然かを韓国語母語話者10人に判断してもらった。また、なぜ自然なのかと不自然なのかのコメントをもらった。

以下のような場面を設定して韓国人母語話者にどの形式を使えば自然であるかとその理由を聞いてみた。

調査例1) (友達と道を歩いているときに空を見たら曇っていたとき)

雨が降る + 推量。

- ① 「비 ^{雨 降る} 오 ㄹ (-geoss) 다 .」
- ② 「비 ^{雨 降る} 오 ㄹ지 (-geoss-ji) .」
- ③ 「비 ^{雨 降る} 올 거 (-l geo) 야 .」

上の状況で一番自然な文と一番不自然な文は何かを韓国人母語話者 10 名に判断してもらった。また、その理由を聞いてみた。

① 「비 오ㄹ (-geoss) 다」が一番自然であると判断した人は 10 名であった。また、② 「비 오ㄹ지 (-geoss-ji)」は言えなくはないが、自然ではないと 2 名がコメントした。そして、③ 「비 올 거 (-l geo) 야」は 10 名みんなが不自然であると答えた。その理由としては「天気予報など見ていないので」と「曇っているだけでは分からないから」などの意見があった。

話し手は何の情報を持っていないとき空を見て判断している場面で判断するための情報や根拠がほとんどないと考えられるときには「ㄹ 것 (-l geos)」は使えないようである。また、調査から分かったことであるが、「ㄹ (-geoss)」は現在知覚という用法があるようである。

「ㄹ 것 (-l geos)」の本質的な意味が叙述であることから推測の意味で使われている「ㄹ 것 (-l geos)」を聞き手はその情報を持っていないと信じている場合に使う形式であると見る先行研究の観点は間違っていないと思われる。しかし、叙述するには話し手がかなりの情報を持っていない

と叙述が出来ないという考えからみると、やはり話し手がどれほど情報や根拠を持っているのかという観点から見ることにも出来ると思われる。

調査文で③「비가 올 것(-l geos)이다」と発言すると不自然になる理由は、話し手は空を見て今得た情報をまるで前からよく知っていて(情報をたくさん持っているように)確信を持って言っているように見えるからであろう。「ㄷ 것(-l geos)」をある情報を聞き手が持っていると感じているかどうかという観点からみるので「ㄹ(-gess)」も同じ観点から説明できるとは限らない。先行研究でも述べられているように「ㄹ(-gess)」の本質的な意味は「未確認」であり、話し手は何らかの情報や根拠を持って推測しているだけである。

「ㄹ(-gess)」には現在見たり、聞いたりしたことを表わす現在知覚の意味も持っている。「비가 오 ㄹ(-gess)다」は話し手がある根拠を持って判断したのであるが、その根拠は現在曇っている空を見たときや天気予報で雨が降るということを聞いたばかりのときに使われると思われる。その場に聞き手がいるとしたら同じ情報を得ることになるが、話し手は聞き手もその情報を持っていると感じているから「ㄹ(-gess)」を使って発言しているのではなく、ただ現在知覚したのを表わしていると考えられる。何時間前に天気予報を見て今日雨が降る情報を持っていて(話し手はその情報を既に持っている)自分の中でかなりの情報を持っていると判断したときには「ㄷ 것(-l geos)」が使われると思われる。

日本語では「はず」を使うまでの情報や根拠は持っていないが、ある程度の情報や根拠(話し手の知識や経験などによるものでもいい)しか持っていないときに「だろう」が使われるようである。韓国語でもかなりの情報や根拠を持っているときに「ㄷ 것(-l geos)」が使われると思われるが、話し手はたくさんの情報を持っていなくても自分の中で様々な情報を得ていると感じたときには「ㄷ 것(-l geos)」を使っても自然な文になるようである。用例文でも「だろう」が「ㄹ(지)(-gess(ji))」だけではなく「ㄷ 것(-l geos)」でもよく翻訳されていた。

4.2 「ㄹ지(-gess-ji)」と「ㄷ 것(-l geos)」についての調査

また、「ㄹ지(-gess-ji)」と「ㄷ 것(-l geos)」が使われている場合にはどのようなニュアンスで異なるのかを見るために筆者が場面を設定し、韓国人母語話者 10 人に作例を見せて二つの形式が使われているときにどのようなニュアンスになるのかを聞いてみた。また、その理由のコメントは

一つ以上でもいいと言った。コメントの括弧の中の数字はコメントした人数を表わす。

調査文1)

友達とご飯を食べに行って友達が辛そうなものを注文した。注文したものが出てきて友達が聞く。

A : 이거 ^{これ 辛ら そうじゃ ない}매울 것 같지 않아.

B :辛い_____。

^{辛い}맵 겝지(-gess-ji).

^{辛い}매울 거(1-geo)야.

「겝지(-gess-ji)」の文に対しては主に「見たら辛そうだったから(7人)」や「友達に聞かれたことにあまり興味を持っていないときに使う(3人)」というようなコメントが多かった。「ㄷ 것(-1 geos)」の文に対しては「そのものを食べたことがあって辛かったのを覚えている(6人)」や「その食べ物を知っている(3人)」場合に使うというようなコメントが多かった。また、「ㄷ 것(-1 geos)」は推測ではなく相手に「それは辛いから気を付けてね」と断言しているような場面でも使えると2人がコメントした。

調査文2)

友達が引越しをすることになったが、手伝う人がいなく一人で引越しをしたという話をしている。

A : 혼자서 ^{一人で 引越したそうだけど 大丈夫だったかな}이사 했다는데 괜찮았을까?

B :大変だった_____。

^{大変だった}힘 들었 겝지(-gess-ji).

^{大変だった}힘 들었 을 거(-1 geo)야.

「겝지(-gess-ji)」の文に対しては主に「その友達とあまり親しくなく

て大変だったのかどうかに興味を持っていない(5人)」や「一人だから大変なのは当たり前(6人)」というようなコメントがあった。

「ㄷ 것(-1 geos)」の文に対しては「一人で引越しは大変だから(2人)」や「その友達が大変だったのを心配している(6人)」や「引越しの手伝いが出来なかったのを悪いと思っている(2人)」というようなコメントがあった。

調査文3)

AとBは韓国料理店にご飯を食べに行った。よく聞こえてはいないが、他のお客さんが韓国語のような言葉を話しているし、辛いものも注文して食べているのをAが見てBに聞く。

A : ^{あの 人たち 韓 国 人 みたいじゃ ない} 저 사람들 한국인 같 지 않아.

B : 韓 国 人 _____。

^{韓 国 人} 한국사람이 چیست (-gess-ji).

^{韓 国 人} 한국사람 일 거 (-1 geo)야.

「 چیست(-gess-ji)」の文に対しては主に「韓国語のようなことを話しているから(8人)」というようなコメントが多かったが、「あの人たちが韓国人かどうかには興味なく友達の質問に答えただけである(4人)」というようなコメントもあった。「ㄷ 것(-1 geos)」の文に対しては主に「辛いものを注文しているし、韓国語のようなことを話しているから(8人)」というようなコメントが多かった。また、「友達と韓国人なのかどうかの話題で話しているとき(3人)」というようなコメントもあった。

調査文4)

AとBはCという友達に会って映画を見る約束をした。待ち合わせの場所でCが待っていてAとBは約束に遅れている場合。

A : ^{急いで 行こう} 빨리 가자.

B : ^{遅れてる Cは 先に 映画館に 行っているかな} 늦었다. C는 먼저 영화관에 갔으려나.

A : 待っている _____。

待^ってい^る
기다리고 있^겠지(-gess-ji).

待^ってい^る
기다리고 있^을 거(-l geo)야.

「겠지(-gess-ji)」の文に対しては「Cとそこで会う約束をしたから(9人)」や「待っているとやったから(6人)」というようなコメントが多かった。「ㄷ 것(-l geos)」の文に対しては主に「Cが待っているとやったから(6人)」や「先に行くって言ってなかったの(3人)」というようなコメントが多かったが、「Cは約束をしたら時間が経っても待つことを知っている(1人)」というコメントもあった。

調査文5)

先週AとBはあるコンサートのチケットをインターネットで買って家に届くの待っている。次の週の月曜日になったが、まだチケットが来ない。

チケッ^트 いつ 届^くんだらう
A: 티 켓 언제 오 려 나.

B: 今週中には届く_____。

今 週 中 に は 届^く
이번 주 중 에 는 오 겠지(-gess-ji).

今 週 中 に は 届^く
이번 주 중 에 는 을 거(-l geo)야.

「겠지(-gess-ji)」の文に対しては「先週注文したから大体今週には来るから(7人)」や「時間かかっても一週間ぐらいだから(5人)」というようなコメントが多かった。「ㄷ 것(-l geos)」の文に対しては「インターネットで買ったらずし時間がかかるのを知っている(7人)」や「前もインターネットで買ったことがあるが、少し時間がかかった(6人)」というようなコメントが多かったが、「問い合わせしてみたらそう言われた(1人)」というコメントもあった。

このような調査で「겠지(-gess-ji)」と「ㄷ 것(-l geos)」の違いが少し分かると思われる。「겠지(-gess-ji)」は「겠(-gess)」に「지(-ji)」が付加された形であるため、現在知覚のように話し手は見たことや認識したことだけを持って判断していると考えられる。「겠지(-gess-ji)」が使

われている文ではそのことについてあまり興味を持っていないというコメントがあったが、これは、話し手はある程度の情報を持っていてもその情報を根拠に深く推測する気はないと解釈できる。また、「ㄷ 짓(-l geos)」については「ㄷ지(-gess-ji)」が使われた文よりは話し手がその推測に深く関わっていると考えられる。調査文5)でも「ㄷ 짓(-l geos)」の文に対しては話し手だけの考えだけでなく、経験したことや他の情報が話し手に入っていると考えられる。このように話し手の中では自分が持っているいくつかの情報を根拠に推測するという推論のような判断が行われていると考えられる。

以上のことをまとめると、ある文で「ㄷ지(-gess-ji)」を使うことで話し手はいくつかの情報を持っていても深く推測する気はなく認識しやすい情報だけを持って判断していることを表すことができるようである。それに対して「ㄷ 짓(-l geos)」を使うことで話し手はいくつかの情報(話し手が持っている客観的な事実の情報や知識と経験による確実な情報もあるが、話し手の中で推測してこうであろうと判断したことも推測するための情報になると考えられる)を持ってそれを全部根拠にして深く推論をしていることを表すことができるようである。つまり、「ㄷ 짓(-l geos)」を使うことで推し量るというプロセスが積極的に働いていることを表せると考えられる。それでは、用例文を見ながら、日本語の三つの形式にはどの違いがあるのかを探り、韓国語とはどのように違うかを見てみることにする。

4.3 分析の概要

日本語母語話者が自然な場面で使用している日本語を分析するために日本のドラマの台本(32本)で三つの形式が推量用法と語用論的な意味が出てくる場合の文を全部取り出した。それをある事柄についての推測か人についての推測かに分け(話し手自身を「一人称」、聞き手を「二人称」、第三者を「三人称」とした)、さらに話し手が情報を得やすいか得にくいかに中間であるかに分けて日本語母語話者に他の形式で置き換えられるかどうかを判断してもらい、なぜ自然なのかあるいはなぜ不自然なのかのコメントももらった。調査文は推量文が60文で語用論的な意味が出てくる文が20文である。協力してもらった日本語母語話者は45人で、20代の学生(大学生12人、大学院生7人)と30代の社会人26人である。この45を15人ずつの三つグループ(Aグループ、Bグループ、Cグループ)に分け、推量文は30文ずつAグループとBグループに語用論的な意味が出てくる文はCグループに判定してもら

った。結果については例文を考察していきながら述べることにする。

4.4 考察

ある事態について推測する場合と自分のこと(一人称)や他人のこと(二・三人称)について推測する場合に分けて考察する。ある事態についての推測は話し手が持っている情報や根拠の量に分けて考察することにする。日本語母語話者の調査(他の形式に置き換えられるかどうかの調査)に基づいて考察していきたい。

4.4.1 事態の場合

4.4.1.1 話し手が情報を得にくい場合

4.4.1.1.1 「だろう」文

例1) 「あ? そうしたらうちの剣道部が60年目にして大和杯を奪い取るチャンスですね!」「59年も連勝し続けるってすごいプレッシャだよな。それはそれで大変なんだろうな。」

그건 그거대로 힘들었겠(-gess)다.

例1)では、話し手は59年も連勝し続けていることは知っていないようであるため、判断するのに必要な根拠を今得たばかりであると考えられる。例1)では日本人13名が「はず」を使うと不自然であると判断し、「かもしれない」は全員が使えると判断した。韓国語では「겠(-gess)」が使われているが、話し手が得た情報はよく知っている情報ではないようで「ㄷ 것(-l geos)」は使われていないと思われる。しかし、次のような例文では「ㄷ 것(-l geos)」で翻訳されていた。

例2) 学校の帰り、亜也は子犬と出会う。子犬のあとを追っていくと、遥斗がいた。

「麻生くん! 麻生君ちの犬?」

「池内んちの犬?」

「それじゃ、やっぱ迷子か。」と亜也。

「捨てられたんだろう。首輪してないし。」

「そっか・・・。」子犬を撫でる亜也の横顔をじっと見つめる遥斗。

아소군! 니네 집 개야?

이케우치네 개야?

그럼 역시 미아구나..

버려진걸 거(1-geo)야. 목줄도 없고..

例2)で「かもしれない」に置き換えられると答えた人は全員であった。コメントとしては「可能性があるから」や「初めて見た犬でよく分からないから」などがあつた。また、実際「だろう」が使われている文なのに「かもしれない」を使った方が落ち着きがいいとコメントした人も10人いた。また、「はず」はふさわしくないと判断した日本人は14人であった。また、犬のことや捨てられるまえまでの状況を知っていれば「はずだ」も使えるというコメントを9人からもらった。

「はず」を使うと、話し手は犬の持ち主かその犬のことなど捨てられる前までの何らかの事情(話し手にとっては「はず」を使う根拠になると考えられる)をよく知っているように思われる。もちろん例2)もある根拠(首輪もしていないし、道で出会った犬)に基づいて推測していると考えられるが、情報量が少ない(「はず」を使う場合の情報量より)ので単なる話し手の主観的な推量を表す「だろう」を使うのが自然な文になると思われる。

しかし、韓国語では「ㄷ 것 (-1 geos)」が使われているが、自然な文になると思われる。話し手は根拠は得にくい、自分の中で確信して発言することが出来るようである。

例3)「湯川先生、全然信じてないんですか?超能力とか肉体離脱とか。」
「僕は信じない。ちなみにあの子が、竹田さんが来ることを予言したって話。あれも足音か何かが聞こえただけだろうね。」

유카와 선생님은 하나도 안 믿으시나요? 초능력이나 유체이탈이나...
나는 안 믿어. 타케다씨가 오는 걸 예언했다는 얘기. 그것도 발소리 같은 게 들린 것뿐이겠지(-gess-ji).

例3)で「かもしれない」に置き換えられると答えた人は15人であった。「かもしれない」に置き換えても問題はないようである。また「かもしれない」を使ったら「だろう」を使ったより聞き手に自分の意見を主張することが弱くなるコメントがあつた。

例3)は話し手は「あの子」のことをよく知っている状況ではないと考えられる。そして、話し手は予言など信じていない。従って、ただ話し手の主観的な推量を表わすことになるので「はず」を使うと不自然な文になる

と思われる。例3)も「はず」を使うと落ち着きが悪いと判断した日本人は1人であった。「足音か何かが聞こえただけ」で「～か～何か」というところが単なる話し手の中での考え(想像)であることを表させている形式であると言える。このような表現には「～でも」や「何とか」などの形式があると考えられる。

従来の研究では「だろう」が「単なる話し手の想像の中での判断」であるという説明が多かったが、上例のような場合である。しかし、学習者のためにはこの説明だけでなく、「だろう」が他の形式と重なる場合の説明までする必要があると言える。

例 4) 「ご機嫌だな。新株引受権証書、知ってるか？」

「新しい会社が発行する株を買うための予約券。つまり、新株予約券だろ？」

「それ自体が金になる、有価証券だ。」

「それがどうした？ 浜下バイオテック！？ これは俺がでっち上げた架空の会社だぞ！？ あるわけのない新株の予約券、何で出回るんだよ！」

「誰かが偽造したんだろうよ。」

기분 좋구만. 신주식인수권증서 알고 있어?

새로운 회사가 발행하는 주식을 사기 위한 예약권. 즉 신주식예약권이잖아.

그대로 돈이 되는 유가증권이지.

그게 왜? 하마시타 바이오테크 주식회사? 이걸 내가 대충 만들어낸 회사야. 있지도 않는 회사의 신주식예약권이 왜 나도는거야?

누군가가 위조한 거(-n geo)지.

例 4)の場合も「誰か」が使われているところを見ると、単なる話し手の中で考えていることを表していると考えられる。しかし、韓国語では叙述を表す形式である「ㄴ 것(-n geos)」が使われている。「ㄴ 것(-n geos)」を使っても確認出来ていないので事実を言っているのではなく、話し手はある事態についての判断を断言していることになる。韓国語では単なる話し手の中で考えたことを確信して発言することが出来るようである。

このように、話し手が情報を得にくいと考えられる「情報を得たばかりの場面」や「初めて出会った場面」や「単なる話し手の中での考えを表す

場面」などでは「はず」は使いにくくなり、「だろう」や「かもしれない」が使われるようである。しかし、同じ場面でも韓国語では「겠(gess)」や「겠지(-gess-ji)」以外に「ㄷ 것(-l geos)」が使えるようであり、話し手の確信を表すことができると考えられる。

4.4.1.1.2 「かもしれない」文

例 5) 「・・・そうね。水野先生がおっしゃったように、希望持ってやっ
ていこうね。難しい病気だけど、出来ることはいっぱいあるんだから。亜也
が頑張っているうちに、特効薬や、治療法が見つかるかもしれない。ね
っ！」

그래 미즈노 선생님 말씀처럼 희망을 버리지 말자. 어려운 병이지만
방법은 얼마든지 있으니까. 아야가 열심히 버티는 사이에 특효약이나
치료법이 나올지도 몰라(-ji(do) molla). 그렇지?

例 5)では日本人全員が「だろう」や「はず」に置き換えると不自然になると判断した。特効薬や治療法が出てほしい希望があるだけで、話し手は特効薬や治療法が出そうな根拠は持っていないと考えられる。そのため、ここで使われている「かもしれない」は根拠のない単なる可能性を表わす表現である(純粹な可能性を表わす「かもしれない」と称する)。この場合には「だろう」や「はず」には置き換えられないと思われる。「はず」はかなりの情報や根拠を持っていないと使えない形式であるため置き換えられないようである。ここで「だろう」を使うと不自然になることから見ると、「だろう」は単なる話し手の考えで推測する形式であってもある程度は根拠が必要となると考えられる。つまり、「かもしれない」が単なる可能性を表す表現であることが裏付けられると言えよう。このような例文では「かもしれない」しか使われず韓国語でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」が使われていた。次の場面も情報を得にくいと考えられる場面であるが、韓国語では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」以外の形式が使われている。

例 6) 妹「これ暗記できる？」 ツール・ド・フランス歴代優勝者のリストを渡す。

甥「・・・無理に決まっています。」

妹「輝明おじちゃん全部暗記してるよ。」

甥「・・・」

妹「すごいでしょ。」

甥「・・・冗談はやめて下さい。」

妹「冗談じゃないよ。試してみたら? 今日輝明おじちゃん仕事休みだから。それを覚えるの、東大に入るより難しいかもよ。じゃね。」

이거 암기할 수 있겠어?

당연히 불가능해요.

테루아키 삼촌은 전부 다 암기하고 있어.

대단하지?

농담 마세요.

농담 아니야. 확인해 봐. 오늘 테루아키 삼촌 쉬는 날이거든. 그거 외우는 게 도쿄대에 들어가는 것보다 어려울 거(-l geo)야.

例 7) 園長「具合はどう?」

都古「良くなりました。ご心配おかけしました。」

園長「はい。」

古賀「あ、松田先生、もういい?すぐにジョージを見てもらうかな。昨日から全然食べないんだ。」

古賀「ジョージ。食べる。どうした?」

都古「気温の変化が激しいため、食欲が低下しているかもしれません。もうちょっと様子を見てみましょう。」

몸은 좀 어때요?

좋아졌어요. 걱정을 끼쳐 드렸네요.

네.

마즈다 선생님, 이제 팬찮아? 당장 조지 좀 봐 줄 수 있을까? 어제부터 전혀 먹질 않아.

조지. 먹어. 왜 그래?

기온 변화가 심해지면서 식욕이 저하된 것 같(-geos gat)네요. 좀 더 상태를 두고 보죠.

例 6)と例 7)ではそれぞれ「ㄷ 것(-l geos)」と「것 같다(-geos gatda)」が使われている。話し手は「東大に入ること」や「ジョージ」という動物が「食欲が低下している」ことについて情報を得にくいと考えられ、日本語では「かもしれない」が使われている。「かもしれない」は「지도

모르다(-ji(do) moleuda)」に対応していると想定したが、上例のように「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」より確信度が高い形式も使えるようである。「はず」の文では情報を得にくいと想定できる場面はなかった。

このように、話し手が情報を得にくい場合、つまり、初めて出会った場面、話し手の情報は話し手にとって得たばかりの場合、単なる話し手の考え(話し手の中で持っている知識など)を述べる場合について推測するには「はず」を使うと不自然な文になり、「かもしれない」や「だろう」を使った方が自然な文になるようである。しかし、4.2の調査で分かったように、韓国語では情報を得にくい場面でも話し手は単なる自分の中での情報(話し手の中での想像したことであったり、単なる自分の知識に基づいて推測したことでもある)を持って、またその事柄に興味を持っている(興味を持っている場合に「ㄷ ㄹ(-l geos)」の形式を使うということではない)ように推し量るというプロセスを働かせると(このようなプロセスを通して話し手は確信するまでの情報を得ていると考えられる)、確信して言うことができるようである。また、例5)のように話し手は全く根拠を持っておらず単なる可能性を表す場合には「かもしれない」は使えるが、「だろう」は使えないようである。

つまり、日本語では話し手がどれほど情報を得ることが出来るのかによって日本語の三つの形式を使い分けているようであるが、韓国語では情報量によって判断しているだけでなく、話し手がどれほど推し量るかということも含めて判断しているようである。

日本語でもこのような「推し量り」の現象はあるようであり、話し手の期待を表わす「はず」の用法の場合である。この場合は話し手の期待を表わしているだけで、確信するまでの情報を持っているから「はず」を使っているのではない。期待するということは話し手の中では少しの情報や根拠しかないが、それでも自信感を持って発言しているわけである。自信感を持っているということはその事態に対して興味を持っており、積極的に思考していると言える。この場合でも話し手の中では推し量るというプロセスが積極的に働いていると考えられる。これについてはまた、一人称の情報を得にくい場合のところで述べることにする。

4.4.1.2話し手が情報を得やすいと考えられる場合。

4.4.1.2.1「だろう」文

例 8)みんなが止めるのも聞かずに春香はそう宣言する。

「君は正直者は馬鹿をみるという言葉を知っているか？」

「知ってるわ。一番嫌いな言葉よ。」

「しかしそれが現実だ！！」結城が声を荒げる。

「そんな現実！」

「どうしても従えないと言うんだな！」

「ええ。」

「だったら辞めてもらおう。」

「・・・」

「君はCNBテレビと契約しているんだ。会社の方針に不満があるなら、辞めるのが筋だろう。どうする？」

「・・・わかったわ。」そこへ柴田局長が駆けつける。

당신은 '정직한 사람이 손해 본다' 는 말을 알고 있어?

알고 있어. 제일 싫어하는 말이야.

그치만 그게 현실이야.

그따위 현실..

아무리 해도 거역하려고 한다면

네

그럼 그만둬.

너는 CNB 티비와 계약하고 있어. 회사의 방침에 불만이 있다면 그만 두는 게 도리겠지(-gess-ji).

어떻게 할래?

例 8)で「かもしれない」に置き換えても自然になると判断した人は全員で、「はず」に置き換えても自然になると判断した人は 12 人であった。話し手はテレビ局の聞き手の上司のようである。判断文の前に条件節を出したり、話し手は会社のことをよく知っている人物であると考えられ、かなりの情報や根拠を持っているようである。しかし、ここで全員が「かもしれない」を使ってもいいと判断した。韓国語では「겠지(-gess-ji)」が使われているが、「ㄷ 것(-l geos)」を使っても問題はないようである。

例 9) 桂木の助手・早瀬が桂木に薬を持っていく。

「新川の件、他の被害者の情報も用意してくれ。それから休眠会社が欲しい。当座預金を持っているのが条件で。設立は、10 年以上もあれば、信頼されるだろう。」と黒崎。

桂木が早瀬に頷くと、早瀬が準備に取り掛かる。

신카와 사건 다른 피해자의 정보도 준비해 줘. 그리고 한동안 활동 안한 회사가 필요해. 투자 권을 가지고 있는 조건으로 설립은 10 년 이내라면 신용 되겠(-gess)군.

上の例で「かもしれない」に置き換えると不自然であると判断した日本人は6人で「はず」に置き換えると不自然であると判断した日本人は2人であった。「かもしれない」が使えないとは言えないが、話し手は聞き手にある情報を用意してほしいと頼んでいる場面である。頼む人が確実な情報(確実ではなくても話し手の判断である程度確信を持っている情報)を示さないと頼まれる人は「情報の用意」ができないと思われる。そのため、「かもしれない」を使うと不自然になると考えられる。

韓国語では「겠(-gess)」が使われているが、「ㄱ 것(-l geos)」を使っても問題はないように見える。話し手は自分が判断している事柄についてよく知っているか多くの情報や根拠を得られる立場であると考えられるからである。

例10) 「・・・加納さん。山村陽子のこと、聞いてますか？」

「ああ・・・ウイルスに感染したのに発症しないままだという話。」

「感染後に、彼女は敷村から鎮静剤と称し、注射を打たれていたことがわかったんです。」

「注射？」

「その注射には、ウイルスを抑制する何かが含まれていた。もしかしたら、敷村は既に完成させていたのかもしれない。抗ウイルス剤を。」

藤丸の部屋

「テロリストたちは、ウイルスを持っている。そして敷村教授を誘拐し、ウイルスから身を守る方法を知った。」と音弥。

「ワクチン!？」

「いや、違うだろう。ワクチンは感染前に威力を発揮する予防薬に過ぎない。」

「ってことは・・・感染後の人間を治す薬？」

카노씨. 야마무라 요코의 일, 들으셨나요?

그래.. 바이러스에 감염되었는데도 발병하지 않고 있다는 이야기..

감염 후 시키무라 교수가 진통제를 처방 주사를 맞았던 걸 알았습니다.
주사?

그 주사에는 바이러스를 억제하는 무언가가 들어있었다. 어찌면..
시키무라는 이미 완성했을지도 모릅니다. 항 바이러스 약을..

테러리스트들은 바이러스를 갖고 있다. 그리고 시키무라 교수를
유괴하여 바이러스로부터 몸을 지키는 방법을 알게 되었다

백신?

아닐 거(-1 geo)야. 백신은 감염되기 전에 위력을 약하게 만드는 예방에
불과해.

그렇다면? 감염된 사람을 치료하는 약?

例 10)で全員が「かもしれない」に置き換えても自然になると判断し、13
人が「はず」に置き換えても自然であると判断した。話し手はワクチンに
ついてよく知っている人物のようであり、聞き手の判断を否定している場
面である。話し手はかなりの情報や根拠を持っていると考えられるが、同
じ場面でも日本語では「だろう」が使われ、韓国語では確信する形式であ
る「ㄷ 것(-1 geos)」が現れている。

4.4.1.2.2 「はず」文

例 11) 「すごくなぞなぞが好きなんですけど、負けず嫌いなんです。でも、ズ
ルは、嫌だから、ヒントは隠しておいたんですね。」

「ヒント？」と優貴。

「20人って言ったけど、19人しかいなかった。」

「え・・・」生徒を数を確認する優貴。

「なぜか、ドラえもんではスネオが好きで、趣味は、ぶーちゃん貯金。い
つかピンクのイルカを見てみたい。」

「19人・・・じゃあ本当の雫ちゃんは？」と優貴。

英治はゆっくりと歩き、カーテンのかかった棚の前に立っていた。

「まさか！」と優貴。

「声は聞いているはずですから。」

「初めから気づいていたんですか？」

무척이나 수수께끼를 좋아하지만 지기 싫어해요. 그렇지만 꾀를 부리는 건 싫어하니까 힌트는 숨겨두었네요.

힌트...?

20 명이라고 했지만 19 명밖에 없었어요.

...네?

어째서인지 도라이몽에서는 스네오를 좋아하고 취미는 돼지저금통에 저금하기. 언젠가 핑크색 돌고래를 보고 싶어.

19 명... 그럼 진짜 시즈쿠짱은?

설마...

목소리는 듣고 있을 거(-1 geo)니까요.

처음부터 눈치채셨어요?

例 12) 「奇妙な偶然と言うべきか、いや、今回は君の手柄だ。」 「え!？」

「事件の全体像が見えた。」 「はあ・・・え!？全体像?」 「矢島さんの死の謎が解けたと言ってるんだ。」 「わかったんですか?誰がどうやって殺害したのか。」 「ああ。最終的には実証してみないといけないが。」 「犯人は?」 「湯川です。」 湯川が携帯で誰かに連絡する。湯川の研究室 「どういうことですか!？」 「矢島さんは自ら命を絶った。つまり自殺したんだ。」 「でも自殺だったらあんな状態にならないはずですよ!」

「それを今から検証する。」 湯川に言われた物を助手たちがかき集めてきた。 「では今から、矢島さんの身に起こったことを再現してみよう。」

기묘한 우연이라고 할까...아니...이번에는 자네의 공이네.

네?

사건의 전체상이 보였네.

아...네? 전체상이라고요?

야지마씨의 죽음의 수수께끼가 풀렸다는 얘기네.

누가 어떻게 살해한 건지 아셨나요?

응...최종적으로는 증명을 해 봐야겠지만...

범인은?

유카와 입니다.

어떻게 된 거예요?

야지마씨는 스스로 목숨을 끊었어.

즉 자살 한거야.

하지만 자살이라면 그런 상태가 안 될 거(-1 geo)예요.

그걸 지금부터 검증할거야.

例11)で「だろう」に置き換えても自然であると判断した人は全員で、「かもしれない」に置き換えると不自然であると判断した人は全員であった。また、例12)で「だろう」に置き換えても自然であると判断した人は全員で、「かもしれない」に置き換えると不自然であると判断した人は13人であった。例11)と例12)は「声は聞こえている(明らかな事実であると言える)」と「自殺だったらあんな状態にならない」と判断しているが、かなりの情報を持っていると考えられる。例12)で話し手は自分の判断(「自殺だったらあんな状態にならない」)にかなりの情報を持てる職業の人で自殺ではないと確信を持って判断していると思われる。このように話し手がかなりの情報や根拠を持っていると考えられるときの「はず」文はほとんど「ㄷ 것(-1 geos)」が使われていた。次の例を見られたい。

例13)「シミュレーション完了です！爆心地絞れました！」と澤北。

「中性子爆弾から発せられる中性子線は、季節風に乗せると、効果が絶大なものになります。風の方向性、人口密集、被害の規模を考えると、この3箇所に設置された可能性が高いはずです。」

시뮬레이션 완료! 폭심지 간추려졌습니다!

중성자 폭탄에서 발생하는 중성자선은 계절풍을 타면 최고의 효과를 볼 수 있어요. 바람의 방향과 인구 밀도, 피해의 규모를 생각하면 이 세 장소에 설치되었을 가능성이 높아요!

例13)では、話し手は中性子爆弾についてよく知っている人物であると考えられ、「風の方向性、人口密集、被害の規模」を考えて判断している場面であるが、韓国語では「ㄷ 것(-1 geos)」ではなく、断言している。

このように、話し手がかなりの情報を得ていると考えられる場合、つまり、「ある事柄をよく知っていると考えられる人物」であったり、「話し手が聞き手に説明や自分の意見を主張する」場面では、「だろう」や「はず」が自然に使われる。「かもしれない」が使えないわけではないが、聞き手に説明したり、意見を主張したりする場面では「かもしれない」より

は「だろう」や「はず」を使った方が自然な文になると考えられる。この場合韓国語でも「ㄷ 것(-l geos)」がよく使われていたが、断言することも出来るようである。

4.4.1.3話し手がある程度情報を得られると考えられる場合

4.4.1.3.1「だろう」文

例 14)管理官「気に入らねえ一な。」と呟く。

安藤「株価が上がってどうするんですか？」

検視官「人は上がっている株だと、もっと上がるのではないかと思い、買いたくなります。」「え、上昇した株価を見て、仲間以外の第三者が買いたいと思うと、こちらのです。」

安藤「どうしてですか？」

佐藤「同じ考えで買う人が増えて株価が上がるだろう。そうしたら、仕事戦仕掛けた犯人が高値で売って利益を得るんだよ。」

雪平「そこでの競られて買った人達はどうなるの？」

佐藤「株価がピークを乗り越えれば物凄い勢いで元の値に近づくから、大損だろう。」

맘에 안 들어.

주식가를 올려서 어찌는 겁니까?

한번 오른 주식이면 좀 더 오르지 않을까 하고 사고 싶어지는 거죠.

상승한 주식가를 보고 투기자 이외의 제 3 자가 사고 싶다고 생각하면 이렇게 되는 거죠.

어째서요?

똑같이 생각해서 사는 사람이 늘어서 주식가가 오르잖아.

그러면 사수전을 건 범인이 매상이 올라서 이익이 느는 거야.

거기에 일조한 제 3 자들은 어떻게 되는 거야?

주식가가 피크를 앞당겨진다면 굉장한 속도로 원래 가격에 가까워질 테니 큰 손해를 보겠지(-gess-ji).

上の例で「かもしれない」に置き換えると不自然であると判断した人は6人で、「はず」に置き換えると不自然であると判断した人は3人であった。「かもしれない」が使えないと判断した5人からのコメントでは「かもしれない」を使ってもいいと思うが、相手に説明して教えようとしてい

るから「かもしれない」よりは「だろう」がいいと思うなどのコメントがあった。また、「はず」が使えるには株式のことを詳しく知っているのであればいいというコメントがあった。上の例では本当に株式があがるかどうかは分からないので「かもしれない」を使ってもいいように見えるが、話し手は株式に詳しい人であると考えられるので「だろう」が使われていると思われる。また、「かもしれない」を使うと、話し手は自分の意見や判断の根拠となる情報を持っておらず自信も持っていないように見えるので聞き手は話し手の判断が信用できないと思われる。韓国語でもある程度知っていながら推測をする形式である「ㄹ지(-gess-ji)」が使われている。しかし、次のような翻訳例も見られる。

例 15) 「北海道!？」とマくん。

「まさか 40 になって知らないところに住むなんて思ってもみななかったからさ。1 から人間関係作らないといけないし住み込みだからプライベートもないだろうし。父が倒れたばかりっていうのも気になるし。」

훗카이도?

설마 마흔 넘어서 낯선 곳에서 살 거란 생각은 꿈에도 못해봤으니까.. 인간관계도 처음부터 하나하나 다시 만들어 가야하고 병원 안에서 살게 될테니 사생활도 없을 거(1-geo)고 아버지가 쓰러진 지 얼마 안됐다는 점도 마음에 걸리고.

例 15)では全員が「かもしれない」は使えろと判断し、10 人が「はず」は不自然であると判断した。話し手が病院のことを自分の知識などに基づいて推測しているようで「だろう」が使われていると思われるが、韓国語ではかなりの情報を持っているときに使う「ㄹ 것(-l geos)」が使われている。

例 15)では「はず」が使えないようであるが、例 14)では「はず」が使えないわけではないと考えられる。その理由としては、例 14)は話し手が聞き手に説明している場面で自分の意見を主張しているとも言える場面であり、このような場面では「だろう」や「はず」を使った方が聞き手を理解させたり、説得したりする効果が出ると考えられるからであろう。

4.4.1.3.2 「かもしれない」文

例16) 「用済みになった男はホテルのバスタブで死体で発見された。死因は

心臓麻痺。女に殺されたとは誰にもわからない。そういう使われ方をする殺人ツールが存在するんだ。」「・・・殺人ツールって、何?」「わからない。」「湯川先生?」「さっぱりわからない・・・。」頭を抱える湯川。田上の研究所紅茶を入れる田上。「他にも同じ死に方をした人がいたんです。連続殺人事件に発展するかもしれない。」と薫。

쓸모가 없어진 남자는 호텔의 옥조에서 사체로 발견된다. 사인은 심장마비. 여자에게 살해당했다는 건 아무도 몰라. 그런 식으로 쓰이는 살인 툴이 존재해.

살인 툴이 뭐예요?

나도 몰라

유카와 선생님...?

하나도 모르겠어.

그 밖에도 같은 식으로 죽은 사람들이 있었어요. 연속살인사건으로 발견할 지도 몰라(-ji(do) molla)요.

例16)では13人が「だろう」を使ったら不自然になると判断し、全員が「はず」を使ったら不自然になると判断した。例16)は「同じ死に方をした人がいた」ということを根拠にして「連続殺人に発展する」と推測している場面であるが、韓国語でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」が使われているが、「겠(지)(-gess(ji))」や「ㄱ 것(-l geos)」を使うまでの情報や根拠にはならないようである。しかし、以下のような例も見られる。

例 17) 「こちらの派遣会社は主婦の登録が多いと聞いて伺いました。」

「何か技術を持っていたり得意なことはありますか?」とスタッフ。

「いえ とくにありません。事務職以外に出来ることがないと思うのでパソコンの勉強中です。」

「仕事をしながら得意なことを見つけていくという方も多いので決め付けない方がいいかもしれないですね。」

「でも まずは事務職でお願いします。」

이 파견회사는 주부의 등록이 많다고 들어서 오게 되었어요.

무슨 기술을 가지시거나 특기가 있으신가요?

아니요 특별히 없습니다. 사무직 이외에는 할 수 있는 게 없을 것 같아서 컴퓨터 공부 중입니다.

일 하면서 특기를 찾아가는 분들도 많으시기 때문에 정해 놓지 않는 편이 좋겠(-gess)네요.

그렇지만 우선은 사무직으로 부탁 드리겠습니다.

例 17)で「だろう」に置き換えると不自然になると判断した日本人は9人で、「はず」に置き換えると不自然になると判断した日本人は全員であった。話し手はある程度の情報や根拠(「仕事をしながら得意なことを見つけていくという方も多いので」)を持っているようであるが、「だろう」ではなく、「かもしれない」を使っている。話し手はある程度の情報を持っていても「だろう」を使うまでの自信はないように見える。被験者のコメントの中で自分はそう思っている程度情報を持っていても本当にそれが正しいのかどうか分からなく責任を取りたくないで「かもしれない」が自然であるというコメントがあった。日本人は情報をどのぐらい持っているのかによって「だろう」や「かもしれない」を使い分けていると思われる。しかし、それだけではなく、同じ情報量でも話し手がある事柄について推測したが、その推測に対して責任を取りたくないときには可能性を表わす「かもしれない」を使うと考えられる。

つまり、上の例で「だろう」や「はず」を使うと話し手は聞き手に決め付けられない方がいいとまるで勧めているように見えると考えられる。しかし、「かもしれない」を使うことによって、決め付けるか決め付けないかはあなたの責任であるというニュアンスが出てくると思われる。韓国語では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」ではないある程度情報や根拠を持っているときに使う「겠(-gess)」が使われている。このように韓国語では他の推測形式で翻訳されている例文があった。

例 18)鍵を戸の上からやっど見つける黒崎。

「ですよね!じゃあ、ケンカでもしました?アイツ私の顔なんか見たくない、なんて言ってましたよ。氷柱って時々頭きますよね。びっくりするぐらい奇麗事言うし。初めて会った時は、コイツまじかよ、って思いました。でもあれ、全部本心なんですよ。本気で言ってるの。ある意味貴重かも!」ゆかりが微笑む。

그렇죠. 그럼 싸우기라도 했어요? 그 녀석 내 얼굴도 보기 싫을 걸? 이라고 하던데. 츠라라는 가끔 화나게 하죠. 놀랄 정도로 바른말만 하고. 처음에 만났을 때 이 녀석 뭐야 라고 생각했어요. 그렇지만 그거

전부 본심이에요. 진심으로 말하는 거죠. 어떤 의미로 보면 참 귀하쥬(-jyo).

例 18)で「だろう」に置き換えても自然になると判断した人は7人で、全員が「はず」に置き換えたら不自然になると判断した。この例は話し手が自分の中で様々な知識や情報に基づいて判断していると考えられる。「だろう」を使ってもいいように見えるが、「かもしれない」が使われている。

しかし、韓国語では叙述する形式である「지(-ji)」が使われているが、断言に近い表現である。

4.4.1.3.3 「はず」文

例 19) 蓮見「発信場所は東京タワーから半径3 KM以内。」

係長「その以内で夕日を背にして東京タワーの見える場所は？」

蓮見「少なくとも4千件以上です。」

係長「今日の日の入りの時間は？」

蓮見「午後4時53分です。」

管理官「しらみつぶしに調べろ！」

刑事「はい！」刑事たちが出かけていく。

刑事「お前、何だよ。」

安藤「すみません、電話して。」

刑事「失敗ですね。」

係長「内部通告者のせいだ。岩崎書房に裏切り者がいるはずだ!」

말신장소는 도쿄타워에서 반경 3km 이내입니다.

그 이외 석양을 등뒤로 하고 도쿄타워가 보이는 장소는?

적어도 4천건 이상입니다.

오늘 해지는 시간은?

오후 4시 53분입니다

이 잡 듯이 철저히 조사해.

네!

너, 뭐야.

죄송합니다. 전화해서.

실패네요.

내부 고발이야. 이와사키서점에 배신자가 있을 거(-1 geo)야.

例 19)では全員が「だろう」や「かもしれない」に置き換えても問題はないと判断した。文脈には「はず」を使うまでの根拠は出ていないようであるが、話し手は事件についてよく知っている人物であると考えられる。そのため「はず」が使われていると考えられる。上のような文でも韓国語では「ㄷ ㄷ(-l geos)」がよく使われていた。

以上、ある事態について推測をする場合をまとめると以下ようになる。

話し手が情報を得にくい場面(「初めて出会った場面」「情報を得たばかりの場面」「単なる話し手の中での考えを表す場面」)では「はず」は使えず「だろう」や「かもしれない」が使われるが、同じ場面でも韓国語では「ㄷ(-gess)」や「ㄷ지(-gess-ji)」以外に「ㄷ ㄷ(-l geos)」が使えるようであり、話し手の確信を表すことができると考えられる。また、話し手が情報や根拠を全く持っていないときには「だろう」は使えず「かもしれない」しか使えないようであり、このような場合には韓国語でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」が使われていた。

次に話し手が情報を得やすい場合(「話し手はある事柄をよく知っていると考えられる人物」であったり、「話し手が聞き手に説明や自分の意見を主張する場面」である)には「だろう」や「はずだ」が使われていた。このような場面で「かもしれない」を使っても問題はないと考えられるが、そうすると、聞き手を理解させたり、意見を主張したりする効果が弱くなると考えられる。韓国語でも情報を得やすい場面では殆ど「ㄷ ㄷ(-l geos)」が使われていたが、断言をしている場合もあった。

また、話し手がある程度の情報を得られると考えられる場面では日本語の三つの表現が使われるようである。しかし、聞き手を理解させたり、説得したりする場面では「かもしれない」より「だろう」や「はず」を使った方が伝達効果があるようであり、韓国語では「ㄷ지(-gess-ji)」だけでなく「ㄷ ㄷ(-l geos)」も使われ、同じ場面でも確信を持って言うことが出来るようである。また、話し手は「だろう」を使うまでの根拠を持っていても自分の発言に責任を取りたくない場合には「だろう」ではなく「かもしれない」が使われ、同じ場面でも韓国語では「ㄷ(-gess)」以外にも「断言」の形式が現れていた。これを見ると、韓国語の「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」には「責任回避」という用法がないように思える。

日本語では話し手がどの程度情報を持っているのかによって三つの形式を使い分けているようであるが、韓国語では話し手がどの程度情報や根拠

を持っているのかだけでなく、話し手が全く知らないことではない限り自分の中にある知識(その知識は確実な場合もあれば、不確実な場合もあり得る)や推測した結果も判断するための根拠となり得て確信することが出来るようである。

「だろう」「かもしれない」「はず」に対応する形式はそれぞれ「ㄷ(지)(-gess(ji))」「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」「ㄷ(ㄷ) 것(-l geos)」であると想定したが、「だろう」文では「ㄷ(ㄷ) 것(-l geos)」も現われ、「かもしれない」文では「ㄷ(ㄷ) 것(-l geos)」や「것 같다(-geos gatda) (「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」より確信度があると考えられる形式)」も現われ、「はず」文では「断言」も現われているところを見ると、少しずれがあるようである。そのずれは同じ場面でも韓国語は日本語より直接的な表現を使うことであると言えよう。

次は人称別に「だろう」「かもしれない」「はず」がどう使われているのかを見る。この考察も話し手が情報や根拠を得にくい場合と得やすい場合と中間の場合に分けて考察することにする。また、一人称と二・三人称に分け、さらにある出来事(人に関わる事態と意志的な行動)と人の内的感情感覚(考えと感情や感覚)に分けて分析することにする。また、未来のことなのか過去のことなのかについても少し述べることにする。

4.4.2 一人称の場合

一人称については自分のことなので「出来事」や「内的感情感覚」などの情報や根拠が得やすいと考えられる。しかし、未来の予想できないことについては一人称でも「だろう」や「かもしれない」が使われていた。また、「はず」でも未来の予想できないことに使われていたが、この場合は話し手の期待や自信を表わすことが多いようである。また、自分のことなので「内的感情感覚」については情報が得やすくなると思われ、断言してもいいように見えるが、実際には「内的感情感覚」でも「かもしれない」が使われていた。この場合は殆どが婉曲の場合か表明回避の場合であった。

但し、「話し手の過去の意思的な行動」については、その行為が仮想的でない限り使えないという条件があった。その理由は自らの過去の行為は仮想的でない限り既に確定されたもので、その実現の可能性自体に言及することができないからであろう。また、このような文は韓国語では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」以外の推測表現が使われることがあった。

話し手は自らの思考や感情について推量・推論することができず「だろう」や「はず」が使えないが、それは自らの思考や感情が直接的経験から得た情報だからであろう。

4.4.2.1 情報を得にくいと考えられる場合

一人称の場合は自分のことなので情報が得やすいと思われ、断言してもいいように見えるが、以下のように未来の予想できないこと、すなわち未来の一人称の事態については情報が得られにくくなり推測の形式を使った方がいいと思われる。

4.4.2.1.1 「だろう」文

4.4.2.1.1.1 一人称の事態

例 20) 廊下を歩く看護師たちの噂話は、病室で食事をする亜也にも聞こえていた。亜也は、食事を詰まらせて呼吸困難に陥る。亜也が目を覚ますと、家族全員の心配そうな顔が目に映る。「大丈夫！ちょっと食べ物、詰まらせただけ。大丈夫だからね。」潮香が亜也に優しく言う。「みんなの泣き顔が、涙でぼやけた。きっと私は、こんな些細なことで、死ぬのだろう。」

괜찮아. 음식이 목에 걸려서 그래. 이제 괜찮아.

가족들의 우는 얼굴이 눈물 때문에 흐릿해 보였다. 분명 나는 이런 사소한 일로 죽게 되겠지(-gess-ji).

例 20)では、日本人全員が「はず」を使うと不自然な文になると判断し、「かもしれない」に置き換えられると判断した人は全員であった。話し手は自分のことについて述べているが、未来の予想できないことについて判断しているのである。自分のことなので確信する情報を持つことは出来ると思うが、そうしても死ぬことに対しては自分でも予想できないのが一般的であると考えられるので「はず」は使えないと思われる。ここで「だろう」が使われているのは話し手の経験などによる推測ではなく、ただ話し手の思いだけを述べることになる。韓国語では「겠지(-gess-ji)」が使われているが、自分のことであっても未来の予想できないことやそうなるのを望んでいないときに対しては「ㄱ 것(-l geos)」よりは「겠지(-gess-ji)」を使った方が自然であると考えられる。また、一人称に対してはこのような例以外の例文はなかった。

4.4.2.1.2 「かもしれない」文

「かもしれない」文についても自分のことなので断言してもいいように見えるが、次のように未来の予想できないことについては判断するための根拠が得にくくなり「かもしれない」が使われている。

4.4.2.1.2.1 一人称の事態

例21)潮香は水野の言葉に力なく頷いた。

「こんな風に毎日少しずつ、何かができなくなっていくの？目を閉じて、次の日が来るのがこわい。朝が来て、悪くなっているかもしれないと思うのが怖い。時間がたつのが、こわい。」

이렇게 매일 조금씩 무언가를 못 하게 되어 가는 거야? 눈을 감으면 다음 날이 오는 게 무서워. 아침이 되어서 더 나빠졌을 지도 모른다(-ji(do) moleu-nda)는 생각이 드는 것이 무서워. 시간이 흐르는 게 무서워.

例 22)両親が急きょ出かけることになり姪の瑠花を預かることになった聰子。

「デートの予定もないしこのまま一生一人かも。」珍しく弱音を吐く姉に驚く弟達也。

「まさか一人で生きていくって決めたの？」

「決めてないけど覚悟を決めつつあるっていうかね。」

데이트도 없고 이대로 평생 혼자일 지도(-ji(do)-).

설마..독신으로 살기로 정한 거야?
정한 건 아니지만 각오를 해두자는 거지.

例 21)と例 22)で「だろう」に置き換えても自然であると判断した人は 14 人と 12 人で、「はず」に置き換えると不自然であると判断した人は全員であった。自分のことを推測してかなりの情報を持っていると考えられ「はず」が使えるように見えるが、話し手は「悪くなる」や「一生一人になる」ことを望んでいないようであり、「はず」に置き換えると不自然な文になると思われる。韓国語でもこのような文には「ㄷ 것(-l geos)」が使われず「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」が使われていた。以下もそのような例である。

例 23)「はい。あ、でも、これからまだ試験とか受けなきゃいけないし、先輩とは違う国かもしれないけど、でものだめもピアノ頑張ります。そうすればいつか・・・ミルヒーと先輩みたいに、同じ舞台上でコンツェルトできるかもしれないし。」

네. 하지만 앞으로 시험도 봐야 하고 선배하곤 다른 나라일지도 몰라요. 그래도 저 열심히 할래요. 그러면 언젠가 미르히와 선배처럼 같은 무대에서 협주곡을 할 수 있을 지도 모르(-ji(do) moleu-)잖아요.

以下の例は話し手が情報を得にくいと考えられる場面で「かもしれない」が使われているが、韓国語では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」より確信度が高いと考えられる「것 같다(-geos gatda)」 「보다(-boda)」が使われている。

例 24)「1ヶ月も眞面目に勉強するなんて生まれて初めてじゃん。次の中間試験どんだけ成績上がってるかもう怖くてさ。マジで東大受かっちゃうかもな。」

한 달동안이나 열심히 공부하다니 난생 처음 있는 일이잖아. 이번 중간고사 성적 얼마나 오를지 무섭기까지 하다니까. 이러다 나 진짜로 도쿄대 붙을 것 같(-geos gat)애.

例25)「安仁屋。俺はストレート一本だ。」と江夏。

「おい！俺よ！さっきマジで球が止まって見えちゃって！ヤベーよ！天才

かも俺！！」と大はしゃぎの若菜。

아니야 나는 직구만 던져.

야 야! 방금 나 진짜 공이 멈춰있는 것처럼 보였어. 아 어떻게해! 난 천재인 가봐(-bwa)~!

例24)と例25)は話し手は「東大に受かる」と「天才である」と判断しているが、「成績が上がっているかもしれない」や「球が止まって見える」ということを根拠にしているようである。しかし、「だろう」や「はず」を使うまでの根拠ではないと考えられたため、可能性を表す「かもしれない」が使われていると思われるが、韓国語では「것 같다(-geos gatda)」と「보다(-boda)」が使われている。

4.4.2.1.3 「はず」文

4.4.2.1.3.1 一人称の事態

例26)「みんなの気持ちは、素直に心に染みる。でもねお母さん。過ごしやすい場所が欲しいわけじゃないの。これから先、どう生きていくか。そのことを考えていたの。今の私は、ただみんなの世話になるばかり。足がフラつく。言葉が上手く話せない。それでも、自分の体だから、自分が諦めちゃいけないんだ。18歳。私にだって、私なりの未来があるはず。」

가족들의 마음은 있는 그대로 가슴에 와 닿는다. 하지만 엄마, 편하게 지낼 수 있는 곳이 필요한 게 아냐. 이제 앞으로 어떻게 살아갈지, 그걸 생각하고 있었어. 지금의 나는, 가족들에게 짐만 될 뿐인걸. 다리가 떨린다. 말을 제대로 할 수가 없다. 그래도, 내 몸이니까 내가 포기하면 안 돼. 18 살. 나에게도 나만의 미래가 있을 거(-l geo)야.

例26)では全員が「だろう」と「かもしれない」に置き換えられると判断したが、自分なりの未来があることに自信を持っていないように見えるというコメントがあった。韓国語でも「ㄷ 것(-l geos)」が使われているが、「ㄷ (-gess)」を使うよりは話し手が自分のことについてもっと興味を持って期待をしていることがよく表されていると考えられる。以下の例も期待や自信を表わす例文である。

例27) 「そうよ！頭もいいし、スポーツ万能でね。でもね、詳しくは知らないけど、病氣らしいわよ。」

「そうなの？気の毒ねー。」

その言葉に弘樹の表情が一瞬曇ったが、母に呼ばれ二人の元へと駆け戻った。

「思いっきり走ることは出来なくなったけど、ゆっくりとしか歩けないけど、それでも、私にはやれることがきっとあるはず。」

맞다 니까, 머리도 좋고 운동도 그렇게 잘한다더니. 그런데, 자세히는 잘 모르겠지만 무슨 병에 걸렸구나 봐.

그래? 참 복도 없다.

힘껏 뛸 수는 없게 되었지만 천천히 걸을 수 밖에 없게 되었지만 나한테도 할 수 있는 일이

꼭 있을 거(-l geo)야.

以上のように、一人称の場合でも予想出来ない未来のことについては情報を得にくくなり、「だろう」や「かもしれない」が使われるが、韓国語では「かもしれない」文において「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」以外の推測表現が使われる場合もあった。また、話し手の期待を表わす場合には「はず」が使われ、このような場合には韓国語でも「ㄷ 것(-l geos)」が使われる。

4.4.2.2 情報を得やすいと考えられる場合

話し手が自分の考えていることや感じていることについては断言をしてもいいようである。しかし、実際の例文では「かもしれない」が使われていた。このような場合話し手は情報を得にくいため「かもしれない」を使っているわけではなく、婉曲や表明回避をしていると考えられる。

4.4.2.2.1 「かもしれない」文

4.4.2.2.1.1 一人称の考え

例 28) 「本当は、先生も迷惑してたんでしょ？」 「いや。」 「迷惑してました。」 「してない。」 「迷惑だって言ってたじゃない！」 「・・・確かに、言った事はある。」 「ほら！」 「内海君！」 「もういい加減にしてくれってうんざりしてたんでしょ！？」 「・・・かもしれない。」 「ほら！」

사실은 선생님도 귀찮으셨죠?

아니야.
귀찮게 해드렸어요.
안 그랬네.
성가시다고 했잖아요.
확실히 말한 적은 있네.
거 봐요.
우즈미군
진절머리 나서 이제 적당히 좀 했으면 했죠?
그렇지도 모르(-ji(do) moleu-)겠군.
거 봐요.

例28)では全員「だろう」と「はず」に置き換えると不自然であると判断したが、「うんざりしていた」ということは話し手にとって直接経験した情報なので「だろう」や「はず」を使うには無理があるようである。話し手は自分が本当にうんざりしてたかどうか分からないので「かもしれない」を使っていると捉えられるが、「かもしれない」を使った方が間接的で柔らかい表現になるので「かもしれない」を使っているとも捉えられる。韓国語でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」が使われているが、次のような例文では他の形式が使われている。

例29)雪平「下品で、アンフェアな生き方。これってあなたの言葉ですよね。」瀬崎が微笑む。「なぜ・・・なぜこんなこと始めたの？」
瀬崎「今考えると、小説家志望の僕のやり方で、自分の存在意義を確かめたかったのかもしれない。アンフェアな世の中で、生きていく夢を見出したかったのかもしれない。腐った世の中に、腐ったやり方で波紋を起こす！何かが変わるかもしれないと思っていました。僕は希望を見出したかったです。あなたもそうでしょうか？」

천박하고 부당한 삶의 방식 이거 당신이 쓰는 말이잖아요. 왜죠. 왜 이런걸 시작했나요.

지금 생각해 보면 소설가가 지망인 내가 할 수 있는 방법으로 내 존재를 시험해 보고 싶었나 뵈(-na bo-)니다. 부당한 세상에서 살아가는 방법을 찾아내고 싶었나 뵈(-na bo-)니다. 썩어빠진 세상에서 썩어빠진 방법으로 과문을 일으켜 뭔가가 변할 수 있지 않을까 하고 생각했습니다. 저는 희망을 보고 싶었습니다. 당신도 마찬가지잖아요.

例 29)では、自分のことについて判断している場面であるが、断言をしてもいいようなところに「かもしれない」が使われている場面である。韓国語でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」ではないが、他の推測表現(「보다(-boda)」で「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」よりは確信度が高いと考えられる表現)が使われている。

4.4.2.2.1.2一人称の感覚・感情

例30)「今は、頼りにならないかもしれないけど、いつか、お前の役に立ちたい。昔みたいにいかななくても、そういう気持ちでつながっているから、住む世界が違うとは思わない。」

「・・・」

「俺・・・お前のこと・・・好き。・・・なの・・・好きなのかも・・・。多分。」

「・・・ありがと。」

지금은 의지되지 않겠지만 언젠가 너에게 도움이 되고 싶어. 예전 같지 않더라도 그런 마음으로 이어져 있으니까 사는 세계가 다르다고는 생각하지 않아.

나.. 너... 좋아.. 해 좋아하는 걸지도(-jido). 아마도.
고마워

例 30)では全員が「だろう」と「はず」に置き換えると不自然であると判断した。推測表現を使わなくてもいいような場面であると考えられるが、「かもしれない」が使われている。自分の気持ちでまた相手にそれを伝えるには断言した方が自然であると思われるが、話し手は好きな可能性があるという意味になる「かもしれない」を使っている。しかし、話し手は本当に可能性があることだけを伝えたくて「かもしれない」を使っているのではなく、聞き手に断言して言うのが恥ずかしくて断定を避けて「かもしれない」を使っていると思われる。このような例文がいくつかあった。以下もそのような例である。

例 31)美央を迎えに行く雪平。

所長「美央ちゃん、お母さん迎えにきたわよ。」

雪平「今日ね、ママ、一人で迎えに来たの。美央、安藤お兄ちゃんのこと、好き？」

美央が頷く。「そっか。」

美央「ママはわたしのことすき？」

雪平「大好きよ。世界で、一番、大好き。本当よ。」美央が微笑む。

美央「パパは？」

雪平「嫌いじゃないかな。うん。好きなほうかもしれない。」

美央「きょうパパがきたの」

雪平「何て？」

美央「おしごとおわったらむかえにくるって」

미오. 어머니께서 데리러 오셨어.

오늘은 있잖아. 엄마가 혼자서 데리러 왔어. 미오 안도 오빠 좋아?
그래?

엄마는 나 좋아?

너무 좋아. 세상에서 제일 정말 좋아. 정말로.

아빠는?

싫지는 않아. 좋아하는 쪽 일지도 몰라(-ji(do) molla).

오늘 아빠가 왔어.

뭐래?

일 끝나면 데리러 온다고.

次は「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」ではなく、他の推測形式が使われている文を見してみる。

例 32) 「母ちゃんは、年を取らなくていいね。」

「・・・そうだね。」

「でも・・・そのうち雫が追い越して、母ちゃんが年下になったらなんか変な感じするかも。」英治が笑う。

엄만 나이를 안 먹어서 좋겠다.

그러게.

그래도 나중에 내가 커서 엄마보다 나이가 많아지면 웬지 이상할 것
같(-geos gat-)아.

例 32)では自分の感情ではあるが、「母ちゃんが年下になったら」と仮定しているため推測表現を使ってもいいと思われる。韓国語では「것 같다(-geos gatda)」が使われている。次の三つの例も「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」以外の表現が使われている文である。

例33) 「おお！レインボドリム！？」

「今うちの会社が開発している若い子向けの製品だ。」

「名前からしてもコケてるし、欲しくないかも！」

레인보우 드림?

지금 우리 회사에서 개발하고 있는 젊은층을 겨냥한 향수야.

이름부터 별로네. 사기 싫겠(-gess)다.

例 34) 「プロポーズ！？」

「私主任好きよ。絶対いい嫁姑になれそうな気がするな！」

「何でそんなとこまで話が飛ぶんだよ！」

「俺も賛成!主任さんとアニキが結婚して、この家に来てくれたら俺嬉しいかも!だって、主任さんって味噌汁作る時、ちゃーんと鰹節でダシ取ってるんだよな。」

프로포즈?

난 주임 맘에 들어. 고부갈등 같은 거 절대 없을 거야.

왜 얘기가 그리로 튀는데.

나도 찬성이야. 주임님하고 형이 결혼해서 이 집에서 같이 산다면 정말 좋을 거(-l geos)야. 주임님 된장국 끓일 때 꼭 가츠오를 넣거든.

例 35) 「ちゃんと亮介さんに誤ろうと思っただけでも、君の方が人間的になってるかもしれない。

「君って言われたの始めて、なんかくすぐったい。」

「そう？」

「でもなんかちょっと嬉しいかもね。もう一回言ってくれるかな。」

착실하게 료스케상에게 용서를 빌려고 하는 것만으로도 니가 인간이 되어 있을지도 몰라.

너라고 들은 거 처음이네. 웬지 간지럽다.

그래?

하지만 웬지 기분 좋은데. 한번 더 말해 주지 않을래?

上の三つの例で韓国語は「졌(-gess)」「ㄷ 것(-l geos)」「断言」の表現が使われている。このように、自分の感情であるが、日本語では「かもしれぬ」が、韓国語では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」以外の表現が使われる場合があった。

4.4.2.2.1.3一人称の過去の考え

例36)「いつも見る夢の中ではね、歩いたり、走り回ったり、自由に動けるの。初めて麻生君と出会ったころみたいに。でもね、今日の夢は、違った。私・・・車椅子に、乗ってた。夢の中でも、私は、身体が、不自由、だった。自分の体のこと、認めてるつもりでも、心の底では、認めてなかったのかも。これが、私なのにね。」

늘 꾸는 꿈에선 걷거나 뛰면서 돌아다니거나 하면서 자유롭게 움직일 수 있어. 처음 아소하고 만났을 때 처럼. 그런데.. 오늘 꿈은 달랐어. 나.. 휠체어에 앉아 있었어. 꿈에서도 나는...몸이... 불편...했어. 내 몸이 불편한 거 인정한다 생각했었는데 마음 깊은 곳에서는 인정하지 않았던 걸지도(-jido) 이게... 나인데도 말이지.

例36)では全員が「だろう」と「はず」に置き換えると不自然であると判断した。話し手はある程度根拠を持っているようであるが、それは夢を見たことだけなので「だろう」や「はず」を使うまでの根拠にはならないようである。韓国語でもこのような場合は「졌(-gess)」や「ㄷ 것(-l geos)」より「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」を使った方が自然な文になると思われる。

4.4.2.2.1.4一人称の過去の感情

例37)「自分のアイデンティティーがグラグラグラしてむしゃくしゃしている時に、勤め先の社長から言われたんだ。韓国名だと色々不都合あるかもしれぬーから日本名にしたらって。」

「ちょっと・・・何の不都合なんだよって・・・」

「以前の俺なら怒ってたかももしれない。でも、その時あっさり、帰化しようって思ったんだ。」

자신의 정체성이 흔들흔들 뒤죽박죽 일 때 일하는 곳의 사장님이 말했어. 한국 이름이면 여러 가지 불편할 테니까 일본이름으로 하면 어때 라고.

웃기지마. 무슨 불편이야.

예전의 나라면 화냈겠지(-gess-ji). 그런데 나 그때 간단히 귀화하자고
생각했어.

4.4.2.2.1.5 一人称の過去の意志的な行動

例 38) 「パパも結構大変なんだね. 私が生まれる前からパパは会社に行って
たし. あたり前だと思ってたけど、働くなって大変だね。」

「そうだな。」

「私だったらとっくに辞めてるかも。」

「家族がいるからな。」

아빠도 많이 힘들었겠어. 내가 태어나기도 전부터 회사에 다녔잖아.
당연하다고 생각했는데 일한다 게 정말 힘들더라고.

그렇지?

나 같으면 벌써 오래 전에 관뒀을 거(-l geo)야.

가족이 있으니까.

例 37)と例 38)は、自分の過去の行動についての判断ではなく、仮想の世界での話し手の判断であり、未来のことについて判断するのと同じ扱いが出来ると思われる。「かもしれない」は自分の過去の行為が仮想的でない限り使えないと考えられる。韓国語では、このような場合でも「겠지(-gess-ji)」や「ㄹ 것(-l geos)」が使われている。

一人称の内的感情感覚と過去の意思的な行動についてはどちらも情報が得やすいと考えられるが、内的感情感覚は話し手が現在感じたことを判断しているのに対して、過去の意思的な行動は仮想的な行為であるため、未来のことについての判断と類似していると見ることが出来る。従って、「かもしれない」において「内的感情感覚」と「過去の意思的な行動」については、両方情報を得やすいと思われるが、「過去の意思的な行動」は仮想の世界での話し手の判断(未来についての判断と同じ扱いが出来る)なので「内的感情感覚」よりは推測しやすくなると考えられる。また、韓国語では、自分の感情や行動についてはっきりしていると考えた場合には「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」ではなく、「겠지(-gess-ji)」や「ㄹ 것(-l geos)」が違和感なく使えるようである。

4.4.2.2.2 「はず」文

4.4.2.2.2.1 一人称の過去の意志的な行動

例39) 「ですからその件につきましてはお断りしたはずです。」と聰子。

「もう 1 度考え直してもらえないかな。神林さんが一番こだわっているのが緒方先生が院長になるってことだから。緒方先生が引き受けてくれないとね、病院を建て直す計画が進まないんだよ。」

그러니까 그 건은 이미 거절한다고 말씀 드렸잖아(-janh--a)요.

한번 더 다시 생각해 봐줄순 없을까? 칸바야시씨가 제일 집착하는 부분이 오가타 선생이 원장을 맡는다는 점이니깐. 오가타 선생이 수락해 주지 않으면 말야 병원을 재건하는 계획을 진행시킬 수가 없다 구.

例 40) 「私は初めに言ったはずだよ。心だけじゃない。あの男から何もかも奪うんだとね。」

처음부터 말했을 거(-l geo)야. 마음뿐만이 아니라. 모든 걸 빼앗을 거라고.

例39)と例40)では全員「だろう」に置き換えても問題はないと判断し、「かもしれない」に置き換えたら不自然になると判断した。例39)と例40)の「はず」は推量用法ではないようである。話し手はある事実を聞き手に再認識化させるために言っていると思われる。このような例文については語用論的な意味が出てくる場合のときまた見てみることにしよう。

情報を得やすい場合には、日本語の三つの形式で「かもしれない」だけが使われるようである(「はず」の例文もあったが、語用論的な意味が出てくる場合である)。自分のことなので断言してもいいと思われるが、婉曲や表明回避の用法で「かもしれない」が使われていた。韓国語では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」だけでなく、「겠(-gess)」 「겠지(-gess-ji)」 「ㄷ 것(-l geos)」 「断言」の形式が現れている文もあったが、これらを見ると、韓国語は日本語ほど婉曲や表明回避をする傾向がないと考えられる。つまり、韓国語では自分の感情や行動についてはっきりしているかどうかによって推測の形式を使っていると言えよう。

4.4.2.3 ある程度情報を得られると考えられる場合

次は話し手の意思的な行動である程度情報を得られると考えられる場面

で、「だろう」や「はず」が使われてもいいように見える。しかし、以下の例文は仮定の世界での自分の行動や自分の行動が正しいのかどうか分からない場面であるが、「かもしれない」が自然に使われていた。

4.4.2.3.1 「かもしれない」文

4.4.2.3.1.1 一人称の過去の意志的な行動

例 41) 「本当にいいんですか？」と道子。

「鹿に聞いてみるしかないだろ。」

「今日の地震は車で黒塚古墳に向かう途中で起きたんです。それで道路が通行止めになって到着が予定より大きく遅れてしまいました。あの地震がなければ 今頃きっと私は鏡を持ってどこかへ逃げさっていたかもしれない。あれは偶然だったのかそれとも必然だったのか。ひょっとすると人間の預かり知らぬところで何か大きな力が いているのかもしれない。」と小治田。

괜찮을까요?

사슴한테 물어봐야지. 오늘 차로 쿠로즈카 고분에 가는 길에 지진이 있었어요. 지진 때문에 도로가 막혀서 생각보다 너무 늦게 도착하게 된 거죠. 그 지진이 아니었으면 지금쯤 거울을 가지고 멀리 도망쳤을 거(-1 geo)예요. 지진이 일어난 게 우연인지 필연인지는 모르지만. 어쩌면 우리가 모르는 곳에서 어떤 거대한 힘이 움직이고 있는지도 모르죠.

例 41)で「だろう」や「はず」に置き換えても自然になると判断した人は全員であった。自分の未来の行動なので「かもしれない」より確信度が高い表現を使ってもいいと思われるが、ここでは「かもしれない」が使われていた。韓国語では話し手がかなりの情報を持っているときに使う「ㄷ것(-1 geos)」が使われている。韓国語の観点から見ると、話し手が判断していることは仮定の世界での出来事ではあるが、そうだとでも自分のことなので確信を表す形式や断言する形式を使ってもいいように見えると思われる。

4.4.2.3.1.2 一人称の過去の事態

例 42) 「好きな人いたの!？」

「まあね。」

「結婚したかったの？」

「その気持ち彼には言えなかった. 言ったら何か変わってたのかな。」

「結婚してたかもしれない。」

「39になってこんなにジタバタしなくて済んだかもしれない。」

「結婚相談所入ったりね。」

좋아한 사람 있었어?

뭐 그렇지.

결혼하고 싶었어?

그런 마음 그 사람한테는 말하지 않았어.

얘기했다면 뭔가 달라졌으려나.

결혼 했을지도 몰라(-ji(do) molla).

39가 되어서 이렇게 초조해 하지 않았을지도 몰라.

상담소에 가입을 하고 말이지?

例42)で「だろう」に置き換えると自然であると判断した人は9人で、「はず」に置き換えると不自然であると判断した人は全員であった。自分一人だけでは決められない結婚のことなので「はず」を使うまでの根拠はないと思われる。韓国語でもこのように自分のことではあるが、聞き手と関わりがあるような場面では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」が使われていた。

自分のことについて推測する場合を見てきたが、自分の内的感情感覚よりは自分に関わる事柄の方で推測しやすくなっていた。事柄のことでも仮定の世界での判断の方が推測しやすくなっており、内的感情感覚のことでは現在ではなく過去の場合が推測するのに落ち着きがいいと考えられる。

また、「かもしれない」が韓国語の「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」に対応していると想定したが、実際には「것 같다(-geos gatda)」「보다(-boda)」「断言」などが使われていた。これらは「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」よりは確信度が高いと考えられる表現であるが、日本語よりは直接的な表現を使う傾向があるようである。

一人称の情報を得にくい場合には、自分のことではあるが、予想できない未来のことについては「だろう」や「かもしれない」が使われ、話し手の期待を表わす場合には「はず」が使われるようである。韓国語では「かもしれない」文において情報を得にくい場面でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」より確信度が高いと考えられる「것 같다(-geos gatda)」や「나 보다(-na boda)」が使われる場合もあった。期待を表わす場合の「はず」文では韓国語でも「ㄷ 것(-l geos)」が使われていた。

次に情報を得やすい場合には、「かもしれない」だけが使われていたが、婉曲や表明回避の場合が殆どであった。韓国語では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」だけでなく、「ㄷ(-gess)」 「ㄷ지(-gess-ji)」 「ㄷ 것(-l geos)」 「断言」の形式が現れていた。韓国語でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」が使われているところを見ると、婉曲や表明回避の用法がないとは言えないが、同じ場面でも他の形式が使われるところを見ると、自分の中でははっきり認識していると考えられるときには表明回避をする傾向はないようである。また、話し手は情報を得やすくなる場面であるが、「過去の意志的な行動」の方が「内的感情感覚」より推測しやすいと考えられる。それは、内的感情感覚は話し手が現在感じたことを判断しているのに対して、過去の意志的な行動は仮想の世界での話し手の判断で未来のについて判断していることになるからであろう。

また、ある程度情報を得られる場合にも話し手の仮定の世界での判断で「かもしれない」が使われていたが、韓国語ではこの場合でも「ㄷ 것(-l geos)」が使われる場合があった。

4.4.3二・三人称の場合

4.4.3.1情報を得にくいと考えられる場合

4.4.3.1.1「だろう」文

4.4.3.1.1.1二・三人称の考え

例43) 「おおむねよろしい、が、君はひとつだけ間違えた。私は、穂積君を殺していない。」 「彼女は本当に自殺したと？」 「ああ・・・」 「あなたの研究を守る為に？なぜそこまで。」 「君にはわからんだろうね。」

대체적으로 맞지만 자네는 한 가지 틀린 게 있네. 나는 호즈미군을 죽이지 않았네.

그녀가 정말로 자살했다는 말씀이십니까?

그래.

당신의 연구를 지키기 위해? 왜 그렇게까지..

자네는 알 수 없을 거(-1 geo)네.

例 43)では全員が「かもしれない」に置き換えても自然になると判断した。また、「はず」に置き換えると不自然になると判断した人は 13 人であった。話し手は聞き手の考えをそのように推測する根拠について一般的に情報を得にくいと思われ、「はず」を使うには無理があるようである。この場合は他の表現を使って聞き手に聞くか確認するかの方が柔らかい言い方になると思われる。韓国語では「だろう」に対応していると想定した「겠(-gess)」ではなく「ㄷ 것(-1 geos)」が使われている。同様に以下のような例文は、話し手は第三者がどう思っているのかを知っていると考えられる情報や根拠は持っていないようで「はず」を使うと不自然な文になると思われるが、韓国語では「ㄷ 것(-1 geos)」が使われていた。

例 44)美桜の家に、四条がタイヤキを持ってやって来た。

「菱田さんがな、彼女のお父さんのお見舞いがてら、会ってきたらしいぞ。」

「そうですか。」

「いいのかよ、それで。」

「仕方が無いですよ。」

「仕方ないって又それかよ！お前もツラはいいんだけどな。多分女は、そういうところ食い足んねーんだろうな。」

「すみません。」

「ま、俺も、似たようなところあるけどな。」

히시다 씨가 그녀 아버지 명문안을 갔다가 만났던 모양이야.

그래요?

이대로 괜찮냐?

별수 없죠.

별 수 없긴 또 그 소리야. 넌 생긴 건 괜찮은데. 아마 여자들이 그 성격이 성에 안 차는 걸 거(-l geo)야.

죄송해요

뭐, 나도 비슷한 면이 있긴 하지.

特定できない人の考えに関わることを推測している場面で日本語では「はず」を使うと不自然な文になるが、「かもしれない」は自然に置き換えられると思われる。話し手は第三者の考えについて判断の根拠となる情報が得にくく、上例も単なる話し手の考えを述べていると考えられるからであろう。韓国語の「ㄷ 것(-l geos)」が使われているところを見ると、韓国語では第三者でもない(会ったこともないので知ることが出来ない人物)人のことでも、自分の中では一般的にそうであろうと思ったときには確信して言うことが出来るようである。

例45) 「僕たちはその時のために、準備をしてきた。このままじゃ君も君の大切な人たちもみんな死んでしまう。でもここからが大事。もし、君が僕たちを助けてくれるなら、君の大切な人たちだけは予め死なないよう約束する。正義のヒーローごっこはこの辺にした方がいいよ。君のお父さんも言ってたよ。いずれ息子もわかってくれるだろうって。」

「父さんが・・・お前らに寝返ったって言うのか？」

우리는 그 때를 위해 힘들게 준비해왔어. 이대로는 너도, 네 소중한 사람들도 모두 죽어버려. 하지만 지금부터가 중요해. 만약 네가 우릴 도와준다면 너의 소중한 사람들 만큼은 미리 죽지 않도록 약속할게. 정의의 히어로 놀이는 이 정도만 해두는 게 좋아. 네 아버지도 말했었어. 조만간 아들녀석도 이해해 주겠지(-gess-ji) 라고 아버지는.. 너희들 쪽으로 돌아섰다는 거냐.

例 45)で全員が「かもしれない」に置き換えても自然であると判断し、10人が「はず」に置き換えても自然であると判断した。第三者の考えていることについて推測している場面で情報を得にくいと思われる。ここでは、お父さんが自分の息子のことなのである程度情報を持っていると考えられるが、「いずれ」と言っているのを見るとお父さんも自分の息子が理解しているのかどうか分からないようで情報を得にくいと考えられる。また、「はず」が使えるのはお父さんが息子に分かってほしいという期待感があるためであると考えられる。韓国語でも「ㄷ 것(-l geos)」を使っても自然な文になるようである。

4.4.3.1.1.2二・三人称の感覚・感情

例46)「僕だけは見逃してね。」氷柱は微笑みを浮かべて首を横に降ると、桂木も嬉しそうに笑う。

「あー。外は月夜か。」桂木が穏やかにそう言った。神志名が牢の中の黒崎に言う。

「ここは落ち着くだろう。もう逃げなくてもいい。復讐なんてしなくてもいい。本当は、ほっとしてるんだらう?お前を売ったのは、お前が騙したシロサギだ。そうやってお前らは、同じとこグルグル回ってる、バカなやつらだ!」

나는 눈감아 줘야 해.

밖은 달밤(月夜)인가.

여기는 안정되지(-ji)? 더 이상 도망치지 않아도 돼. 복수 따위 안 해도 돼. 정말은 안심하고 있지(-ji)? 너를 판 건 네가 사기친 시로사기야. 그렇게 너희들은 같은 곳을 빙빙 돌고 있는 멍청한 녀석들이지.

例46)は聞き手が落ち着くと推測して「だろう」を使っていると思われるが、このような「だろう」は推量用法から確認用法に移りつつあると言える場面である。推量用法として捉えられるが、聞き手の感情のことなのである程度推測出来て(ある程度情報があると想定できる)相手に確認する確認用法で捉えた方が自然な文になると考えられる。三人称のことであれば推測用法で捉えても問題はないようであるが、二人称のことについては推測よりは確認で捉えた方が落ち着きがいいと思われる。韓国語でも相手に確認をする形式である「지(-ji)」が使われている。

例 47) 雪平「最初は警察に届けるなと言ひ、次は公表せよと言う。」
 佐藤「あきらかに誘拐犯だ。お前が右往左往するのを見て喜んでいるんだろ。間違いなくお前に恨みを持っているやつの仕業だ。」
 雪平「また私！私のせい！？何でもかんでも、私のせいね！」
 처음에는 경찰에 알리지 말라더니 이번엔 공표하라니
 분명히 유괴범이라고 당신이 허둥대는걸 보고 즐거워하는 거(-n geo)라고. 틀림없이 당신한테 원한을 갖고 있는 녀석의 짓이야.
 또 나야? 내 탓이야? 뭐든 다 내 탓이래.

例47)で全員が「かもしれない」に置き換えても自然になると判断し、「はず」を使ったら不自然になると判断した。話し手は前の文脈(「最初は警察に届けるなと言ひ、次は公表せよと言う」)で情報を得てそれを根拠に推測している場面であるが、犯人についての詳しい情報は持っていないようである。つまり、話し手の判断は「はず」を使うまでの根拠にはならないようである。韓国語では説明や叙述をしている「ㄴ 것(-n geos)」(自分が知っている事実を聞き手に説明する表現である)が使われて断言しているように見える。韓国語では自分が判断したのは事実に近いと信じて判断しているようである。

4. 4. 3. 1. 1. 3 三人称の過去の考え

例 48) 春香はインターフォンを乱暴に鳴らし、
 「雅人さん、また警察に呼ばれたそうです。彼は、あなたの罪をかぶろうとしているんですよ！それでいいんですか！？あなたの息子さんじゃないんですか！」と訴える。すると、門が開いた。
 「あいつは、昔から、次男や娘と違って、私に懐かなくてね。忙しくて、家に帰らなかった私を恨んでいたんだらう。」
 마사토씨, 또 경찰에 불러갔어요. 그는 당신의 죄를 덮어쓰려고 한대
 구요! 그래도 괜찮으세요?
 당신의 아드님이잖아요!
 그 녀석은 옛날부터 둘째나 딸하고 달리 나를 잘 따르지 않았어.
 바빠서 집에 오지 못하는 나를 원망 했겠지(-gess-ji).

例 48)で「はず」に置き換えたら不自然になると判断した人は 13 人であった。息子のことである程度推測できると思われるが、話し手は「自分に懐かなくて」という事実から息子の感情や考えに関わることを確信して推測するのは難しいようで「はず」は使えないようである。韓国語では「겠지(-gess-ji)」が使われているが、「ㄷ 것(-l geos)」を使っても自然な文になると思われる。

4.4.3.1.1.4 三人称の過去の感覚・感情

例49)「安田由紀子は、恋人もおらず、会社でも目立たない存在でした。唯一の楽しみが、ネットへの書き込みだったそうです。」と澤北。

「テロリストとの関係は、特に見つかっていません。」と工藤。

「狙いは誰でも良かったんだらう。予行練習に続いて次はウイルスの破壊力実験。俺がテロリストならそうするね。」と加納。

「知ってるみたいに言うんですね。」と宝生。

야스다 유키코는 남자친구도 없고 회사에서도 눈에 띄지 않는 사람입니다.

유일한 취미가 블로그 라고 합니다.

테러리스트와의 관계는 발견된 것이 없습니다.

누구든 상관없었던 거겠지(-gess-ji). 예행연습 다음엔 바이러스의 파괴력 실험 내가 테러리스트라면 이렇게 하겠지.

아는 것처럼 말씀하시네요.

例49)では全員が「はず」を使ったら不自然であると判断した。ある事実、つまりテロリストとの関係は見つかっていないということを知っているが、また捜査したら何かの関わりがあるかもしれないので「はず」を使うまで確信は出来ないようである。韓国語でも「겠지(-gess-ji)」が使われているが、「ㄷ 것(-l geos)」が使えないわけではないと思われる。

このように、話し手は聞き手や第三者のことについてよく知ることが出来る立場であっても聞き手や第三者の内的感情感覚のことについては情報が得にくくなり、「だろう」が使われている。また、単なる話し手の考えを述べるときにも「だろう」が使われていた。しかし、韓国語では「겠지(-gess-ji)」だけでなく、「ㄷ 것(-l geos)」が使われている例文もあった。

4.4.3.1.2 「かもしれない」文

4.4.3.1.2.1 二・三人称の考え

例 50) 「先生例えば同じイジメにあったとしても、そのイジメに耐えられる子と耐えられない子がいると思うんですよ。」

「ええ。」

「あなたが、キライって。そのたった 3 文字の言葉で、死にたくなるぐらい、壊れてしまう人もいます。舜は、そういう脆くて繊細な人間なんです。あいつはだから、心に棘を生やしたまま、傷つけられる前に、傷つける。そういう風にしか生きていけないんです。これは多分、健全で健康に育った人には多分、理解し辛いかもしれません。ところが、」

「るりさんは理解した・・・。」

설사 똑같은 따돌림을 당하더라도 그걸 견딜 수 있는 아이와 견디지 못하는 아이가 있어요.

네

'너, 싫어' 고작 이 세 글자로 죽고 싶을 만큼 망가지는 사람도 있어요. 순이 그런 여리고 섬세한 친구예요. 그래서 녀석은 마음속에 가시를 세워둔 채 상처받기 전에 상처 주며 그렇게 살아갈 수밖에 없었던 거예요. 아마도 건전하고 건강하게 자란 사람은 이해하기 힘들 거(-1 geo)예요. 그런데,

루리 씨는 이해를 했다.

例 50)では「だろう」に置き換えても自然であると判断した人は 12 人で、「はず」に置き換えたら不自然になると判断した人は全員であった。しかし、韓国語では話し手がかなりの情報を持っているときに使う「ㄴ 것(-1 geos)」が使われている。

例51) 「・・・・・・浜下さん。あなたご自分の会社を裏切るつもりですか？」
「・・・・」

「親族でしょう？それなのにどうしてそんなことを。」

「・・・・親族だからですよ。その縁で無理やり入社させられたんです。いざ入ったら、新規事業部だなんて、ていのいい厄介払い。バカにしてるんですよ、基本的に！そんな扱い受けて、誰だって仕返ししてやりたくなりますよ！」見詰め合う二人。白石が笑い出す。

「あなた面白い人だ。あなたにだったら、私の気持ちをわかっていただけるのかもしれません。私はね、腐った組織っていうのが大嫌いなんです。組織が大きくなればなるほど、個人の存在は小さくなっていきます。」

하마시타씨. 당신 자신의 회사를 배신할 생각인가요? 거기다 친족이잖아요. 그런데 왜 그런?

친족이기 때문이죠. 그 연으로 해서 무리하게 입사시켰기 때문이에요. 그리고 들어와 봤더니 신규사업부라니 일의 대가도 받지 못하고 바보로 만들고 있잖아요. 기본적으로 그런 취급 받는다면 누구든 복수 하고 싶어지지요.

당신 재미있는 사람이네요. 당신이라면 제 기분 이해할 지도 모르(-ji(do) moleu-)겠네요. 전 말이죠 썩어빠진 조직 같은 걸 정말 싫어해요. 조직이 커지면 커질수록 개인의 존재는 작아지죠.

例50)に対し、例51)では「だろう」に置き換えると自然になると判断した人は4人で、「はず」に置き換えると自然になると判断した人は2人であった。話し手は聞き手の事情や気持ちを聞いて推測している場面であるが、本当に聞き手が分かってくれるかどうかまでの情報はないと思われる(聞き手の話を聞いたとしても聞き手の考えていることや感情に関することなので)。韓国語では「겠(지)(-gess(ji))」や「ㄷ 것(-l geos)」を使っても違和感なく自然な文になるとと思われる。

4.4.3.1.2.2 三人称の感覚・感情

例 52) 「そりゃ俺にとってはすごい大金ですけど、貯金とか・・・ひよっとしたら店・・・」

「바카야로우! 오前. 店手放すつもり! ?」

「汐見さん! ?」

「오前その話、零には! ?」

「・・・零にはまだです。でも、彼女には・・・彼女が受け取らないんだったら意味ないですから。」

「好きな相手だと、重いのかもしれませんね。それにこれまでの関係性が崩れるのも、怖いのかもしれない。今まで何でも言い合えたのに、借りが出来ると負い目を感じちゃうから。」

그야 저한테는 엄청난 거금이긴 하지만 저금해 돈 돈하고 가게 보증금을 빼면

멍청아, 가게까지 뺄 생각이야?

시오미 씨

그 얘기 시즈쿠한테는 했어?

아직 안 했어요. 하지만 그녀가 그녀가 안 받겠다는데 의미 없죠, 뭐 좋아하는 사람이면 부담이 되겠죠(-gess-jyo).

게다가 여태까지의 관계가 깨질까 봐 두렵기도 했을 거(-l geo)고요. 여태까진 뭐든 다 털어놨는데 빛이 있으면 마음의 부담이 생기니까요.

例 52)의「重いのかもしれませんが」のところでは「だろう」を使ったら不自然になると判断した人は 11 人で、「はず」を使ったら不自然になると判断した人は全員であった。また、「怖いかもしれない」のところでは全員が「だろう」や「はず」は不自然であると判断した。韓国語ではそれぞれ「겠지(-gess-ji)」と「ㄹ 거(-l geos)」で翻訳されているが、第三者の感情なのに自分がそう思ったときには「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」よりは確信度がある表現が使えるようである。

4. 4. 3. 1. 2. 3 三人称の過去の意志的な行動

例 53)「元々、心臓の薬飲んでたみたいよ、この人。死亡診断書に、不審な点はないけど。」と桜子。

「やっぱり・・・。」

「失踪事件って難しいわよ。実は、自分の意思でいなくなってたってこともあるし。」

「それは、ないって言ってました、弥生さん。」

「他の女のところに行っちゃったのかも。」

「それこそ絶対にないって。」

이 사람, 원래 심장 약을 먹었었나 봐. 사망 진단서에 수상한 점은 없어. 역시나...

실종사건은 어려워. 실은 자신을 의지로 없어졌다는 경우도 있고.

야요이씨가 그럴 리가 없다고 했어요.

다른 여자에게 가버렸을지도 몰라(-ji(do) molla).

절대 그런 일은 있을 리 없대요.

例53)で話し手は「他の女のところに行っちゃった」と推測しているが、文脈を見ると何かの情報や根拠を持って判断しているのではなく単なる話し手の中でも可能性を表わしていると考えられる。このような文では「かもしれない」しか使えないと思われ、韓国語でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」で翻訳されている。

このように、「かもしれない」文でも聞き手や第三者の内的感情感覚について情報を得るのは難しいようであり、「かもしれない」が使われているが、「多分」などの副詞が共起している場合には「だろう」に置き換えられるようである。「かもしれない」文に対しても韓国語では、「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」以外の「겠지(-gess-ji)」や「ㄹ 것(-l geos)」が使われている場合もあった。

4.4.3.1.3 「はず」文

4.4.3.1.3.1 二・三人称の意志的な行動

例 54) 「お二人はただ、会いたかった。一緒に旅行に出かけたかった。ただ、それだけだったんですよね。なのに、こんな騒ぎになってしまって、出るに出不らなくなってしまったんですよね。でももう大丈夫です。お二人の思いは、私たちが責任を持って届けます。ご両親にもきっと届くはずですよ。この次は、もっともっといろんなところに行けるはずですよ。」

두 사람은 그저 만나고 싶었던 것. 함께 여행가고 싶었던 것. 단지 그것뿐 이었던 거죠? 그런데 이렇게나 일이 커져버려 나오려고 해도 나올 수가 없게 되버린 거죠?

하지만 이제 괜찮아요. 두 분의 마음은 저희들이 책임지고 전하겠습니다. 부모님들께서도 반드시 알아주실 겁니다. 앞으로 더 많은 곳에 갈 수 있을 거(-l geo)예요.

例54)では「だろう」に置き換えたら自然になると判断した人は全員で、「かもしれない」に置き換えたら自然になると判断した人は12人であった。話し手の期待を表わす場合で「だろう」も使えるとは思いますが、「だろう」や「かもしれない」よりは「はず」を使った方が期待感を表わせられる。韓国語でも「ㄹ 것(-l geos)」を使った方が落ち着きがいいようで

ある。

以上のように、話し手は聞き手や第三者の考えや感情について情報を得にくくなり、「はず」を使うには無理があるようで「だろう」や「かもしれない」が使われる。また、単なる話し手の考えを表す場合には「だろう」が使われ、話し手は全く根拠を持っておらず可能性を表すときには「かもしれない」が使われていた。また、情報を得にくいと考えられる場面には「聞き手や第三者に関わる事柄」の場合より「聞き手や第三者の内的感情感覚」の場合の方が多かった。それは、話し手は聞き手や第三者のことをよく知っていてもその人がどう考えていてどう感じているのかまで知るとは一般的には難しいことであるからであろう。韓国語では、「だろう」文に「겠지(-gess-ji)」だけでなく「ㄷ 것(-l geos)」の形式も現れ、「かもしれない」文には「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」だけでなく「겠지(-gess-ji)」や「ㄷ 것(-l geos)」が現れていた。

4.4.3.2 情報を得やすいと考えられる場面

4.4.3.2.1 「はず」文

4.4.3.2.1.1 二・三人称の事態

例55) 雪平「どうということだと思う？最初は警察に届けるなど言い、次は公表せよと言う。」

佐藤「あきらかに誘拐犯だ。お前が右往左往するのを見て喜んでいるんだろ。間違いなくお前に恨みを持っているやつの仕業だ。」

雪平「また私！私のせい！？何でもかんでも、私のせいね！」

佐藤「何言ってるんだよー。」

雪平「あなただって社会部のデスクでしょう！？私以上にうらまれているはずよ。あなたに恨みのある人間かもしれないでしょ！」

무슨 일이 있어도 처음에는 경찰에 알리지 말라더니 이번엔 공표하라니. 분명히 유괴범이라고. 당신이 허둥대는걸 보고 있는 거라고. 틀림없이 당신한테 원한을 갖고 있는 녀석의 짓이야.

또 나야? 내 탓이야? 뭐든 다 내 탓이래.

뭐 라는 거야?

당신도 사회부의 데스크잖아. 나보다 더 원망 받고 있을 거(-l geo)라고. 당신한테 원망 있는 놈의 짓일지도 모르잖아!

例55)では全員が「だろう」や「かもしれない」に置き換えても自然であると判断した。犯人は社会の人に恨みがあると仮定して推測している場面であるが、それが真実であれば「あなたは社会部のデスクだから私以上にうらまれている」という判断に対して話し手はかなりの情報を持っていると考えられる。三つの表現とも使えるようであるが、形式によって確信度が異なって話し手が可能性を表わしたり、自分の意見を相手に主張でもしたりする文になると考えられる。韓国語でも「ㄷ 것(-l geos)」が使われているが、「겠(지)(-gess(ji))」を使っても問題はないようである。

例 56) 「ああ・・恐らく、父親が勝訴できると思います。よっぽどのことがない限り。」

「よっぽど？」と四条。

「もちろん、子供の環境が最優先されますから、調査員が来ていろいろ見るんです。子供の生育状況とか。」

「調べられるんです。雫だけじゃなくて俺も。」と英治。

「そりゃまあ・・な。」と四条。

「花屋を手放して狭いアパートに移るのも。」

「タイミングが悪いな、こんな時に・・」と四条。

「それでも父親の方がまだ有利なはずです。」と優貴。.

「俺はいいんです。俺のことはどうだって。」

아마도 아빠 쪽이 승소할 수 있을 거예요. 어지간한 사유가 없는 한.

어지간한 사유라면?

물론 아이의 환경이 최우선 되니까요 조사원이 찾아와서 이것저것 살필 거예요. 아이의 생육 환경이라든가.

조사할 거예요. 시즈쿠뿐만 아니라 저에 대해서도요.

아무래도 그렇겠지.

꽃집을 넘기고 좁은 아파트로 이사하게 됐으니.

타이밍 한번 안 좋네. 하필 이런 때.

그래도 아빠 쪽이 유리해요(-yo).

전 괜찮아요. 저야 어떻게 되든.

例56)では全員が「だろう」や「かもしれない」に置き換えても自然であると判断した。韓国語では断言をしている。韓国語では自分の中にある情

報や根拠が間違っていないと判断したときに断言して言うことも出来るようである。

4.4.3.2.1.2 三人称の意志的な行動

例 57) 「それはそうとき、白石ってやつ、やけにいいヤツなんだけど。」

「そうなんだよ。明るくて、気さくで、みんなに好かれてた。それが詐欺師だなんて、いまだに信じられないよ。」

「・・・だろうね。それがあいつの手か。まあいい。あいつもシロサギなら、必ずこのネタに乗かって、何か仕掛けてくるはずだ。」

「で、どうするんだ？」

그건 그렇다 치고 시라이시라는 녀석 꽤 괜찮은 사람이던데.

그렇다니깐. 밝고 서글서글해서 모두에게 친절했지. 그 사람이 사기꾼이라니 지금도 믿을 수 없어.

과연 그게 그 녀석의 수범인가. 뭐 상관없어. 그녀석도 시로사기라면 반드시 부족하지 않게 사들여서 반드시 반응을 보일 거(-l geo)야.

그래서? 어쩔건데?

例57)では全員が「だろう」や「かもしれない」に置き換えても自然であると判断した。条件節が共起しているし、「必ず」という副詞が共起しているので「はず」が使われやすいと思われる。韓国語でも「ㄹ 것(-l geo s)」が使われている。

4.4.3.2.1.3 三人称の過去の事態

例 58) 「私はどうしても、娘の気持ちが理解出来ないんだ。」

「亡くなったお嬢さんですよ?」

「愚かな娘ではなかった。男の外見や、甘い口車に乗せられて、判断を踏み誤るようなことなどなかったはずだ。それなのにどうして・・・なぜあんな男に惹かれたのか・・・。いまだにまるで、理解出来ない。あんな卑劣な男の・・・一体何に・・・。」院長と彼女は親子と判明しました。

난 아무래도 딸의 기분을 이해할 수 없어.

돌아가신 따님이시죠?

멍청한 아이가 아니었어. 남자의 걸모습이나 달콤한 말에 넘어가서 잘못된 판단을 할 리가 없다(-liga-eobsda). 그런데 왜... 왜 그런

남자에게 끌린 거냐.. 지금도 전혀 이해가 가지 않아. 그런 비열한 남자의... 대체 어디가...

例58)は話し手が判断したことと現実の世界で起きたこととは違う例文である。このように判断した結果、現実と食い違いある場合の例文では「だろう」や「かもしれない」よりは「はず」を使った方が自然であると考えられる⁸⁾。韓国語では「ㄹ 리가 없다(-l liga eobsda) (はずがない)」という表現で翻訳されている。

4.4.3.2.1.4二人称の考え

例59)「この水槽に入っているのは砂糖水なんです。上のほうの濃度が薄く、下にいくにつれ濃くなるようにしてある。実は光は、濃度の異なるところに進むと屈折していくんです。しかも、濃度差があればあるほど、屈折率は大きい。だから、光は大きく曲がっていく。」「知らなかった。」と薫。「でも、これと同じ原理で起こる自然現象は、よく知ってるはずだ。」「蜃気楼!？」と薫。「その通り!」

이 수조에 들어있는 건 설탕 물입니다. 위의 농도는 옅고 밑으로 갈수록 진해지게 되어있죠. 빛은 실은 농도가 다른 곳으로 진행하면 굴절하게 됩니다. 게다가 농도 차가 크면 클수록 굴절률은 크게 되죠. 그러니까 빛이 크게 휨 겁니다.

몰랐네.

그치만 이것과 같은 원리로 일어나는 자연현상은 잘 알고 있을 겁(-l geo)니다.

신기루...?

정답이다.

例59)では「だろう」に置き換えたら自然であると判断した人は10人で、「かもしれない」に置き換えたら自然になると判断した人は全員であった。「だろう」や「かもしれない」に置き換えても問題はないような文であるが、話し手の確信度は異なるようになる。聞き手の知識に関わることで聞き手が知っているかどうかは分からないが、判断の命題は一般的に普通の人には知っている自然現象のことなので話し手の中ではかなりの情報を持つ

⁸⁾ 金子(2000)参照

ていると考えられる。また、「だろう」を使うと確認要求用法で捉えることも出来ると思われる。韓国語でも「ㄷ 것(-l geos)」が使われているが、「겠지(-gess-ji)」が使われても問題はないようである。

例 60) 「じゃあ・・・この野瀬っていうのが・・・俺の本当の親だって言うんですか？」

「間違いない。私が警察の力を使って調べ上げたんだ。神志名、卒業したら、警察にこないか？君のような人間が生み出されたのは、理性を忘れた人間の欲望のせいだ。現代社会において、理性を統御するのは法律。そして、その法を執行する司令塔が、我々、警察官僚だ。詐欺師に、本来の名前まで奪われた君は、我々の任務の重要さは、誰よりもわかるはずだ。」

그럼 이 노조이라고 하는 사람이 나의 실제 아버지란 말인가요?

틀림없어. 내가 경찰의 힘을 얻어서 조사해 본 거야. 카시나 졸업하고 나면 경찰 되지 않을래? 너 같은 사람이 나오게 되는 것은 이성을 잃어버린 사람의 욕망 탓이지. 현대 사회에 있어서 이성을 통제하는 것은 법률 그리고 그것을 집행하는 사령탑이 우리들 경찰 관료다. 사기꾼에게 본래의 이름까지도 빼앗긴 넌 우리들의 임무의 중요성을 누구보다도 잘 알 거(-l geo)야.

例60)では全員が「だろう」や「かもしれない」に置き換えられると判断したが、「だろう」を使うと強い言い方になるというコメントがあった。話し手は自分が確信した理由はこれであるとでも言っているように「詐欺師に、本来の名前まで奪われた君は」と発言している。理由節に変えて使うこともできるような文であるが、話し手の中では確信するまでの情報を得ていると考えられる。ここで、「だろう」を使うと「なぜそれが分からないのか」と押し付けているような言い方にもなると思われる。「かもしれない」を使うと柔らかくはなるが、話し手はそれほど自信を持っていないように見える。韓国語でも「ㄷ 것(-l geos)」が使われているが、「겠(지)(-gess(ji))」を使っても聞き手を押し付けるような言い方にはならないと思われる。

例61) 「大臣、お孫さんを含めた、弥代学園の生徒5人を人質に、神島紫門の釈放を要求してきました。だご安心下さい。人質の安全を最優先に対処していくつもりです。」

「・・苑麻君。」

「は。」

「建前はいい。本音を言ってくれ。」

「はい。」

「君たちは崖っぷちだ。今回のテロリスト確保は、君らの悲願のはずだ。そして・・その気持ちは私も同じだ。」

「・・・」

「音弥だからといって、特別扱いする必要はないからな。」

「・・・わかりました。」

장관님의 손자를 포함한 미시로 학교의 학생 5 명을 인질로 카미시마 시몬의 석방을 요구하고 있습니다. 하지만 안심하십시오. 인질의 안전을 최우선으로 대응할 방침입니다.

소노마

예.

원칙은 됐고, 본심을 말해봐.

예

범무장관

자네들은 막다른 곳에 몰렸다. 이번 테러리스트 섬멸은 자네들의 숙원이다(-ida). 그리고 그 마음은 나도 같다.

오토야라고 해서 특별 취급할 필요는 없다.

알겠습니다.

例61)では、「だろう」に置き換えたら自然になると判断した人は14人で、「かもしれない」に置き換えたら自然になると判断した人は全員であった。話し手は聞き手と同じ仕事をしている上司であると考えられる場面であり、聞き手のことをよく知っているので「はず」を使っていると考えられる。韓国語では断定をしている。文脈にもよるが、韓国語では話し手が推測して判断したことに対して自分の中ではある程度確信することができるようである。「はず」が使われている文ではほとんどが「ㄷ 것(-l geos)」で翻訳されていたが、このように断言している例文もいくつかあった。

例62) 「このウィルスは空気中を漂い、人から人へ簡単に伝染します。そのあまりにも凄惨な死に方と、伝染力の強さから、旧ソ連ですら、兵器としての開発を断念したほどです。ひとたびこれが人ごみに撒かれた場合、死

者は最初の1週間で、800万人以上！」

「800万・・・」

「あくまでも、予測の範囲です。」

「抗ウイルス剤は？2年前、あなたはその開発に、着手したはずだ。」

「BLOODY-Xは常に変異しています。それに、抗ウイルス剤の開発は難しく、膨大な資金と時間が掛かります。それを知って途中で開発を断念するよう決めたのは、あなた達じゃないですか！！」

이 바이러스는 공기를 통해 사람에게서 사람에게 간단히 전염됩니다. 너무나 처참한 살해방법과 강한 전염력으로 구소련에서조차 병기로서의 개발을 중지했습니다. 만약 이게 또 사람들 사이에 퍼진다면 그 피해는 일주일 만에 800 만 이상!

800 만..!

어디까지나 예상 범위입니다.

이 바이러스의 백신 개발에 2 년 전에 자네도 분명 착수하지 않(-ji anh)았나?

블러디 엑스는 이미 변이해 있습니다. 게다가 백신의 개발은 어렵고 막대한 자금과 시간이 걸립니다. 그걸 알고 중간에 개발을 단념하기로 한 건.. 당신들이잖습니까!

例62)は話し手が聞き手の過去の事態に関することについて判断している文である。全員が「だろう」に置き換えても問題はないと判断したが、「かもしれない」は不自然であると判断した。話し手は推測しているよりはある事実を聞き手に再認識化させているようである。このような場合には「かもしれない」は使えないようで、「だろう」には再認識化させる用法があるようである。また、「だろう」より「はず」を使った方が柔らかい表現になると考えられる。韓国語では「지 않다(-ji anhda)」が使われ聞いている文になっている。「잖(-janh-)」を使うこともできると思われるが、少し強い言い方になる可能性もあるので「지 않다(-ji anhda)」を使って話し手の疑問を表わす疑問文にしていると考えられる。

4. 4. 3. 2. 1. 5 三人称の過去の考え

例 63) 「ヒデさんが契約していた、貸し金庫のキーです。犯人たちが探していた全財産が、そこに保管されていました。これが見つかったのは・・・

ご主人のスーツのポケットです。ヒデさんは、神崎さんに、この大事なキーを、預けていたんです。貸し金庫にあった、ヒデさんの遺言状には・・・神崎さんに全財産を譲ると。」

「え・・・」

「未開封でしたから、神崎さんは知らなかったはずですよ。本当に・・・心が綺麗な方だったんですね、ご主人は。」

히데씨가 계약했던 임대 금고의 열쇠예요. 범인들이 찾고 있었던 전 재산이 거기 보관되어 있었어요. 이걸... 남편 분의 양복 주머니에서 찾았어요. 히데씨는 칸자키씨에게 이 소중한 열쇠를 맡겨뒀던 거예요. 임대 금고에 있었던 히데씨의 유언장에는... 칸자키씨에게 전 재산을 상속하겠다고...

네?

미 개봉이었으니 칸자키씨는 몰랐을 거(-1 geo)예요. 정말로... 마음이 아름다운 분이었네요. 남편 분은.

例63)は第三者の考えていることではあるが、理由節が共起して話し手は自分の判断に確信を持っていると考えられる場面である。このように理由節や条件節が共起している場合には話し手の確信を表わしやすいと考えられる。この例では全員が「だろう」や「かもしれない」に置き換えても問題はないと判断した。韓国語でも「ㄷ 것(-1 geos)」で翻訳されていた。

以上のように、二・三人称で情報を得やすい場合には「はず」だけが使われていたが、「だろう」や「かもしれない」に置き換えられるようである。また、他人に関する出来事の方が他人の内的感情感覚より情報が得やすくなると考えられる。他人の内的感情感覚に対しても「はず」が使われていたが、命題が一般的なことで誰でも知っていると考えられることであったり、確信できるほどの根拠(理由節などを使って事実を根拠にしている場合など)を持っていたり、話し手が聞き手のことや聞き手に関わることをよく知っているか知ることが出来る人物であったりする場合には「はず」が使われるようである。これは、逆に言うと、他人の考えや感情について判断するとき「はず」が使える条件であるとも言えよう。韓国語でも殆どの場合「ㄷ 것(-1 geos)」が使われていたが、断言している場合もあった。情報を得やすくて同じ場面でも日本語では推測表現を使っているのに対して、韓国語では推測表現を使わず事実のように断言しても自然な文に

なるようである。

4.4.3.3ある程度情報が得られると考えられる場合

4.4.3.3.1「だろう」文

4.4.3.3.1.1三人称の意志的な行動

例 64) 瀬崎が退職届を森川に提出する。

部長「何だこれ！？お前は連続殺人犯平井唯人の担当だろ！？こんな風に辞めてもらっちゃ困るんだよ。平井唯人は予告どおり今日も誰かを殺すだろう。そうすれば又ニュースになる。世間がこの事件を忘れないうちに、連続殺人犯平井唯人の名前でデビュー作を出すんだ！」

이게 뭔가. 자네는 연쇄살인범 히라이타다히또 담당자잖아. 이럴 때 그만 두면 곤란하지. 히라이는 오늘도 예고대로 누군 죽이겠지(-gess-ji). 그러면 또 뉴스거리가 될 테고. 세상이 이 사건을 잊어버리기 전에 연쇄살인범인 히라이타다히또의 이름으로 데뷔작을 내는 거야.

例64)で全員が「かもしれない」に置き換えても自然であると判断し、11人が「はず」を使うと不自然になると判断した。犯人は連続殺人犯のようでも前も予告して誰かを殺したと考えられる。ある程度情報を持っているので「だろう」を使っていると思われるが、話し手は犯人に会ったこともないし、一般的に殺人することについてかなりの情報や根拠を持つことは難しいと思われる。そのため「はず」を使うと不自然な文になるとと思われる。韓国語でも「겠지(-gess-ji)」が使われている。

4.4.3.3.1.2三人称の過去の意志的な行動

例 65) 係長「で？ライフルの入手先はどこですか？」

管理官「知らん。」

係長「蓮見の部屋から出てきたんですよ。」

管理官「蓮見はライフルを撃てないし、今まで蓮見の家でそんなものを見たことがない。佐藤和夫が持ってきたんだらう。」

係長「つまり、蓮見と佐藤和夫は共犯ってことですか？」

管理官「ま、その可能性はあるだろう。お前の好きな可能性だ。」

그래서 라이플 입수 처는 어디죠?

라이플 따위 몰라.

하스미의 방에서 나왔어요.

하스미는 라이플 쏠 줄도 모르고 여태까지 하스미 집에서 그런 거 본적도 없어. 사토 카즈오가 가져온 거겠지(-gess-ji).

즉 하스미와 사토 카즈오가 공범이라는 겁니까?

오 그런 가능성도 있는 거겠지. 네 녀석이 좋아하는 '가능성'이다

例 65)では、「はず」に置き換えたらず自然な文になると判断した日本人は12名で、「かもしれない」を使ったら自然になると判断した人は全員であった。「はず」に置き換えることが出来ないわけではないようであるが、ここで「はず」を使うと、話し手は聞き手や他人のことをまるで自分の情報のように言っている印象を与えることになるのではないかと思われる。また、話し手が判断するための命題や根拠が文脈に出ていなくて「はず」に置き換えるには難しいと考えられる。韓国語でも「겠지(-gess-ji)」が使われている。

4.4.3.3.1.3二・三人称の事態

例 66) 「どうして? 親とうまくいってないのか?」

「そうじゃありません。」

「だったら。」

「一人になりたいんです。」

「あの私の部屋に泊めるっていうのはどうですか?」

「は? 何言ってるんだよ。」

「今夜だけ娘さんを預らせて下さいっておうちに電話すればいいんですよ。堀田さんも落ち着いて色々考える時間も必要だろうしね! そうしましょう。」

「それってありなのか?」

부모님과 잘 못 지내는 거니?

그런 건 아니에요.

그러면?

혼자 있고 싶어요.

저기... 제 방에 머무는 건 어때요?

응? 무슨 소릴 하는 거야?

오늘 밤만 따님을 맡겨주세요 라고 집에 전화하면 되잖아요. 훗타도 진정하고 이것 저것 생각할 시간도 필요할 거(-l geo)고 그렇게 해요!

例66)で話し手は堀田さんについてよく知っているかどうかは分からない。文脈から見ると、話し手の中での推測で「はず」を使うまでの根拠はないように見える。この例文で全員が「かもしれない」を使ったら自然になると判断し、「はず」を使ったら不自然になると判断した。話し手は堀田さんのことをある程度知っていて推測していると考えられるが、単なる話し手の中での考え(経験や知識など)に基づいて推測しているとも考えられる。そのため「はず」を使うと不自然な文になると思われる。しかし、韓国語では「ㄷ 것(-l geos)」が使われている。

例 67)第 2 回お笑い鑑賞会。

「必見なんでしょ?このコンビ。」

「はい!」

「この日大丈夫よね?きっと特に予定もないだろうし。」

「予定が無いのはお互い様ですよね!」

제 2 회 오와라이 라이브 감상회.

이 콤비 꼭 봐야 하는 거지?

네

이 날 괜찮지? 분명히 특별한 예정도 없을 거(-l geo)고.

예정이 없는 건 피차일반이죠.

例67)では「かもしれない」に置き換えると不自然になると判断した人は全員で「はず」を使うと不自然になると判断した人は12人であった。「きっと」という副詞が共起しているので「かもしれない」を使うと不自然になると思われる。また、話し手は聞き手の予定をある程度知っているような場面で(「大丈夫よね」と確認をしているので相手のことや予定をある程度は知っている想定できる)「かもしれない」よりは「だろう」を使った方が自然になると考えられる。韓国語でも「ㄷ(지)(-gess(ji))」が使われても問題はないようであるが、ここでは「ㄷ 것(-l geos)」が使われている。韓国語では同じ文脈でも話し手の捉え方が異なるようである。

4. 4. 3. 3. 1. 4二人称の過去の事態

例68)「・・・課長は我々が信用ならないと?」

「当然だ。ゆえに私の言うとおりに動けばいい。それで、抗ウイルス剤に

関する報告が遅れているようだが、まだ見つかっていないのか？」

「・・・すみません。まだ・・・」

「やはり、役立たずだ。」

「・・・」音弥と歩く藤丸。

「話はわかってる。多分お前ははめられたんだろう、お前の親父さんみたいに。俺達がお前を守る。」

과장은 우리들을 믿을 수 없다는 건가?

당연하다! 내 말을 들으면 돼. 그래서.. 항바이러스제에 대한 보고가 늦어지고 있는데 아직 찾지 못한 건가.

죄송합니다 아직..

역시 그 정도구나.

이야기는 알고 있어. 아마 넌 말려든 거겠지(-gess-ji). 네 아버지처럼 우리들이 널 지킨다.

例68)では「かもしれない」に置き換えても自然であると判断した人は13人で、「はず」に置き換えても自然であると判断した人は5人であった。聞き手のことを推測して「だろう」が使われている文であるが、「多分」という副詞が共起していて話し手は「はず」を使うまでの情報や根拠は持っていないようである。韓国語でも「아마(ama)」(「多分や恐らく」の意味)という副詞が来ているので「겠(지)(-gess(ji))」の方が「ㄷ 것(-l geos)」より共起しやすくなると思われる。

4.4.3.3.2 「かもしれない」文

4.4.3.3.2.1 三人称の事態

例 69) 「それで、少しでも、病気の進行を食い止めることが出来るんですか？」瑞生が尋ねると、水野は「個人差があるので、実際に試してみないと何とも言えません。」と答えた。家に帰り入院の準備をする潮香。「あいつ、あんなに夏休み楽しみにしていたのにな。」瑞生が呟く。心配する弟の弘樹と妹の理加に「少し長くなるかもしれないから、いい子で待っていようね。」と潮香が言う。瑞生に促され、二人は寝室へ戻っていく。

그러면 조금이라도 병의 진행 속도를 늦출 수 있습니까?

효과에는 개인차가 있어서요 실제로 시행해 보지 않는 한 확답을 드릴 순 없습니다.

그 녀석 그렇게 여름방학을 학수고대했는데
좀 길어질지도 모르(-ji(do) moleu-)니까 얌전히 기다려야 한다?

上の例文では医者が言っていることを聞いて推測しているが、医者も病気の進行を止められるかどうかは分からないし、どのくらい時間がかかるとも分からない場面である。そのため話し手にも情報や根拠が少ないため「かもしれない」を使っていると考えられる。韓国語でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」が使われているが、「졌(-gess)」や「ㄹ 것(-l geos)」を使っても問題はないように見える。以下の例文も可能性を表わしている場合であると考えられる。

4.4.3.3.2.2 三人称の意志的な行動

例 70) 「さっきいただろ?知ってる?皇帝ペンギンって、子育てする夫婦は、絶対に浮気しないんだって。オスが卵を温めている間、メスはエサを探しに出るんだけど、その間、どんなに腹減っても、吹雪にさらされても、ずーっと卵守って待ってるんだよ。動物の親ってすげーよな。」

「・・・ありがとう。来てくれて。」

「いや、別に。」

「私さ、本当は先輩来ないかもって、どっかで思ってた。来ない方がいいって。」

「何言ってるんだよ。」

아까 저기 있었잖아. 그거 아냐? 펭귄은 말이야 아이가 있는 부부는 절대로 바람을 안 피운대. 수컷이 알을 품고 있을 동안 암컷이 먹이를 찾아서 나가지만 그 동안 아무리 배가 고파도 눈보라가 몰아쳐도 계속 알을 지키면서 기다리고 있는데. 부모란 참 대단하지 않냐?

고마워. 와 줘서.

됐어.

나 말이야. 사실 선배가 안 올지도 모른다(-ji(do) moleu-nda)고 그런 생각했었어. 안 오는 게 낫다고 말이야.

무슨 소리야?

この例で全員が「はず」は使えないと判断し、6人が「だろう」は使えたと判断した。「どっかで思ってた」という文を見ると、話し手が判断し

ているのは自分の中での思っていることであると考えられ、「はず」を使うと不自然な文になると思われる。上の例のように「かもしれない」が使われている文には「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」で翻訳されていることが多かったが、「졌(-gess)」や「ㄹ 것(-l geos)」を使っても問題はないように見える。また、以下のような例文も見られる。

4.4.3.3.2.3二人称の過去の意志的な行動

例71) 「だとしたら、こういう推測が出来る。君の母親の自殺は2年前。教団のテロ未遂があった直後だ。自殺の原因は、自分がかつていた教団の解体や、神島の逮捕に合ったかもしれない。だとすれば・・・教団を追い込み、結果的に君の母親を死に追いやったのは、テロ計画を暴いた高木藤丸や、我々ということになる。つまり親の仇というわけだ。憎しみが向けられてもおかしくない。」

「霧島さん・・・」

「何が言いたいんですか？」

「君は・・・兄である J と一緒に今回のテロ計画を立てたのかもしれない。」

「霧島さん、そんなはずない！！」と藤丸。

「・・・」

그렇다고 한다면 이런 추측도 가능하지. 2년 전 자네 어머니의 자살은 교단의 테러 미수가 있었던 직후다. 자살의 원인은 자신이 예전에 있던 교단의 해체와 카미시마의 체포였을지도 모른다. 그렇다면 결과적으로 교단을 해체시키고 어머니를 죽게 만든 건 테러계획을 밝혀버린 타카기 후지마루와 우리들이 된다. 즉, 어머니의 원수라는 말이다. 증오심을 갖게 되어도 이상하지 않지.

키리시마씨! 무슨 말을 하고 싶은 건가요

넌 형인 J 와 함께 이번 테러계획을 세웠을지도 모르다(-ji(do) moleu-nda).

키리시마씨 그럴 리 없어요!

例71)では「だろう」に置き換えると不自然になると判断した人は12人で、「はず」に置き換えると不自然になると判断した人は全員であった。話し手は前の文脈で「こういう推測が出来る」と言って自分の考えを述べているが、これは話し手の中での仮想である。単なる話し手の考えなので「だろう」が全く使えないわけではないようであるが、「はず」を使うには無

理があるようである。韓国語では「겠지(-gess-ji)」や「ㄹ 것(-l geos)」を使って表現しても問題はないと思われる。

4.4.3.3.2.4 三人称の過去の事態

例 72) 「好きになっちゃった気持ちには、勝てないものね。」

「ああ。それが男と、」

「女ね。」

「泣けるねー。」と、サブで見守るスタッフたち。

「泣けるかぁ!？」と望美。

「泣けるよ。」と蟹原。春香が振り返ると、蟹原と結城が泣いている。

「泣いてんだ。」

「局長もいろいろあったのかもねー。」

「ああ。ちょっと飲みにでも行こうか？」

좋아하게 된 마음에게는 이길 수 없나 봐.

그래, 그것이 남자와

여자인 거야.

흐흐, 울리네.

슬퍼 이게?

슬퍼.

우는 거야?

국장님도 뭔가 여러 가지 있었겠지(-gess-ji).

그렇겠지. 한잔하러 갈까?

例72)では「だろう」に置き換えても自然であると判断した人は9人で「はず」に置き換えたなら不自然になると判断した人は全員であった。韓国語では実際「겠지(-gess-ji)」で翻訳されている。日本語でも「だろう」が使えないことはないと思われるが、例文では「かもしれない」が使われているところを見ると日本語では直接的な表現を避けているように見える。しかし、日本語に比べると韓国語では直接的な表現を避けているとは見えない。

4.4.3.3.2.5 二人称の事態

例 73) 「うん。結婚しましょう！」

「ありがとう。」

「いや別にこれは、前の私が言ったことで今の私が言ったことじゃ。」

「だったら今の君の・・・今の返事を聞かせてほしい。」

「え・・・」

「本当は、もう遅いのかもしれない。」

「遅くは、ないと思うよ。」

「もしかしたら、君はまた僕を憎むようになるかもしれない。」

「別に、もう怒ってるわけじゃないし。」結城が春香を見つめて言う。

「結婚しよう。」

응! 결혼해요.

고마워.

아..아니 이걸 그냥 예전에 내가 한 말이지.

지금의 내가 하는 말은 아니..

그럼 지금의 당신 지금의 대답을 들려줬으면 좋겠어.

에?

사실은 이미 늦었는지도 몰라.

늦지는 않았다고 생각해

어쩌면 당신은 다시 나를 미워하게 될 지도 몰라(-ji(do) molla).

별로 이젠 화난 것도 아니고

결혼하자.

例 73)では全員が「だろう」や「はず」に置き換えると不自然な文になると判断した。「もしかしたら」という副詞が共起しているため「だろう」や「はず」に置き換えられないようである。話し手は昔聞き手が自分を憎んでいたという事実を根拠に推測していると考えられる。一回経験したことがあると言え、「だろう」や「はず」を使ってもいいように見えるが、話し手は自分の情報に確信を持たず「かもしれない」を使っている。韓国語でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」が使われている。

4.4.3.3.3 「はず」文

4.4.3.3.3.1 三人称の考え

例 74) 「娘に、病気のことを話したとき、言われました。どうして私なんだから。まだ、15 才なのにつて。娘はこれまでに、いろんなことを諦めてき

ました。休みの日に友達と映画に行くことも。大好きな部活も。でも、そんな娘が、学校に行くことは、本当に楽しみにしてるんです。友達に会えるって、毎日笑顔で登校していくんです。このまま、この学校に、ずっとはいられないことも、娘はわかっているはずです。ですから、もう少し、ほんの少しだけ、娘に、考える時間を頂きたいんです。」

딸애에게 병에 대해 알려줬을 때 딸이 이렇게 말하더군요. 왜 나일까. 아직 15 살밖에 안 됐는데. 저희 딸은 지금까지 많은 것을 포기해 왔습니다. 쉬는 날 친구들과 영화를 보러 가는 것도 너무 좋아 했던 농구도 포기해야 했죠. 하지만 그런 딸아이가 학교에 오는 것만은 정말 즐거워하고 있어요. 친구와 만날 수 있다면서 매일 웃으면서 학교에 온다구요. 이대로 이 학교에 계속 있을 순 없다는 것도 딸아이는 알고 있을 겁(-1 geo)니다. 그러니, 조금만 정말 조금만 딸애에게 생각할 시간을 주고 싶어요.

例74)では全員が「だろう」や「かもしれない」に置き換えても自然であると判断した。第三者の考えていることではあるが、自分の娘のことなので確信することができると思われ、韓国語でも「ㄹ 것(-1 geos)」が使われている。

4. 4. 3. 3. 3. 2 二人称の過去の考え

例 75) 「まあ、仮にそうだとしましょう。けどどうして私がその目というやつを持っていると思うんですか? 鼠に頼まれたならすぐ鼠に渡すでしょう。」

「恐らく最初は俺たちと同じ様にあなたもさっさと役目を果たして鼠との関係を絶ちたいと思っていたはずです。でも受け取ったものを見て気が変わった。」

「なぜです! ?」

설령 그렇다고 치죠. 그렇지만 어째서 그 눈이라는 걸 가지고 있다고 생각하시는 겁니까? 쥐에게 부탁 받았다면 보통 쥐에게 건네겠죠.

아마 처음엔 저희들과 마찬가지로 빨리 역할을 다해 쥐와의 연관을 지우려고 했겠죠(-gess-iy0). 그렇지만 말은 물건을 보고 생각이 바뀌었다.

왜죠?

例75)では全員が「だろう」や「かもしれない」に置き換えても問題はないと判断した。「恐らく」という副詞が共起しているが、話し手は自分の中でかなりの確信を持って「はず」を使っていると考えられる。聞き手がどう思われるかは関係なく自分がかんりの情報や根拠を持っているまたその情報や根拠は間違いないと思ったときには「はず」が使えるようである。このように「恐らく」などの副詞が共起しているときには韓国語でも「ㄹ지(-gess-ji)」で翻訳されていた。

二・三人称のある程度情報を得られる場合には、日本語の三つの表現が使われていた。「だろう」文は「はず」には置き換えにくい、「かもしれない」には置き換えられるようであり、「かもしれない」文は「だろう」や「はず」に置き換えにくいようであり、「はず」文は「だろう」や「かもしれない」に置き換えても問題はないようである。ある程度情報を得られる場合の例文は文脈に話し手がある程度の情報を得られることが分かるような命題が現れている場合があった。また、副詞や仮定の世界を現す条件節が共起している場合もあったが、副詞によってはある形式しか使えないような場面もあった。例えば、例67)では「だろう」を「かもしれない」に置き換えにくいようであり、例73)では「もしかしたら」という副詞が共起していて「だろう」や「はず」は使いにくいようである。要するに話し手の確信を表わす副詞が共起したり、ある程度の根拠であると考えられる事実や仮定の世界での話し手の考えがあると、ある程度の情報が得られると考えられる。

韓国語は「だろう」文で「ㄹ지(-gess-ji)」だけでなく、「ㄷ 것(-l geos)」も使われ、「かもしれない」文では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」以外に「ㄹ지(-gess-ji)」も現れていた。また、「はず」文では殆ど「ㄷ 것(-l geos)」が使われていたが、「恐らく」などの副詞が共起している場合には「ㄹ지(-gess-ji)」が使われている場合もあった。

以上、日本語の三つの表現を「ある事態についての推測」「一人称についての推測」「二・三人称についての推測」に分け、さらに「情報を得にくい」「情報を得やすい」「ある程度情報を得られる」に分けて考察をしてきた。

事態における情報を得にくい場合には「だろう」と「かもしれない」が使われていたが、「情報を得たばかりの場面」や「初めて出会った場面」

や「単なる話し手の考えを表す場面」などであって「はず」は使いにくいようである。また、全く根拠を持ってないときには「だろう」は使いにくくなり、単なる可能性を表す「かもしれない」だけが使えるようである。韓国語では同じ場面でも「ㄷ 것(-l geos)」や「것 같다(-geos gatda)」が使われる場合があったが、4.2の調査から分かるように、情報を得にくい場合でも話し手が自分の知識や推測したことを根拠にして確信することが出来るようである。

次に情報を得やすい場合には、「だろう」や「はず」が使われていたが、話し手はある事柄についてよく知っている人物の場合であったり、聞き手に説明や自分の意見を主張する場合であった。「かもしれない」に置き換えられるようであるが、説明したり、主張したりする場面では「だろう」や「はず」を使った方が効果的であると考えられる。韓国語でも情報を得やすい場合には「ㄷ 것(-l geos)」がよく使われていたが、断言している場合もあって同じ根拠を持っていても韓国語では直接的な表現が使えるようである。

ある程度情報を得られる場合には、日本語の三つの表現が使われていたが、聞き手を理解させたり、説得したりする場合には「かもしれない」より「だろう」や「はず」を使った方が効果的であると考えられる。また、話し手はある程度の根拠を持っていても自分の発言に責任を取りたくないと考えられる場面では「だろう」ではなく「かもしれない」が使われていた。韓国語では、「だろう」文に「ㄷ 것(-l geos)」が使われる場合があり、「かもしれない」文には「ㄹ(-gess)」や「断言」の形式が使われる場合があった。韓国語では日本語ほど責任回避をする傾向がないようである。

一人称については自分のことではあるが、予想出来ない未来のことについては情報を得にくくなり、「だろう」や「かもしれない」が使われていた。「はず」文は主に期待を表わす場合であった。韓国語でもそれぞれ「ㄹ지(-gess-ji)」「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」「ㄷ 것(-l geos)」が使われていた。

情報を得やすい場面で一人称の「内的感情感覚」についても「かもしれない」が使われている文があった。この場合は殆どが婉曲や表明回避の用法で使われていたが、韓国語では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」だけでなく、「ㄹ지(-gess-ji)」や「ㄷ 것(-l geos)」などが使われる場合もあった。また、話し手の過去の意志的な行動であっても、その行為が仮想的な場合には「かもしれない」が使われ、話し手の内的感情感覚より推測

しやすいためである。また、ある程度情報を得られる場合には「かもしれない」文しか現れていなかったが、仮想の世界での話し手の推測の場合が多かったが、韓国語では「ㄷ 것(-l geos)」が使われる場合もあった。

二・三人称の情報を得にくい場合には、「だろう」や「かもしれない」が使われ、聞き手や他人に関わる出来事より内的感情感覚の方が情報が得にくくなるようである。また、全く根拠がない場合には単なる可能性を表す「かもしれない」が使われていた。韓国語では、「だろう」と「かもしれない」において「겠지(-gess-ji)」と「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」より確信度が高い「ㄷ 것(-l geos)」が使われ、韓国語では聞き手や他人の内的感情感覚についても確信を持って発言することが出来るようである。

情報を得やすい場合には、「はず」文が多く、聞き手や他人に関わる出来事の例文が多かった。内的感情感覚に対して「はず」が使われていたが、誰でも知っていると考えられる命題の場合や確信できるほどの根拠が文脈で分かる場合や話し手が聞き手や他人についてよく知っている人物か知ることが出来る人物かの場合などといった条件があった。韓国語でも殆ど「ㄷ 것(-l geos)」が使われていたが、断言をしている場合も見られた。

ある程度情報を得られる場合には、日本語の三つの表現が使われ、内的感情感覚より聞き手や他人に関わる出来事の例文が多かった。また、ある程度情報を得られることが文脈で分かる例文が多かった。副詞や条件節が使われている場合もあったが、どの副詞が共起しているかによって使えない形式もあった。韓国語では「だろう」と「かもしれない」において「겠지(-gess-ji)」と「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」以外の「ㄷ 것(-l geos)」などの形式が現れていた。

以上をまとめると、日本語の三つの形式は「どのような場面なのか」と「話し手はどれほど情報や根拠を得ることが出来るのか」によって三つの形式を使い分けているようである。また、「聞き手や他人に関わる出来事」の方が「聞き手や他人の内的感情感覚」よりは情報が得られるようで推測しやすくなると考えられる。しかし、韓国語では話し手がどれほど情報や根拠を得ることが出来るのかだけによって判断しているようである。その情報や根拠は自分の知識や客観的な事実でもあるが、話し手が自分の中で推測して得た結果も判断するための情報や根拠に成り得ると考えられる。つまり、同じ場面でも韓国語は日本語より確信を持って言う傾向があると言えよう。それでは、次に語用論的な意味が出てくる場合を見てみることにする。

第5章 語用論的な意味からの考察

次は語用論的な意味が出てくる場合を見てみることにする。「だろう」には疑問や感嘆を表す場合もあるが、本稿では先行研究でも述べられているように推量用法より多く使われていた確認要求用法と同意要求用法を中心にみることにする。

5.1 「だろう」文

例 76) 理恵子「瀬崎さん、ちょっといいですか。これです。話題になっている殺人事件のたびに送られてくるんです。それで、この宛名の T.H. って、ひよっとしたら、唯人じゃないかと思って。」

瀬崎「平井って、前にバイトに来ていたあの平井だろ？」

세자키씨 응? 잠깐 팬찮으세요? 이거예요. 화제가 되고 있는 살인사건 때 마다 와요. 그래서 이 약자 T.H.라는 게 어찌면 히라이 타다히토가 아닐까 하고.

타다히토 히라이 T.H. 히라이라는 게 전에 아르바이트로 왔던 그 히라이지(-ji)?

例 77) 父親に教わりながらマカロニグラタンを作ったまくん。カウンタには奈央が突っ伏している。「ダイエットだか何だか知らないけどそんなんじゃ体壊すよ。これ大好物だろ？」

다이어튼지 뭔지 몰라도 그러서는 몸 다 상해. 이거 제일 좋아하지(-ji)?

例 78) 亜湖の表情が輝く。

が、渡されたのは、チューリップとAKO、とアップリケの付いたシャツ。「可愛いだろう。お父さんさ、昔縫製工場で仕事してたこともあるんだ。」

귀엽지(-ji)? 아빤 옛날에 봉제공장에서 일한 적 있었어.

上の例では日本人 15 人皆が「かもしれない」と「はず」は使えないと判断した。ここで「だろう」は推量ではなく、確認(同意)要求用法で使われているため「だろう」を「かもしれない」や「はず」に置き換えたら不自然な文になると思われる。このように「だろう」はある事態について情報を持っているが、それが確かではないときに聞き手に確認することを表わすことがある。また、聞き手のこと(感情や感覚など)をある程度知ってい

ながら確認したり、同意を求めたりする文にもなる。これらの文は押し量る機能から確認要求や同意要求という語用論的な意味が出てくる場合である。韓国語でも「確認叙述文」や「確認疑問文」を作る「終結語尾」である「지(-ji)」が使われている。このような確認や同意を求めている場合の日本語の文韓国語の「지(-ji)」で翻訳されているのが多かった。次は確認要求用法に見えるが、聞き手に確認をするより確実な事実をもう一回言っている場面を見てみる。

例 79) 「俺はもう恋愛なんて忘れました。ここの店のことと、零育てるのに精一杯で。」

「寂しいこと言うなよ。」

「寂しくなんかないです。普通に、幸せっていうか。」

「うるせーよ。バカヤローお前。忘れたなら思い出せばいいじゃないかよ。お前まだ 30 だろ。それじゃ 45 にもなって若い先生に岡惚れしてる、俺がなんかお前、色ボケみたいじゃねーかよ。」

난 이제 연애 따윈 잊어버렸어요. 여기 가게일과 시즈쿠 키우는 것만으로도 벅차서.

서글픈 말 하지마.

슬프지 않아요. 보통으로 행복하다 말까.

시끄럽다 임마. 잊었으면 생각해내면 되잖아. 너 아직 30 이야(-iya). 그럼 45 살이 되어서 젊은 선생한테 반해버리는 내가 웬지 색마 같잖아.

例 80) 「あんなひねくれたウソツキババアこっちから願い下げだねとぼやく。鼠は鹿と狐に嫌われているらしい。そうだ。300 年前に富士山で大噴火があっただろ。あれは鼠の仕業なんだ。」

그런 거짓말쟁이 녀석은 오히려 거절하고 싶을 정도로 아무래도. 쥐는 사슴이랑 여우한테 미움 받고 있는 거 같애. 맞다. 300 년 전에 후지산에서 대분화가 있었잖(-janh-)아. 그건 쥐가 한 짓이래.

例 81) 「目の前に、赤い、薔薇の花が・・・」

「うん。」

「綺麗な、赤い薔薇が・・・だけど・・・棘が生えてるだろ。」

「うん。」バラのない花屋

눈앞에 빨간 장미꽃이

응.

예쁜, 빨간 장미가. 그렇지만 가시가 돌아있잖(-janh-)아.

上の三つの例で「かもしれない」は使えないと全員が判断した。また、「はず」を使うと不自然な文になると判断した日本人は、例 79)では 13 人で、例 80)では 14 人で、例 81)では 15 人であった。

また、上の例文は話し手と聞き手は同等の情報を持っていると考えられるが、その情報をわざわざ話し手が聞き手に再確認しているように見える。つまり、ある事態や聞き手のことではあるが、聞き手に確認をする必要はなくお互いに確実に知っている事実を言っている場合である。これは対話をするときに話し手は対話を始めやすくするために自分の知識と聞き手の知識を同等にしていることになる。このような文も「はず」に置き換えると不自然な文になると思われる。例 83)で「はず」が使われると、棘が生えているところを一緒に見ている場面ではなく、話し手だけが棘が生えていると確信をして聞き手に言う場面になる。上の三つの例では韓国語の「잖(-janh-)」で翻訳されたり断言をしている。話し手は聞き手と同等の情報を持っていると考えられるが、話し手は対話を始めやすくするために発言していると思われる。このような場合に韓国語では殆ど「잖(-janh-)」で翻訳されていた。しかし、対話を始めやすくするためではないような場面もある。次の例を見られたい。

例 82) 「遺体を発見したのは母親です。ご夫婦で旅行に戻ってきて、プールに沈んでいる娘さんを 発見したそうです。」 「溺死だな、これは。」

プールサイドに引き上げられた遺体を見つめる弓削。「家にプールがなければこんなことにはならなかったかも。うちは貧乏でよかった。」 「貧乏人は、風呂で溺れんだよ!」 「・・・ 本当に、溺死でしょうか。自分ちのプールですよ!」 「お前、物事を表面しか見ねーなー。泳いでる最中に足攀っちゃったとか、溺れる理由なんかいくらでもあるだろ。」

「はあ・・・」 「これ事件性ねーな。引き上げるぞ、内海。」 「はい。」

유체를 발견한 건 어머니예요. 부부가 여행에서 돌아와서 풀에 빠져있는 따님을 발견했다 나봐요.

익사로군.

집에 풀이 없으면 이런 일이 안 생겼을지도...우리 집은 가난해서 다행이네.

가난한 사람들은 육조에 빠지지!
 진짜 익사일까요? 자기네 집 풀이잖아요.
 년 사건을 표면밖에 못 보는구나. 헤엄치다가 다리에 쥐가 났다거나 빠
 질 이유라면 얼마든지 있잖(-janh-)아.
 네...
 이건 사건 성 없네. 철수하자, 우즈미.
 네

例82)で韓国語では「잖(-janh-)」で翻訳されているが、「잖(-janh-)」
 にも対話を始めやすいためだけではなく、聞き手を再認識化させているが、
 聞き手に対して失礼な強い言い方になる場合があるようである。この場合
 話し手は自分が持っている情報を聞き手も持っている(そう信じているか
 その情報を持っているのは当然であると思っているか)思っているときによ
 く使われる。用例文でも強い言い方になる再認識化の例文で話し手はある
 情報を聞き手も持っていると思って「だろう」を使って発言しているが、
 聞き手はある情報を持っていないかそう思っていない例文があった。また、
 ある情報を持っていても話し手が判断しているのとは違った意見や考えを
 持っているような例文が殆どであった。

例 83) 管理官「スタンドプレーもいい加減にしろ。逮捕にもルールってもん
 があるだろう。」捜査一課管理官・山路哲夫に絞られる雪平が言い返す。
 雪平「ルール?、悪いやつを捕まえる外に、どんなルールがあるんですか?」
 체포를 할 때도 규칙이라는 게 있는 거(-n geo)야
 규칙이라..
 나쁜 놈을 잡아들인다..라는 규칙 외에 또 뭐가 있죠?

例 83)で全員が「かもしれない」は使えないと判断し、「はず」を使うと
 自然な文になると判断した。例 83)では「どんなルールがあるんですか?」
 という聞き手の反応を見ると、聞き手は話し手と同じ情報を持っていると
 は言えない。しかし、話し手は聞き手もそう思っている(自分と同じ情報を
 持っている)と判断して「逮捕にもルールってもんがあるだろう」と発言し
 ている。韓国語では形式名詞「것(-geos)」を含んだ本質的な意味は叙述と
 捉えられる形式である「ㄴ 것(-n geos)」が使われている。もちろん
 「잖(-janh-)」が使われても問題はないようであるが、「ㄴ 것(-n geos)」

の方が柔らかい言い方になると思われる。次の例では叙述することも出来る形式である「지(-ji)」が使われている。

例 84) 「本当ですか!？」

「マジなんだよ。ほんでもって買い手ついたらしい。」

「どうして・・・」

「どうしてってお前、理由はいろいろあるんだろう。息子が二人いるって言うからよ、事業失敗したとか借金したとかまあ、そんなんじゃねーのか？」

정말요?

진짜야. 게다가 살 사람도 나타난 모양이야.

어째서?

어째서긴...이유야 많지(-ji). 자식이 둘 있다고 하던데 사업을 실패했다든가 빚을 졌다든가 뭐, 그런 거 아니겠어?

上の例では全員が「かもしれない」は使えないと判断し、「はず」を使うと自然な文になると判断した。聞き手が「どうして」と話し手に聞いていることはある情報を持っていないことになる。例 84)では話し手が推測しているのではなく、聞き手に自分の意見が正しいではないかと言っていると考えられる。同意を求めているように見えるが、話し手は同意を求めず聞き手に当然のこと(話し手は自分の中で当然のことであると信じている)を言いながら再認識させている場面である。しかし、このような場面で使われる「だろ」は推測という機能が弱くなり、聞き手に対して説教でもしているような強い言い方になると思われる。韓国語では「지(-ji)」が使われているが、「잖(-janh-)」が使われても問題はないようである(ただ「잖(-janh-)」が使われると聞き手に対して強い言い方になると思われる)。

また、例 83)と 84)は、場合によっては同意要求用法に見えるかもしれないが、文脈を見ると、話し手は聞き手に同意は求めているようである。

例 83)と 84)では、話し手は聞き手が自分と同一の情報を持っているかは分からない。しかし、話し手は聞き手もそう思っている、またはその情報を持っていると想定して発話しているように見える。つまり、話し手は聞き手の情報については確認していないが、聞き手もそうであろうと勝手に

思って発言していることになる。そのため、聞き手に対して一方的に強く言っている文になると思われる。

また、例 83)と 84)で「だろう」を使うよりは「はず」を使った方が聞き手に対する一方的な言い方が少しやわらかくなるようであるとコメントした日本人が 10 人いた。

上の例の「だろう」は、「はず」に置き換えることが出来ると思われるが、「だろう」を使うよりは「はず」を使った方が相手を押し付けるといいう言い方が少し中和されるのではないかと思われる。それは、「はず」を使うと、話し手がかなりの確信を持って推測するような文になり得るからであると思われる。韓国語でも例 83)と例 84)では「잖(-janh-)」の代わりに「ㄴ 것(-n geos)」や「지(-ji)」が使われていると考えられるが、再認識化させる形式を使うところを聞き手に叙述や説明する形式にしているとも考えられる。再認識化させて「なぜそう思わないのか」や「なぜ分からないのか」などという意味が出るよりは「あなたはまだ分からないから教えてあげよう」という説明の意味が出る場合が柔らかい言い方になると思われる。次の「だろう」文も聞き手を再認識化させているが、聞き手を非難したり、押し付ける言い方になる場面である。

例 85) 「何見てるんだよ！ 国の厄介にはならないって言っただらう。」

「厄介になるんじゃないわ。」

「そういうことじゃないか。」

뭘 보고 있어? 나라한테 비굴하게 굴 필요 없다고 했잖아!

비굴한 게 아니야.

그런 거잖아!

例 86) 「俺が狐と会って話すことは出来ないのか？」

「それは無理だな。」

「どうして！」

「だから言ってるだらう。我は自分から選んだ人間としか口を利かないんだよ。」

내가 여우를 만나서 대화할 순 없는 거야?

그건 무리야

왜?

계속 말했잖(-janh-)아. 우리는 스스로 선택한 사람하고만 말을 한다니까.

例 87) 「気付かないだけで詐欺師なんてどこにでもいるってことだ。あんたの金、俺が騙し取り返してやるよ。」

「そんなの信じない！」ゆかりは一人、立ち去っていく。氷柱が黒崎を睨みつける。

「何だよ。教えてやったんだろ。」

「今度はゆかりを犯罪者にするつもり!？」

눈치채지 못하지만 사기꾼이란 어디라도 있는 거야. 니 돈은 내가 속여서 받아내 줄게.

그런 거 안 믿어.

뭐야. 알려준 거잖(-janh-)아.

이번엔 유카리를 범죄자로 만들 생각이야?

上の三つの例で全員が「かもしれない」は使えないと判断し、「はず」は使えると判断した。再認識化の例文ではあるが、対話を始めやすくするためよりはただ相手を非難したり、強く押し付けたりする言い方になると思われる。このような文の「だろう」も「はず」に置き換えることが出来ると思われる。もちろん「はず」に置き換えても話し手の聞き手に対する再認識化と捉えることが出来ると考えられるが、聞き手がもしかして忘れているのではないかと思っけて思い出させるようなニュアンスにもなり得ると思われる。この場合も韓国語では殆ど「잖(-janh-)」や「ㄷㄹ ㄱㅈ(-l geo s)」や「텐데(-tende)」で翻訳されていた。「はずだ」が使われている文にもこのような例文があった。

例 88) 「私は初めに言ったはずだ。心だけじゃない。あの男から何もかも奪うんだとね。」安西が美桜に言う。

처음부터 말했을 거(-l geo)야. 마음 뿐만이 아니라 모든 걸 빼앗을 거라고.

例 88) では全員が「はず」の代わりに「だろう」を使っても自然な文になると判断した。「言った」ことを聞き手に再び認識させているようである。

このような例文の「はず」を「だろう」に置き換えると、話し手は聞き手もその情報を持っていることを分かっていることを再認識化させることになり、更に聞き手を押し付けるような文になると思われる。次は可能性を表わす「かもしれない」文で語用論的な意味が出てくる場合を見てみることにする。

5.2 「かもしれない」文

例 89) 高級レストラン

「美味しい！」と聰子。

「すみませんメニューの試食なんかさせて。」と高文。

「ねえこれちょっとスパイス過ぎない？」と奈央。

「奈央にはそうかもしれないけど、今の客には受けるんだよ。」

「ふん。」

「あ俺そろそろ別の現場行くから。」

「うんわかった。」

맛있어요.

죄송해요 메뉴 시식 하시게 해서.

저기 이거 조금 맵지 않아?

나오한테는 그럴지 몰라(-ji(do) molla)도 지금의 손님들한테는 먹히는 거야.

아!

나 슬슬 다른 현장에 가볼 테니깐.

응 알았어.

例 90) ワインを美味しそうに飲み干す奈央。

「大丈夫？」と貞夫。

「うん！」

「新庄さんは？」

「出張！」

「嘘だ。うちに帰りたくないんだろ？」

「うん！でも私の帰るところはあの家しかないからね！」

「どうしてそんな我慢するんだよ。新庄さんライフスタイルプロデューサと
かってちやほやされてお金持ちかもしれないけど、奈央一人幸せにしてや
れないなんて最低だよ。」

「マくんはなんにもわかってないね！」

팬참아?

응!

신조상은?

출장!

거짓말하긴.. 집에 가기 싫어서 그러는 거지?

응! 그래도 내가 돌아갈 곳은 그 집밖에 없으니까 말야!.

어째서 그렇게까지 참는 거야? 신조상. 라이프스타일 프로듀서 인지
뭔지 주변에서 떠받들어주는데다 부자인지는 모르(-moleu-)겠지만 나오
하나 행복하게 못해주다니.. 최저야.

例89)と例90)では全員が「だろう」は使えると判断し、「はず」を使う
と不自然になると判断した。聞き手が「スパイシすぎる」や「お金持ち」
ということは話し手も確実に知っていることであるが、可能性を表わす
「かもしれない」を使っている。学習者から考えると断言してもいいよう
なところに推測表現を使っていると思われるが、このような推測表現を使
って間接的な表現にすることで婉曲を表わすことが出来るようである。ま
た、「だろう」に置き換えても問題はないが、「かもしれない」を使った
方が聞き手に対して柔らかい感じになるというコメントがあった。韓国語
でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」で翻訳されていたが、次のような
例文では「겠지(-gess-ji)」(例91))や本稿での認識モダリティ形式が使わ
れていないこともある(例92))。

例 91) 家政婦「今日の新聞は？再調査と謝罪の方はどうなってるの？」

犯人「・・・」

家政婦「どうして何も言わないの？あなた、裏切るつもり？」立ち去ろう
とする犯人にナイフを突きつける紀世子。

「ネットニュースを出しなさい！出して！早くっ！！」

「町田南署、疑惑への関与を前面否定」

「どうということ？どうということよ、これ。騙したの！？あんたは金目当て

かもしれないけど、私は違うのよ！警察が謝罪し、再調査して、広田を死刑にするまでは、絶対にやめないわ！！パソコンと、携帯をそこに置きなさい。」犯人が言われたとおりにする。」

오늘 신문은? 재조사와 사죄는 어떻게 되가는 거야?

어째서 아무 말도 안하는 거야? 당신 배신할 속셈이야?

인터넷 뉴스를 보여줘. 보여줘! 빨리!

마치다 미나미서 무마시킨 사건에의 관여를 전면부정.

어떻게 된 거야? 어떻게 된 거야? 이거? 날 속인 거야? 당신은 돈가져서 괜찮겠지(-gess-ji)만 난 다르다고! 경찰이 사죄하고 재조사를 해서 히로타를 사형으로 하기 전까지는 절대로 못 그만둬! 컴퓨터와 휴대폰 저기에 내놔.

例 92) 「鹿が言ってたんだ。狐がそこにいるって。事情を話せばもしかしたら協力してくれるかもしれない。」

「そんな必要ないですよ。」

「え?」

「狐の使い番も動物園に来ます。目を渡してからだいぶ経つのに地震はいっこうに治まってないし

神無月の終りが近づいて使いも不安になっているはずでしょう?だから必ず狐に会いにやってきます。」

「それはそうだけど、今日来るとは限らないだろう?」

「そうかもしれないけど、でももし今日動物園に小川先生の知っている女性が現れたとしたらそれが狐の使い番です。」

여우가 그곳에 있다고 사슴이 그러더라고 사정을 말하면 도와줄지도 모르잖아.

그릴 필요 없어요.

뭐?

여우의 사자도 동물원에 올 거예요. 눈을 전달했는데도 지진이 계속되고 있잖아요. 10 월이 끝나가는데 사자도 불안할거 아니예요? 그러니까 분명 여우를 만나러 올 거예요.

그건 그렇지만 오늘 올지는 모르잖아.

그렇긴 해(n hae-)도 만약 오늘 동물원에서 오가와 선생님이 아는 여자가 나타난다면 그 사람이 바로 여우의 사자예요.

「～けど」による従属節では可能性よりは婉曲を表わす場合が多かった。韓国語でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」が使われていたが、「ㄹ(ress)」で現れている例文も多かった。誤用調査でも分かったように婉曲を表わす場合に韓国人学習者は「かもしれない」より「だろう」を使っている傾向があった。

また、推量用法からの考察で触れたが、話し手が自分のことを「かもしれない」を用いて判断している場合がある。自分のことなので断定してもいいと思われるが、実際の例文ではこのような例文があった。

例 93) 「私だってねやる時はやるのよ。離婚したら恋愛だってするつもりなんだから！」

「恋愛!？」と聰子。

「6年後っていったらさ46だよ！」とマ君。

「そうよ。恋愛に供えてまずは毎日腹筋100回やることから始めるつもり！」

「腹筋でいいの？」とマ君。

「腹筋はタダでしょ！」

「本気なの!？」と聰子。

「こんなこと冗談で言うほど暇じゃないわよ！」

「こんな瑞恵先輩はじめて見た!ちょっと羨ましいかも。」と奈央。

「え？」とマ君。

「ううん何でもない。」

나도 할 때는 해. 이혼하면 연애도 할 생각이니깐~

연애?

6년이 지나면 46이야.

그래. 연애를 대비해서 우선 매일 복근운동 100회부터 할 생각이야.

복근운동으로 되는 거야?

복근운동은 공짜로 할 수 있잖아.

진심이야?

이런걸 농담으로 말할 정도로 한가하지 않아!

이런 미즈에 선배 처음 봤어. 좀 부러울지도(-ji(do)-).

응?

아니 아무것도 아니야

一般的に考えると自分の感情なので断言してもいいと思われるが、表明を避けて発言している。先行研究では表明を回避することで聞き手に配慮を表わしたり、聞き手との共感領域を広げたりするという説明があったが、上の例ではそのようなことは感じられないと思われる。以下の例文は表明回避とも解釈できると思われるが、は責任を回避しているようにも見える例文である。

例 94) 「こちらの派遣会社は主婦の登録が多いと聞いて伺いました。」

「何か技術を持っていたり得意なことはありますか？」とスタッフ。

「いえ とくにありません。事務職以外に出来ることがないと思うのでパソコンの勉強中です。」

「仕事をしながら得意なことを見つけていくという方も多いので決め付けない方がいいかもしれないですね。」

「でも まずは事務職でお願いします。」

이 파견회사는 주부의 등록이 많다고 들어서 오게 되었어요.

무슨 기술을 가지시거나 특기가 있으신가요?

아니요 특별히 없습니다. 사무직 이외에는 할 수 있는 게 없을 것 같아서 컴퓨터 공부 중입니다.

일 하면서 특기를 찾아가는 분들도 많으시기 때문에 정해 놓지 않는 편이 좋겠(-gess)네요.

그렇지만.. 우선은 사무직으로 부탁 드리겠습니다.

例 95) 氷柱が落ち込んだ様子でアパートへ戻っていくと、クラクションが鳴る。ひろみだ。ひろみは氷柱に、鶏そぼろのお弁当を作ってきた。その味に感激する氷柱。

「氷柱ちゃんが、他の誰かと食べてたら、もっと美味しいかもしれないわよ。」ひろみが笑う。

츠라라가 다른 사람과 함께 먹는다면 더 맛있는 느낌이 들 거(-l geo)야.

例 94) と 95) で韓国語では「겠(-gess)」や「ㄹ 거(-l geos)」の表現が使われているところを見ると、日本語より責任回避をする傾向はないように見え、韓国人は直接的な表現をよく使う傾向があると考えられる。もち

ろん可能性を表わすこととも捉えられるが、上のような例文からどういうときに可能性を表わすのかや可能性を表わすことで他の意味が出てくるのかななどの説明ができると思われる。つまり、可能性を表すためではなく、話し手が表明回避や責任回避を表したい場合には「かもしれない」を用いて表現することである。

先行研究では表明回避と説明されて自分のことを言う場合に「かもしれない」が使われている例文を出している。本稿で取り出した用例文には自分のことを言う場合だけでなく、ある事態や聞き手のことを判断するとき話し手が表明を回避しているように言っている場面があった。これらの例文は表明を回避するとも解釈できるが、自分の判断に責任を取りたくないため「かもしれない」を使っているとも解釈できると考えられる。

以上の例文は自分のことではなくある事態を推測して判断している場合である。「かもしれない」を使うことで可能性を表わす同時に話し手はそうしなくてもいいが、ただ自分の判断はこうであるということも表していると考えられる。つまり、話し手はある程度の情報や根拠を持っていてもその判断は確実に真であると言う自信はないため「最終的な判断はあなたに任せますよ」というようなニュアンスになると思われる。次は「はず」が使われている文で語用論的な意味が出てくる場合を見てみる。「だろう」の再認識化用法を述べた際に少し触れたが、「はず」にも推論や疑問ではなく聞き手を再認識化させる場合がある。

5.3 「はず」文

例 96) 「ですからその件につきましてはお断りしたはずです。」と聰子。

「もう 1 度考え直してもらえないかな。神林さんが一番こだわっているのが緒方先生が院長になるってことだから。」

그러니까 그 건은 이미 거절한다고 말씀 드렸잖(-janh-)아요.

한번 더 다시 생각해 봐줄 순 없을까? 칸마야시씨가 제일 집착하는 부분이 오가타 선생이 원장을 맡는다는 점이니까.

例 97) 「あ。すみません。俺が悪かった。本当にすまないと思ってる。だから顔を元に戻してくれ。頼む！」

「何のことだ？」

「この顔だよ！昨日の夜呪いをかけたんだろう？」

「呪いじゃない。ただの印だ。」

「どっちだっていい！頼むから元に戻してくれ。いやお願いします。戻して下さい！」

「どうしてそんなことを頼む。お前の中で私はただの妄想だったはずだ。」

「信じるよ。お前は現実存在している。そう認める！」

죄송합니다. 내가 잘못했어. 정말 미안하게 생각해. 그러니까 얼굴 되돌려 줘. 제발 부탁이야.

무슨 소리냐?

내 얼굴 말이야. 어젯밤에 저주를 내렸잖아.

저주가 아니다. 표식이라고 했잖아.

어찌됐건! 빨리 제대로 해 놔! 아니, 해 주세요. 얼굴 돌려주세요.

왜 그런 부탁을 하는 거지? 넌 모든 게 망상이라고 했잖(-janh-)아.

믿을게. 이건 현실이야. 인정할게.

例96)と例97)では全員「だろう」が使えると判断し、「かもしれない」は不自然になると判断した。「お断りしたこと」や「聞き手に対して自分は妄想だった」ということは推測しなくてもいいような事実であると考えられる。これらの文で「はず」は話し手の疑問を表わすよりは聞き手を再認識化させるためにもう一度話題にして発言しているようである。このような文で「はず」を「だろう」に置き換えることも出来るようであるが、そうすると聞き手に対して強い言い方になると思われる。「はず」にも再認識化させる用法があるようでこの場合に韓国語では「잖(-janh-)」で翻訳されていることが多かった。いくつかの例文は例98)のように「텐데(-tende)」で翻訳されていた。先行研究からの説明から見ると「텐데(-tende)」は話し手の疑問を表わす形式であると説明しているが、疑問だけではなく聞き手を再認識化させる場合にも使える形式であると言える。

例 98) 「ミスターXの正体は、セイキョウ大学なんです。学生寮を建てららしいですよ。買い手がわかれば、考えていただけるんですよ。ただ、先日もお話したとおり、買い手の都合で、6億の決済にもう少し時間がかかるんですよ。なので、先に2億をいただけると、大変有難いんですが。」

「その前に、合わせて頂けるんですよ？」

「はい？」

「ミスターX。つまりセイキョウ大学の方に直接確認させて下さいと、申し上げたはずです。」

「ああ。大丈夫ですよ。セイキョウ大学の理事に、お願いしましたから。」
Mr.X 의 정체는 세이쿄 대학입니다. 학생 기숙사를 짓는 것 같더군요. 매수 상대를 아시게 되면 생각해 보실 수 있는 거죠? 단지 전에도 말씀드렸듯이 매수처의 사정으로 6억 엔을 결제하는데 조금 더 시간이 걸릴 것 같습니다만. 그래서 먼저 2억 엔을 받을 수 있으면 정말 감사하겠습니다요.

그전에 만나게 해 주시겠지요?

네?

Mr.X. 이른바 세이쿄 대학의 분과 직접 확인 시켜 달라고 말씀드렸을 텐데(-tende)요.

팬찮습니다. 세이쿄 대학의 이사님께 부탁 드렸습니다.

以上、「だろう」「かもしれない」「はず」について語用論的な意味が出てくる場合を見てきたが、まとめると以下のようなになる。

「だろう」には推し量る機能から確認要求や同意要求という語用論的な意味が出てくる場合であり、「かもしれない」や「はず」に置き換えられないようである。韓国語でも「確認叙述文」や「確認疑問文」を作る「終結語尾」である「지(-ji)」が使われていた。

また、話し手は聞き手に確認をする意図はなく、聞き手も知っている事実を言う場合があるが、話し手が対話を始めやすくするために「だろう」を使っているようである。このような場面では「かもしれない」や「はず」に置き換えると不自然な文になるようである。韓国語では殆ど「잖(-janh-)」で翻訳されていたが、断言している例文もあった。

また、話し手は自分が持っている情報を聞き手も持っていると感じているかその情報を持っているのは当然であると思っているときに「だろう」が使われ、対話を始めやすくするためではなく、聞き手に対して失礼な強い言い方になる場合もある。この場合に聞き手はある情報を持っていないか話し手とは異なる意見を持っている場合が多かった。このような例文では「はず」に置き換えられるようであり、「だろう」を使うより「はず」を使った方が聞き手に対する強い言い方が少し柔らかくなるようである。韓国語では「잖(-janh-)」がよく使われていたが、叙述の意味であると考え

られる「ㄴ 것(-n geos)」や「지(-ji)」が使われている場合もあった。

また、「だろう」を使って話し手は聞き手も知っている事実のことを再度言う場面があるが、対話を始めやすくするためではなく、聞き手を非難したり、押し付けたりする言い方になる場合がある。この場合の「だろう」は「はず」に置き換えられるようであり、「はず」を使うと、聞き手を再認識化させる用法でも捉えられるが、聞き手がもしかして忘れていないかと思っただけ思い出させるようなニュアンスにもなり得ると思われる。韓国語では殆ど「쟤(-janh-)」が使われていたが、「ㄴ 것(-n geos)」や「텐데(-tende)」が使われている場合もあってこれらの形式を使った方が聞き手を押し付ける言い方が少し柔らかくなると考えられる。

「かもしれない」については、「～けど」による従属節では婉曲を表す場合が多く、「だろう」に置き換えられるようであるが、「かもしれない」を使った方が柔らかい言い方になるようである。韓国語でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」が使われていたが、「ㄴ 것(-n geos)」が使われている文も少なくなかった。

また、自分の感情を表す場合に「かもしれない」が使われている場合があったが、この場合は自分の表明を回避していると考えられる。韓国語でも「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」が使われていた。また、表明回避とも捉えられるが、責任を回避している場面もあって「だろう」に置き換えられるようである。この場合は「かもしれない」を使うことで可能性を表わすと同時に、話し手はただ自分の判断はこうであり、その判断が正しいとは言えないため、最終的な判断は聞き手に任せるとすることも表していると考えられる。韓国語では、「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」も使われていたが、「ㄴ 것(-n geos)」や「텐데(-tende)」が使われている場合もあって韓国語では日本語ほど責任回避をする傾向がないと考えられる。

「はず」については、「だろう」が持っている聞き手を再認識化させる用法を「はず」も持っているようであり、このような「はず」文では聞き手も知っていることを言う場合が多かった。この場合の「はず」を「だろう」に置き換えると聞き手を押し付けるような言い方になるようである。韓国語では殆ど「쟤(-janh-)」が使われていたが、話し手の疑問を表す「텐데(-tende)」が使われている場合もあった。「쟤(-janh-)」より「텐데(-tende)」を使った方が聞き手を押し付ける言い方が柔らかくなると思われ、「텐데(-tende)」には疑問を表す場合だけでなく、聞き手を再認識化させる場合もあると言える。

第6章 教材作りの基礎としての提案

以上考察してきたことに基づいて教材を作る際に基礎となる説明を提案することにする。学習者に日本語の三つの表現を教える際に以下のようなことを考慮して教えると学習者は深く理解できると考えられる。

6.1 推量用法の場合

日本語の三つの表現が推量用法で使われる場合には、従来のテキストの文法説明でも見たように確信度だけの説明や文脈を考慮していない例文では三つの表現の違いが理解しにくいところがあった。従って、ある事態について判断するとき「話し手は判断するための情報や根拠をどこから得ていてどの程度得ることが出来るのか」や「どのような状況なのか」や「話し手はどういうことを伝えたいのか」などを含めて提示する必要があると考えられる。そこで、教材を作る際に以下のようなことを考慮する必要があると思われる。

6.1.1 ある事態について推測する場合

話し手は全く情報や根拠が得られない場合で話し手の想像の中で可能性を表わす場合に「かもしれない」が使われる。この場合は「だろう」や「はず」を使えない。

二人が癌について話している。

A：最近、癌で死ぬ人が多いね。

B：そうだね。こんなに医学が発展しているのにね。

A：でも数年後には癌をすぐ治せる薬が出来るかもしれないよ。

「だろう」を使ってもいいような場面であるが、話し手が自分の判断を控えめに表したいときに「かもしれない」が使われる。

編集長が記者に言う。

記者：あの特別企画書読んでもらえましたか。

編集長：仕事も結婚もというテーマよね。

記者：はい。

編集長：もう一つ何かないかな。結婚して仕事もしているあなたならではの企画があるはずなのよね。

記者：はい。考えてみます。

編集長：それが見つかれば、新しい雑誌のコンセプトに繋がるかもしれない。

話し手は初めて出会った場面で情報を得にくい、自分の中での考えを述べるときに「だろう」が使える。このときは「かもしれない」に置き換えるのが出来るが、「はず」は使えない。

二人が道を歩いている。

A：あっちに犬がいるよ。

B：首輪がないね。

A：捨てられたんだろう。

話し手はある程度の情報や根拠を持っていて聞き手に自分の意見や考えを主張したり、理解させたりする場合である。この場合「かもしれない」も使えるが、「だろう」を使った方が自然な文になる。

A：株価が上がってどうするんですか？

B：人は上がっている株だと、もっと上がるのではないかと思い、買いたくなります。上昇した株価を見て、仲間以外の第三者が買いたいと思うと、こちらのようになります。

A：どうしてですか？

C：同じ考えで買う人が増えて株価が上がるだろう。そうしたら、仕掛けた犯人が高値で売って利益を得るんだよ。

A：そこで乗せられて買った人達はどうなるの？

C：株価がピークを通り越せば物凄い勢いで元の値に近づくから、大損だろう。

「だろう」や「かもしれない」に置き換えることもできるが、「はず」を使って話し手の確信を表わしたいときには「はず」を使った方が自然な文になる。

A：私は本当に田中さんの顔を見たんです。

科学者：この窓を良く見て下さい。結露が発生している。あなたが田中さんを目撃したという事件当日の気温は8度。今日よりも更に気温が低かった。暖房で温められたこの部屋の窓には、結露が発生していたはずです。庭にいる田中さんの顔や表情までわかるわけがないんです。

次に人について推測する際にも「人称によって」や「話し手はどの人物なのか」や「人に関わる出来事なのか」や「人の内的感情感覚なのか」などによって話し手は判断するための情報や根拠をどの程度得ることが出来るのかが異なると思われる。従来のテキストではこのようなことを考慮せずに、(例えば、誤用例5)の「かなりひどい台風だから、彼はこないはず」という文も文脈を設定すれば自然な文になることも可能であると考えられる)例文などを出しているためなぜある形式が不自然なのかが分かりにくいと思われる。従って、教材を作る際に以下のようなことも含めて説明する必要があると考えられる。

6.1.2 一人称の場合

一人称については推量表現が使えないように見えるが、予想できない未来のことについては「だろう」や「かもしれない」が使える。

治らない病気にかかっている人が食事を詰まらせて呼吸困難に陥る。

家族：大丈夫？

病人：もう大丈夫。食べ物詰まらせてただだよ。

病人(独り言)：私はこんな些細なことで死ぬのだろう。

話し手の期待や自信を表わす場合で一人称であるが、「はず」を用いることが出来る場面。

A：今までは回りに迷惑ばかりかけてきて、いろいろ失敗してきた。でも、私はまだ若いし、勉強して行けば私なりの未来があるはず。

断言してもいいような場面であるが、「かもしれない」を使って表明回避をする場合。

AがBに告白する場面

A：あの。言いたいことがあるんだけど。

B：うん。何？

A：実は、あなたのことが好きかも。

6.1.3 二人称の場合

二人称に関わる内的感情感覚については情報を得にくくなる。このような場合は「かもしれない」がよく使われるが、「だろう」が使われると相手のことなのに自分が勝手に決め付けているような文になったり、相手に確認をする文になる。

A：なぜ、そこまで調べる必要があるんですか。

B：君には理解できないだろう。

この例では「かもしれない」を使った方が聞き手に対して柔らかい表現になる。

A：私はこの庭が大好きなんだ。

B：静かでいいところだね。

A：ここ落ち着くだろう。

二人称の内的感情感覚を「はず」を使って推測するのは難しいようで、相手の意思的な行動について推測すると、話し手の期待を表わす文になる。

A：もう病院には行かなくても大丈夫ですよ。

B：うん。完全に直った。

A：昔より前向きになりましたね。今からは何でもできるはずです。

話し手が二人称のことについてある程度情報を得られて「かもしれない」や「だろう」が使えるには副詞や条件節などが共起したり、判断するための命題が文脈で分かるようになっている方が落ち着きがいい。

A：明日、私の仕事を少し手伝ってくれない。

B：明日ですか。

A：学校も休みだし、多分時間あるだろう。

A：昨日の誕生日パーティー行った？

B：うん。楽しかったよ。

A：ダイエットしてるよね。昨日食べなかった？

B：食べなかったよ。

A：でも、誕生日パーティーでケーキもあるし、あなたなら食べていたかもしれない。

二人称のことで情報を得やすい場合は「はず」が使われるが、この場合は話し手が二人称のことをよく知っていなければならないかよく知ることができる人物でなければならない。また、文脈で話し手が確信できるほどの命題が出ている場合が落ち着きがいい。

A：あなたは科学者であり、このような実験はこの前も学生の前でも説明してた。だから、この実験には詳しいはずだ。

A：もう落ち着いてください。犯人はまた捕まえばいいです。

B：あなたも警察で犯人を逃がしたことがあるから、俺の気持ちをよく知っているはずだ。

6.1.4 三人称の場合

三人称のことについて推測する場合は第三者の内的感情感覚に関わることは情報を得にくくなり、「かもしれない」や「だろう」しか使えない。

A：留学って海外で暮らすから楽しいんじゃない。

B：彼は電話で楽しそうに話していたけど、ずっと一人暮らしだと、寂しいかもしれない。

A：彼は結婚したいと言っていたけど、こんなに早くしかもあの人と結婚するとは思っていなかった。

B：まあ、結婚する相手は誰でも良かったんだらう。

三人称のことを推測するとき「はず」が自然に使えるには第三者に関わることについてよく知っていなければならないかよく知ることができる人物でなければならぬことが文脈で分かるような場面が必要である。

「必ず」や「絶対」などの副詞が共起していたり、理由節が共起している場合が落ち着きがいい。

A：彼は裁判で勝って息子を取り戻せますかね。

弁護士：収入は少ないけど、彼にはちゃんとした仕事があるから、まだ彼の方が有利なはずです。

A：天気悪くて台風みたいだけど、彼は来るかな。

B：彼は台風が嫌いだと言っていたし、台風のときはいつも休んでいたから、絶対今日も来ないはずです。

6.2 語用論的な意味が出てくる場合

日本語の三つの形式は推量用法だけの説明が中心になっているが、語用論的な意味が出てくる場合も多く使われているようである。語用論的な意味が出てくる場合は推量と全く別の用法ではなく推量から広がっている用法であると言えるが、教材にこのような三つの形式から語用論的な意味が出てくる場合も含めて説明した方が自然な日本語が学習出来ると考えられる。

6.2.1 「だろう」の再認識化

対話を始めやすくするために聞き手も知っている事実を「だろう」を使って言う場合。

A：この前韓国で北朝鮮と紛争があっただろう。

B：うん。あのときは怖かったね。

同意を求めているように見えるが、再認識化の用法で聞き手に対して説教でもしているような場合。聞き手は話し手が持っている情報を持っていないか話し手とは異なる意見を持っているときが多い。

A：仕事後の飲み会は行かなくてもいいじゃないですか。

B：部長も行くし、仕事終わっても社会的なルールがあるだろう。

A：何のルールですか。

確認をしているように見えるが、再認識化の用法で対話を始めやすくするためではなく、聞き手を押し付けるような強い言い方になる場合。

A：やっぱり今日は休む。

B：この前行くって約束しただろう。

A：ごめん。今日は休ませて。

6.2.2 「かもしれない」の婉曲と表明回避や責任回避

確実な事実のことであるが、「かもしれない」を使うことで聞き手のことを配慮して婉曲を表わす場合。

A：あの人性格もいいし、ちゃんとした仕事もあっていい人だから付き合ってもいいじゃない。

B：あなたにはいい人かもしれませんが、私はあの人には興味ないです。

自分のことではあるが、直接的な表現を避けたいときに「かも」という形で使われる。

A：最近何もしていないらしいね。寂しくない？

B：寂しいかもね。

自分の判断が正しいとは思っているが、聞き手にとってはどうなのか分からないため自分の判断に責任を取りたくないときに「かもしれない」が使われる。

A：このコーヒーおいしいね。

B：そこに牛乳を少し入れて飲めばもっとおいしくなるかもしれないよ。

6.2.3 「はず」の再認識化

ある事実を聞き手に再度言って認識化させる場合で「だろう」に置き換えられるが、そうすると聞き手に対して強い言い方になる。

A：帰りが遅くなってすみません。

B：早く帰宅しなさいと言ったはずだ。

第7章 結論と今後の課題

以上「だろう」「かもしれない」「はず」を推量用法の場合と語用論的な意味が出る場合に分けて三つの形式の共通点と相違点を考察した。また、韓国語ではどう翻訳されて対応しているのかを見て日本語の三つの形式との共通点と相違点を分析した。これらのことをまとめると次のようになる。

7.1 推量用法で使われている場合の日本語の三つの形式の共通点

日本語の「だろう」「かもしれない」「はず」は話し手の推し量という気持ちを表わす形式であり、推測するための根拠を必要とする形式である。その根拠は話し手が持っている経験などによる知識や見たり聞いたりして得た情報などがある。また、かなりの情報があって話し手の確信を表わす場面では三つの形式が全部自然に使われる。

7.2 推量用法で使われている場合の日本語の三つの形式の相違点

「はず」を使うには話し手が持っている情報量や根拠量が多くなければならないが、「だろう」と「かもしれない」は情報が得にくい場合(「始めて出会った場面」、「話し手の情報は話し手にとって得たばかりの場合」、「単なる話し手の考え(話し手の中で持っている知識など)を述べる場合」)でも使える。また、判断するのに全く情報や根拠はなく話し手の想像の中で推測する場合は「かもしれない」が使われる。つまり、この場合はある根拠に基づいて推し量るのではなく、単なる可能性を表わすことになる。

「はず」を使うには話し手がかなりの情報や根拠を持っていないか情報や根拠を得やすい人物(つまり、ある事柄や人についてよく知っていると考えられる人物)でなければならぬ条件があるようである。この場合に「だろう」や「かもしれない」に置き換えるのは出来るようであるが、そうすると、確信度が低くなり、話し手の発言する意図と異なるようになる可能性がある。実際に「はず」が使われなければならないような場面(話し手の確信を表わせなければならない場面)で、「だろう」は使えないわけではないが、「かもしれない」を使うと不自然な文になる場合がある。

また、話し手がある程度の情報や根拠を持っている場合には「だろう」と「かもしれない」が使えるようであるが、話し手が自分の判断を控えめに言いたいとき、つまり直接的な表現を避けたいときには「かもしれない」

が使われる。しかし、話し手がある程度の情報や根拠を持っており、それに基づいて聞き手に主張したり、理解させたりする必要がある場面では「かもしれない」より「だろう」が使われる。

次に一人称については自分のことなので「出来事」や「内的感情感覚」などの情報や根拠が得やすいと考えられる。しかし、未来の予想できないことについては一人称でも「だろう」や「かもしれない」が使われ、「はず」でも未来の予想できないことに使われていたが、この場合は話し手の期待や自信を表わすことが多いようである。また、自分のことなので「内的感情感覚」については情報が得やすくなると思われ、断言してもいいように見えるが、実際には「内的感情感覚」でも「かもしれない」が使われていた。この場合は殆どが婉曲の場合か表明回避の場合であった。

但し、「話し手の過去の意思的な行動」については、その行為が仮想的でない限り使えないという条件があった。その理由は自らの過去の行為は仮想的でない限り既に確定されたもので、その実現の可能性自体に言及することができないからであろう。話し手は自らの思考や感情について推量・推論することができず「だろう」や「はず」が使えないが、それは自らの思考や感情が直接的経験から得た情報だからであろう。一人称についての推測は自分のことなので推測文になりにくいと思われるが、実際には上述したように使われている場合があった。

そして、自分のことについて推測する場合を見てきたが、自分の内的感情感覚よりは自分に関わる事柄の方で推測しやすくなっていた。事柄のことでも仮定の世界での判断の方が推測しやすくなっており、内的感情感覚のことでは現在ではなく過去の場合が推測するのに落ち着きがいいと考えられる。

因みに、一人称の内的感情感覚と過去の意思的な行動についてはどちらも情報が得やすいと考えられるが、内的感情感覚は話し手が現在感じたことを判断しているのに対して、過去の意志的な行動は仮想的な行為であるため、未来のことについて判断していると見ることが出来る。従って、「かもしれない」において「内的感情感覚」と「過去の意思的な行動」については、両方情報を得やすいと思われるが、「過去の意志的な行動」は仮想の世界での話し手の判断(未来についての判断と同じ扱いが出来る)なので「内的感情感覚」よりは推測しやすくなると考えられる。

また、二・三人称について情報を得にくい場合は、他人に関わる「出来事」より他人の「内的感情感覚」に関わることの方で話し手は情報を得にくくなり「だろう」や「かもしれない」が使われていた。また、起こっていないことについて推測するよりは起こったことについて推測する方が推測しやすくなると思われる。起こったことにはある事実があり、その事実は話し手にとっての情報や根拠として得ることが出来ると考えられるからであろう。他人の考えや感情に関わることを推測するのは難しいようで「はず」を使うと不自然な文になるようであるが、他人のことでも話し手の期待を表わす場合にだけ「はず」が使えるようである。

また、他人に関する出来事の方が他人の内的感情感覚より情報が得やすくなると考えられる。他人の内的感情感覚に関わることに対しても「はず」が使われていたが、命題が一般的なことで誰でも知っていると考えられることであったり、確信できるほどの根拠(理由節などを使って事実を根拠にしている場合など)を持っていたり、話し手が聞き手のことや聞き手に関わることをよく知っているか知ることが出来る人物であったりする場合には「はず」が使われるようである。これは、逆に言うと、「はず」が使える条件であるとも言えよう。

二・三人称のことを推測する場合である程度情報を得られると考えられる場合については日本語の三つの形式で現れたが、副詞や仮定の世界を現す条件節が共起している場合が多かった。副詞によってはある形式しか使えないような場面もあったが、要するに話し手の確信を表わす副詞が共起したり、ある程度の根拠であると考えられる事実や仮定の世界での話し手の考えがあるとある程度の情報が得られると考えられる。

7.3 日本語の三つの形式と韓国語の「ㄹ(-gess)」「ㄹ지(-gess-ji)」「ㄹ것(-l geos)」「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」の相違点

このように日本語の三つの表現はある根拠を持って推測する形式という共通点を持ちながら、話し手が判断するための情報や根拠を得やすいか得にくいかにによってどの形式を使えば自然な文になるのが決まるようである。韓国語でも話し手が持っている情報量や根拠量によって「ㄹ(-gess)」「ㄹ지(-gess-ji)」「ㄹ것(-l geos)」「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」を使っているようである。

「だろう」は「ㄹ(지)(-gess(ji))」に対応していると想定したが、「ㄹ것(-l geos)」が使われる場合もあった。また、「かもしれない」は「지

도 모르다(-ji(do) moleuda)」に対応していると想定したが、「ㄷ(지)(-g ess(ji))」や「ㄷ(지)(-l geos)」や他の推測形式が使われている場合もあった。「はず」は「ㄷ(지)(-l geos)」に対応していると想定したが、断言の表現で使われている場合もあった。こういうことから見ると、推量用法で使われている韓国語の3つの形式は日本語とは少し異なる原理で使われているようである。

日本語では情報を得にくいと考えられる場面で「はず」が使えないのに対して、韓国語では「ㄷ(지)(-l geos)」が使えるようである。韓国語では情報が得にくい場面であっても話し手は自分の知識や推測した結果のことなどの情報を持っていて、その情報を判断するための命題や根拠として認識すると、「ㄷ(지)(-l geos)」が使えるようである。そのときの情報は話し手が持っている知識や経験による情報はもちろん、話し手の中で少しの情報があつてそれに基づいた推測による情報も話し手にとっては確信するまでの情報で捉えることができるようである。これは日本語は間接的な表現を使う傾向があつて韓国語では直接的な表現を使う傾向があることを示唆していると言える。

また、「かもしれない」文でも責任を回避するために「かもしれない」が使われている文に韓国語では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」より確信度が高い形式が使われている。韓国語では責任を回避していないように捉えられる。場合によっては、「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」より確信度が高い形式を使うことで聞き手のことであるにも関わらずまるで自分のことを言っているように見える恐れがある。

7.4 語用論的な意味が出てくる場合の日本語の三つの形式の相違点

「だろう」には聞き手に確認や同意を要求している場合があり、韓国語でもこのような場合は「지(-ji)」という形式が使われている。また、聞き手に確認をしているように見えるが、対話を始めやすくするために聞き手も知っている事実を言って聞き手の認識を呼び起こしている場合がある。再認識化の用法で使われる場合であるが、対話を始めやすくするためではなく、聞き手に対して強い言い方になったり、聞き手を説教でもしているような失礼な言い方になる場合もある。このような文は「だろう」の代わりに「はず」を使うと、話し手の確信を表わす推測文として捉えられ、強い言い方が少し中和されるようである。このような確認・同意要求用法や再認識化の用法は「かもしれない」にはないようである。

「かもしれない」には可能性を表わすことから婉曲を表わしたら、話し手が自分のことを表明回避をする語用論的な意味が出てくるようである。また、表明回避を表しながら、「だろう」を使ってもいいようなところ(話し手が「だろう」を使うまでの情報や根拠を持っていると考えられる場合)に「かもしれない」を使って責任回避を表わしている場合もあった。今まで可能性を表わす形式であるという文法説明だけで学習者はいつ可能性を表わしたらいいのかが分からず他の形式との使い分けが出来ていないようであるが、このようなことを踏まえて説明すると学習者は「かもしれない」についてさらに理解できると思われる。

また、「はず」には「だろう」と同じように再認識化の用法があったが、これは対話を始めやすくするためではなく、聞き手も知っている事実をもう一回発言することで聞き手を再認識化させる用法である。このような文には「はず」の代わりに「だろう」が使えるようであるが、そうすると、聞き手に対して押し付けるような強い言い方になると考えられる。

7.5 語用論的な意味が出てくる場合の日本語の三つの形式と韓国語との相違点

語用論的な意味が出てくる場合ので「だろう」の確認・同意要求用法は韓国語では「지(-ji)」という形式がよく使われていた。しかし、聞き手を再認識化させる用法の「だろう」文は韓国語では殆ど「잖(-janh-)」が使われていた。「잖(-janh-)」という形式を日本語に変えると「～じゃない」で表現できると思われる。日本語では「だろう」という一つの形式であるが、韓国語では「지(-ji)」と「잖(-janh-)」(疑問ではない「～じゃない」)の二つの形式で現れる。

「잖(-janh-)」は対話を始めやすくするための再認識化でも現れていたが、聞き手を押し付けるような強い言い方や説教でもしているような失礼な言い方の場合でもこの「잖(-janh-)」が使われていた。学習者はこのようなところを注意する必要があると言えよう。また、再認識化させる「だろう」で強い言い方になるときは「はず」を使うと少し柔らかくなるようであるが、韓国語でも「잖(-janh-)」ではなく、説明する断言の形式である「ㄴ 것(-n geos)」や話し手の疑問を表わす「텐데(-tende)」に置き換えた方が柔らかい文になると考えられる。

「かもしれない」の語用論的な意味が出てくる場合は婉曲や表明回避や責任回避などの場合があった。韓国語では婉曲の場合は「지도 모르다(-ji

(do) moleuda)」だけでなく「ㄹ(-gess)」が使われたり、断言が使われていた。また、韓国語でも自分の気持ちを直接的に表わしたくない表明回避の場合は「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」が使われていた。しかし、聞き手と関わることや聞き手に自分の意見を言う場合に日本語では責任回避で「かもしれない」がよく使われていたが、韓国語では「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」だけでなく「ㄹ(지)(-gess(ji))」や「ㄷ 것(-l geos)」や他の推測表現(「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」よりは確信度が高いと考えられる形式)が使われていた。

「はず」にも「だろう」のように聞き手を再認識化させる場合があったが、韓国語では「쟈(-janh-)」がよく使われていた。上述したように「쟈(-janh-)」ではなく、「텐데(-tende)」を使った方が聞き手を押し付ける強い言い方が少し柔らかくなると考えられる。「はず」の対照先行研究で「텐데(-tende)」は話し手の疑問を表わす形式であると述べているが、疑問を表わしながら聞き手を再認識化させる意味も持っていると言えよう。

7.6 今後の課題

本稿では、認識モダリティ表現の中で「だろう」「かもしれない」「はず」が推量用法で使用されている場合と語用論的な意味が出てくる場合に分けて三つの形式の共通点と相違点を考察し、韓国語の「ㄹ(-gess)」「ㄹ지(gessji)」「ㄷ 것(l-geos)」「지도 모르다(-ji(do) moleuda)」「쟈(-janh-)」との対照考察を行った。その際「どのような場面なのか」や「どれほど情報や根拠を得られるのか」を中心に考察を行ったが、まだ残された課題も多い。

本稿では各形式のみ使用されている場合を考察したが、共起する形式によって確信度や話し手の発言意図などが変わってくると思われ、共起する形式(終助詞や「～の」や「肯定形・否定形」など)を含めて分析する必要がある。また、認識モダリティの表現は時制との関わりもあると考えられるが、そのようなことについては深く考察することが出来なかった。

また、ドラマのシナリオを材料にしたが、今後は実際に日本語母語話者の会話を材料にしてもっと自然な日本語から考察を行う必要があると思わ

れる。また、韓国語も翻訳だけでなく、同じ場面で韓国人母語話者や学習者はどの形式で表現しているのかとその理由も含めて調査し、分析を行う必要がある。

そして、本稿では教材作りの基礎となるところを提示することに留まったが、学習者の習得状況や実際教師がどのように指導しているのかなどを調査し、指導する際に各形式の提示順序や学習者を練習させるためのモデル文などの教材案を提示する必要があると思われる。

以上のように、解決していく課題も多いが、これらを明らかにすることを目指して、今後も妥当性のある考察と分析を行っていきたい。

【参考文献】

- 安達太郎(1997)「「だろう」の伝達的な側面」『日本語教育』95号. pp. 85-96
- 市川保子(1997)『日本語誤用例文小辞典』凡人社
- 市川保子(2005)『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク
- 大島弥生(1993)「中国語・韓国語話者における日本語のモダリティ習得に関する研究」『日本語教育』81号. pp. 93-103
- 大鹿薫久(1992)「「かもしれない」と「にちがいない」—叙法的な意味の一端—」『ことばとことのは』9号. pp. 127-134
- 大鹿薫久(1993)「「だろう」を述語にもつ文についての覚書き」『日本文芸研究』45-3. pp. 20-34
- 奥田靖雄(1984)「おしはかり(一)」『日本語学』3-12. pp. 54-69
- 金子比呂子(2000)「「ハズダ」の意味と用法—意見文における使い方」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』26号. pp. 119-134
- 神尾昭雄(1990)『情報のなわ張り理論』大修館書店
- 木下りか(1997)「カモシレナイ・ニチガイナイ—真偽判断のモダリティの体系における「可能性」—」『ことばの科学』10号. pp. 41-56
- 木下りか(1997)「ハズダの意味分析—他の真偽判断のモダリティ形式と比較して—」『日本語教育』92号. pp. 165-176
- 金水 敏(1992)「談話管理理論からみた「だろう」」『神戸大学文学部紀要』19. pp. 41-59
- 黄鈺涵(2006)「「かもしれない」の婉曲表現としての機能分類について」『日本語教育研究』51号. pp. 59-67
- 白川博之監修. 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘(2002)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク. pp. 252-271
- 須賀一好(1995)「「かもしれない」の意味と蓋然性」『山形大学紀要人文科学』第13巻第2号. pp. 79-88
- 杉村泰(1998)「真偽判断を表わすモダリティ副詞「モシカスルト」, 「ヒョットスルト」の研究」『日本語教育』98号. pp. 25-36
- 杉村泰(1997)「副詞「キット」と「カナラズ」のモダリティ段層—タブン／タイテイとの並行性—」『世界の日本語教育』7号. pp. 233-249
- 田部井圭子(1990)「談話における「だろう」構文」『亜細亜大学教養部紀要』41号. pp. 103-118

- 田村直子(1999)「ナケレバナラナイの用法と命題要素とのかかわり—ザルヲエナイ, ベキダ, ハズダと置換性を手がかり—」『日本語教育』101号. pp. 21-30
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 張恵芳(2010)「自然会話に見られる「ダロウ」と「デハナイカ」の表現機能の違い—用法上互換性を持つ「認識喚起」の場合—」『日本語教育』145号. pp. 49-59
- 中畠孝幸(1993)「確かさの度合い—カモシレナイ・ニチガイナイ—」『三重大学日本語学文学』4号. pp. 13-20
- 中村 亘(2003)「「はず」における推論—〈予定〉〈記憶〉〈確認〉をめぐって—」『日本語教育』117号. pp. 13-22.
- 仁田義雄(2009)『日本語のモダリティとその周辺』ひつじ書房
- 野田尚史(1984)「～にちがいない／～かもしれない／～はずだ」『日本語学』3-10. pp. 111-119
- 平田真美(2001)「「カモシレナイ」の意味—モダリティと語用論の接点を探る—」『日本語教育』108号. pp. 60-68
- 藤城浩子(1997)「「判断モダリティ」についての一考察」『日本語教育』92号. pp. 153-163
- 太田陽子(2004)「文型指導における「文脈欠如」の問題点—日本語教科書におけるハズダの導入・練習を例に—」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』17号. pp. 53-69
- 太田陽子(2005)「文脈から見たハズダの機能」『日本語教育』126号. pp. 114-123
- 太田陽子(2009)「意見文におけるハズダの機能と文章展開のパターン」『日本語教育』140号. pp. 70-80
- 益岡隆志(1991)『モダリティの文法』くろしお出版
- 松田礼子(1994)「「はずだ」に関する一考察—推理による観念の世界とその外に実存する現実の世界をめぐって—」『武蔵大学人文学会雑誌』26-1号. pp. 53-89
- 松木正恵(1995)「時制と視点—「～はずだ」を中心に—」『早稲田大学教育学部学術研究(国語・国文学編)』43号. pp. 11-21
- 三宅知宏(1993)「派生的意味について」『日本語教育』79号. pp. 64-75
- 三宅知宏(1995)「「推量」について」『国語学』183集. pp. 76-86
- 三宅知宏(1996)「日本語の確認要求的表現の諸相」『日本語教育』89号. pp. 111-122
- 劉向東(1996)「「わけだ」文に関する一考察」『日本語教育』88号. pp. 48-60
- 고창운(1991)「' -겠- '과 ' -ㄹ 것 이- '의 용법」『겨레어문학』15

号. pp. 595-614

金東郁(1999) 「真偽判断モダリティの日韓対照研究—推量形式の対応関係を中心に—」 『筑波大学大学院博士学位論文』

金美善(1990) 「形態素’-겠-’의 意味考察」 『전남대학교교육대학원 석사학위논문』

김미희(2010) 「부정 의문문의 확인 용법에 대한 연구」 『한양대학교대학원 석사학위논문』

김수경(2006) 「가능성을 나타내는 「かもしれない」와 ‘ㄴ/ㄹ 지도 모른다’에 관한 대조 연구」 『건국대학교 석사학위논문』

金良宣(2002) 「현대일본어의 인식적 모델리티 형식과 의무적 모델리티 형식에 관한 연구—まい、かもしれない、はずだ、にちがいない와 베키다、なければならぬ를 중심으로—」 『日語日文学研究』 49号. pp. 187-213

金良宣(2004) 「現代日本語における「かもしれない」の意味分析」 『日本学報』 58号. pp. 39-54

金良宣(2004) 「現代日本語における「はずだ」の意味」 『日語日文学研究』 Vol. 48. pp. 81-99

김용경(1989) 「현대 국어의 미정법 연구-미정 형태소’-겠’, ’-리-’, ’-을’을 중심으로-」 『건국대학교대학원 석사학위논문』

김태엽(1990) 「의존명사 {것}의 문법화와 문법변화」 『우리말글』 8号. pp. 177-198

權珍美(2001) 「だろウ의 의미와 용법에 관한—考察—한국어와의 대응관계를 중심으로—」 『한양대학교대학원 석사학위논문』

羅聖榮(1999) 「日韓推測様相의 対照」 『日本学誌』 19号. pp. 35-58

박선자(1992) 「한국어 서법 연구」 『人文論義』 41号. pp. 55-91

朴勝彬(1935) 『조선어학』 경성:조선어학연구회

朴英熙(2008) 「「ダロウ」に関する—考察—文体の違いを中心に—」 『韓国外国語大学校 教育大学院 碩士学位論文』

박현주(2011) 「「겠」과 반어법의 화용적 상관관계에 대한 연구」 『영남대학교대학원 석사학위논문』

서민욱(1999) 「개화기국어 ‘-겠-’의 연구」 『카톨릭대학교대학원 석사학위논문』

徐正洙(1996) 『국어문법』 한양대학교출판원

성미선(2009) 「한국어 추측 표현의 완곡어법 양상과 교육방안」 『한양대학교대학원 석사학위논문』

- 손세모돌(1999) 「' -잖- '의 의미, 전제, 함축」 『국어학』 33号. pp. 213-240
- 신선경(1993) 「' 것이다' 구문에 관하여」 『국어학』 23号. pp. 119-158
- 申昌淳(1972) 「現代韓國語の用言補助語幹' 겠' の意義と用法」 『朝鮮學報』 65
- 嚴女(2010) 『한국어 양태 표현 교육 연구』 한국문화사
- 이기종(1996) 「집작 추측 구문 연구」 『한남대학교대학원 박사학위논문』
- 이미혜(2005) 「한국어 문법 교육 연구:추측 표현을 중심으로」 『이화여자대학교대학원 박사학위논문』
- 이병기(1997) 「미래 시제 형태의 통시적 연구 : '-리-', '-르 것이-', '-겠-'을 중심으로」 『서울대학교대학원 석사학위논문』
- 이선영(2006) 「한국어 교육을 위한 [추측] 표현 연구」 『서울여자대학교대학원 석사학위논문』
- 李水善(2008) 「「~かも(しれない)」의 의미 기능 고찰」 『한양대학교 석사학위논문』
- 이순룡(2011) 「한국어 추측 양태 표현에 대한 교육 방안 연구」 『충남대학교대학원 석사학위논문』
- 유경란(2008) 「한국인 일본어 학습자의 형식명사 용법의 오용연구」 『충남대학교 교육대학원 석사학위논문』
- 張京姬(1985) 『현대 국어의 양태 범주 연구』 탐출판사
- 張京姬(1997) 「국어 대화에서의 서법과 양태」 『국어교육』 93号. pp. 255-275
- 정경재(2007) 「{-겠-}의 발달에 따른{-것-}의 역사적 변화」 『고려대학교대학원 석사학위논문』
- 정인아(2010) 「한국어의 증거성 범주에 관한 연구」 『상명대학교대학원 박사학위논문』
- 鄭夏俊(1999) 「한국어와 일본어의 인칭제한에 대하여」 『호남대학교 학술논문집』 20号. pp. 167-187
- 조은영(2000) 「對者敬語의 韓日 대조연구」 『동아대학교대학원 박사학위논문』
- 周時經(1910) 『국어문법』 박문서관
- 한명주(2006) 「현대국어 형식명사 구성의 양태성 연구」 『서강대학교대학원 석사학위논문』
- 韓增德(2004) 「日·韓兩語の形式名詞の対照研究—「はず」「わけ」の意味·用法と解釋を中心に = 日·韓兩語의 形式名詞의 対照研究—「は

ず」「わけ」의 意味·用法과 解釈을 中心으로」『조선대학교대학원 석사학위논문』

황성희(2007)「형태소 '-잖-'의 의미기능 연구」『이화여자대학교대학원 석사학위논문』

<教科書>

市川保子(2005)『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワークワーク

『新日本語の中級文法解説書韓国語版』スリーエーネットワーク. 2003

『実力日本語下単語・文法解説書』アルク. 2001

『みんなの日本語初級Ⅱ 翻訳・文法解説韓国語版』スリーエーネットワーク. 1999

『にほんご90日①韓国語解説版』東洋文庫. 2000

『にほんご90日③韓国語解説版』東洋文庫. 2000

『日本語の初級Ⅰ 文法説明韓国語版』東海大学留学生教育センター東海大学出版社. 2000

『日本語の初級Ⅱ 文法説明韓国語版』東海大学留学生教育センター東海大学出版社. 2000

<引用したドラマの台本>

「1 リットルの涙」「ガリレオ」「アラウンド 40」「アンフェア」「薔薇のない花屋」「ブラッディマンディ」「鹿男」「トップキャスタ」「クロサギ」「結婚できない男」「僕の歩く道」「のだめカンタービレ」「東京湾景」「ドラゴン桜」「ラストフレンド」「ルキーズ」「眠れる森」「ブラザフィット」「セラー服と機関銃」「スマイル」「パパとムスメの7日間」「氷の世界」「エンジン」「流星の絆」「離婚弁護士 2」「絶対彼氏」「銭ゲバ」「プロポーズ大作戦」「華麗な一族」「ヒーロー」「チェンジ」「僕の妹」『<http://www.dramanote.com/>』『<http://www.kmplayer.com/>』『<http://gomtv.com/>』

謝 辞

本論文の執筆にあたり、多くの方々から御指導と御協力を賜り、学位論文として完成することが出来ました。

まず、私の主任指導教員の深見兼孝先生からは研究のみならず、留学生活を含め、多方面での御配慮と御支援をいただきました。また、先生から日本語は勿論韓国語についての御指導もいただいて対照考察が出来ました。私が急に先生の研究室にお伺いしてもいつも笑顔で御指導して下さい、研究で悩んでいる私を励まして下さいました。本当に心から感謝の言葉を申し上げます。

また、現在広島大学名誉教授で私の副指導教員の多和田眞一郎先生は形態論や統語論など対照研究において最も大事なところを御指導して下さい、今後の研究の方向性も御指導して下さいました。心から感謝の言葉を申し上げます。また、副指導教員の佐藤暢治先生と堀田泰司先生と高永茂先生からも私の勉強不足な分野など優しい御指導をいただきました。感謝申し上げます。

私が今まで日本で研究することが出来るように御指導と御相談を下さった韓国のハンバット大学校日本語科の先生方々にも感謝の言葉を申し上げます。特に、教育者の道へお導きいただき、ご配慮いただきました趙南星先生に心から深く感謝の言葉を申し上げます。

また、同じゼミの大学院生の皆さんと修士課程の同級生の皆さんにも、私の研究について自分の研究のように御意見と御指摘をいただきました。感謝の意を表します。

今まで私が無事に留学生活を終えることが出来るように御支援していただいた身近な日本の方々を含め、広島大学韓国人留学生会の留学生の皆さんにも感謝の意を表します。

最後にいつも健康のことをご心配していただき、研究や生活に悩んでいるときいつも元気付けていただき、経済的な面からも御支援をしていただ

いた韓国の家族にこの場を借りて、心から感謝の言葉を申し上げます。

平成24年8月8日

研究室にて